

資料 1

令和元年9月定例会（事前）
文教厚生委員会資料
教育委員会

令和元年度（平成30年度対象）

教育委員会の点検・評価

令和元年9月
徳島県教育委員会

【目次】

第1章 はじめに	1
1 趣旨	
2 点検・評価の対象	
3 点検・評価の方法	
4 構成	
第2章 教育委員会活動報告	5
1 教育委員会組織	
2 教育委員会の会議等開催状況	
3 その他の活動	
第3章 令和元年度（平成30年度対象）点検・評価項目実績値等一覧表	9
第4章 令和元年度（平成30年度対象）点検・評価概要（重点項目ごと）	17
第5章 令和元年度（平成30年度対象）点検・評価結果	35
重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進	37
重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進	56
重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進	90

第1章 はじめに

1 趣旨

県教育委員会では、とくしまの未来を切り拓く、夢あふれる「人財」の育成を基本方針とし、「徳島ならではの」教育の振興に取り組んでいます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。また、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされています。

このため、県教育委員会では、法の趣旨に則り、効果的な教育行政の推進に資するとともに、県民の皆様への説明責任を果たすため、今年度も「教育委員会の点検・評価」を実施し、報告書にまとめました。

2 点検・評価の対象

点検・評価の対象として、平成30年度における「徳島県教育振興計画（第3期）」（平成30年3月22日策定）に基づく主要施策を対象とすることとしています。

「徳島県教育振興計画（第3期）」の主要施策については、前年度分の実施状況の検証及び数値目標の達成状況の点検を、毎年度行います。

3 点検・評価の方法

- (1) 教育行政の諸施策や事務事業の取組状況について、点検・評価を行い、今後の課題や取組の方向性を明らかにします。
- (2) 点検・評価の客観性を確保するため、外部有識者からなる第三者機関「徳島県教育行政・点検評価委員会」において、ご意見・ご助言をいただきます。

○徳島県教育行政点検・評価委員会委員名簿

(50音順, 敬称略)

氏 名	役 職
上 野 ひとみ	東光株式会社 総務部長
奥 村 英 樹	四国大学生生活科学部長
佐 野 勝 代	徳島県消費者協会会長
東 條 貴 司	徳島県高等学校PTA連合会会長
三 隅 友 子	徳島大学教養教育院教授

4 構成

(1) 教育委員会活動報告

教育委員の就任状況や教育委員会の会議の開催状況等について記載しています。

(2) 点検・評価項目実績値等一覧表

「徳島県教育振興計画（第3期）」の3つの重点項目ごとに、重点的に取り組む事業を分類し、表にまとめています。

事業ごとに、目標値，平成30年度の実績値，工程を記載するなど進捗状況を明らかにしています。

(3) 点検・評価結果(重点項目ごと)

3つの重点項目ごとに，平成30年度における主な取組を記載するとともに，取組状況を踏まえた評価(成果と課題)及び評価を踏まえた今後の主な取組と方向性などを示しています。

(4) 点検・評価結果

3つの重点項目に分類された事業ごとに，事業目的と平成30年度における取組状況(進捗状況)を記載するとともに，取組状況を踏まえた評価(成果と課題)及び評価を踏まえた今後の取組及び方向性などを示しています。

第 2 章 教育委員会活動報告

1 教育委員会組織

○委員等の就任状況（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

氏名	平成31年3月31日現在の役職	異動状況
美馬 持仁	教育長	
辻 貴博	教育長職務代理者	
藤本 宗子	教育長職務代理者	H31. 1. 25 職務代理者就任
小林 信行	委員	
河口 雅子	委員	
菊池 健次	委員	H30. 12. 24 委員就任
松重 和美		H30. 12. 23 委員退任

2 教育委員会の会議等開催状況

原則毎月2回定例会を開催し、必要に応じて臨時会を開催した。

また、今後課題となる重要な案件について、事前に理解を深めるため、委員協議会を開催した。

(1) 平成30年度の会議開催状況

定例会：21回 臨時会：3回 委員協議会：16回 計 37回

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
定例会		2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	2	1	21
臨時会										1		1	1	3
委員協議会		1	1	2	1	2	2	1	1	1	1	2	0	15
計		3	3	4	3	4	4	3	3	3	2	5	2	39

(2) 平成30年度の議案等の付議状況

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
議案		5		4	7	6	1	4	8	1	10	4	12	62
協議事項			2	3		4	2	1	3	1	2	3	1	22
報告事項		3	2	4	5	6	4	4	4	3	2	2	7	46
計		8	4	11	12	16	7	9	15	5	14	9	20	130

3 その他の活動（主なもの）

（1）会議等への参加 14件（うち総合教育会議が3件）

（2）総合教育会議

回	開催日	議 事 内 容
1回	8月29日	テーマ：教育の情報化 ・本県の現状、取組状況 ・意見交換
2回	11月22日	・「徳島教育大綱」4年間の検証 ・「若者クリエイト部会」との意見交換 ・意見交換
3回	2月22日	・次期「徳島教育大綱」骨子（案） ・意見交換

（3）学校視察等の実施 3件

第3章 令和元年度（平成30年度対象） 点検・評価項目実績値等一覧表

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	工程				
						目標数値等 (H30年 度)	目標数値等 (R元年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進										
①	1	城ノ内中学・高校における公開授業の開催	—	推進 (H29)	推進 (H30)	推進	推進	推進	推進	推進
①	2	本県初の中等教育学校の開校	—	準備 (H29)	準備	準備	準備	開校	推進	推進
①	3	全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞（団体・個人）数	団体・個人	5団体・個人 (H29)	5	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人
①	4	鳴門渦潮高校のスポーツ科学機器を活用した体力測定人数	人	160人 (H29)	241	240	255	270	285	300
①	5	全国コンクール等での名西高校の入賞（団体・個人）数	団体・個人	61団体・個人 (H29)	115	65団体・個人	65団体・個人	70団体・個人	70団体・個人	75団体・個人
①	6	スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数	事例	3事例 (H29)	4	3事例	3事例	3事例	3事例	3事例
①	7	SSH合同発表会への参加校数	校	5校 (H29)	7	6	7	8	9	10
①	8	主要大学（スーパーグローバル大学）進学者数	人	297人 (H28)	290	340	340	340	340	340
①	9	東京大学、京大進学者数	人	26人 (H28)	28	44	44	44	44	44
①	10	ビッグデータ実証事業における活用者数	人	140人 (H28)	379	340	400	460	530	600
①	11	阿南光高校の開校	—	準備 (H29)	開校	開校	推進	推進	推進	推進
①	12	県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数（累計）	人	10人 (H29)	26	15	25	35	45	55
①	13	私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保	—	支援 (H29)	支援	支援	支援	支援	支援	支援
①	14	公私立高等学校連絡協議会の開催	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	15	児童生徒の作品やボランティア等を地域に提供した特別支援学校数	校	5校 (H29)	7	7	8	9	10	11
①	16	「とくしま特別支援学校技能検定」の受検者数（累計）	人	512 (H29)	1,086	800	1,200	1,600	2,000	2,400
①	17	県立特別支援学校高等部卒業生のうち就職を希望する生徒の就職率	%	100 (H29)	100	100	100	100	100	100
①	18	「ポジティブな行動支援」に取り組んだ園・学校の割合	%	準備 (H29)	20.2	20	40	60	80	100
①	19	研究協力校において作成した自律型学習教材の問題数（累計）	問	3,000 (H29)	3,644	3,200	3,400	3,600	3,800	4,000
①	20	「自立活動」等の指導が必要な生徒が在籍する高等学校における特別な指導の実施	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	21	特別支援教育に関するe-ラーニング研修支援システム問題にアクセスした件数	件	5,500 (H29)	7,173	6,000	6,200	6,400	6,600	6,800
①	22	「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」と連携した行動改善の事例数（累計）	件	74 (H29)	87	80	85	90	95	100
①	23	高校におけるインターンシップの実施率（全日制・定時制）	%	97.6% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	24	高校生産業教育展における来場者数	人	1,850人 (H29)	1,910	1,900	1,950	2,000	2,050	2,100
②	25	学校分散型「チェンスクール」実施地域数（累計）	地域	6地域 (H29)	6	6	7	8	8	9
②	26	学校一体型「パッケージスクール」実施地域数（累計）	地域	2地域 (H29)	3	3	3	3	4	4
②	27	高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数	回	15回 (H29)	20	20	22	24	26	28
②	28	テレビ会議システムの利用回数	回	550回 (H29)	559	550	575	600	625	650

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	工程				
						目標数値等 (H30年 度)	目標数値等 (R元年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
②	29	電子黒板を活用した公開授業の実施回数（累計）	回	5回 (H29)	10	10	20	30	40	50
②	30	高校を拠点とした地方創生の推進	—	—	推進	推進	推進	推進	推進	推進
②	31	「デュアルスクール」モデル化に向けてのモデル試行実施回数（累計）	回	7回 (H29)	11	12	18	24	30	36
③	32	県立学校への防災士資格を有する教職員の配置率	%	100% (H29)	100	100	100	100	100	100
③	33	防災人材育成センター等と連携した教職員のスキルアップ	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	34	地域に残された災害記録の普及・啓発	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	35	体育館等におけるトイレの洋式化率	%	28% (H29)	63	50	75	100	100	100
③	36	地域と連携した防災ボランティア活動の推進	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	37	中学・高校生防災士養成数（累計）	人	360人 (H29)	514	500	600	700	800	900
重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進										
①	38	鳴門教育大学との連携	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	39	「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率	—	調査で対象となっている国語・算数（数学）で全国平均正答率以上（H29）	中学校国語A、数学A、Bにおいて全国平均正答率以上	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上	全国平均正答率以上
①	40	情報活用能力の育成に関する指導計画の作成	—	—	準備	準備	策定	推進	推進	推進
①	41	プログラミング教育に関する年間指導計画の作成	—	—	準備	準備	策定	推進	推進	推進
①	42	一日10分以上読書（新聞等を含む）をする児童生徒の割合	%	小学校5年生 89%（H29） 中学校2年生 84%（H29）	90 80	90 85	91 86	92 87	93 88	94 89
①	43	自然体験・交流体験等への参加者数	人	813人 (H29)	929	900	900	900	900	900
①	44	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において全国平均を上回る種目数	種目	11種目 (H29)	10	17	17	17	17	17
①	45	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において運動好きの子どもとの割合が全国平均を上回るカテゴリー数の割合	%	100% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	46	ICTを活用した手軽にできる運動のランキング判定システムの参加グループ数	グループ	3,535グループ (H29)	3,835	3,600	3,700	3,800	3,900	4,000
①	47	小・中学校への栄養教諭の配置人数	人	57人 (H29)	60	60	61	62	63	64
①	48	栄養教諭・学校栄養職員による食に関する授業を半分以上の学年で実施する小・中学校の割合	%	100% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	49	学校給食に地場産物を活用する割合	%	35% (H29)	43.8	35	35	35	35	35
①	50	生活習慣改善等の健康課題に対する取組を、学校教育計画に位置付け、推進している学校の割合	%	100% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	51	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において肥満傾向を示す本県児童生徒の出現率	—	調査で対象となっている小5男女、中2男女が、全国平均出現率を上回る	小5男女 中2男女 全国平均出現率以上	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下	全国平均出現率以下
①	52	薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合	%	100% (H29)	99.3	100	100	100	100	100

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	工程				
						目標数値等 (H30年 度)	目標数値等 (R元年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
①	53	幼稚園等と小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合	%	87% (H29)	96	92	94	96	98	100
①	54	小・中学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合	%	77% (H29)	78	90	92	95	97	100
①	55	小・中学校間における教員の人事交流	人	18人 (H29)	19	18	18	18	18	18
①	56	スクールカウンセラーの配置校数（拠点校）	校	78校 (H29)	79	79	80	81	82	83
①	57	スクールソーシャルワーカーの配置人数	人	22人 (H29)	23	23	23	23	24	24
①	58	“あわ”じんけん講座の充実	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	59	人権教育研究指定校数	校	8校 (H29)	8	8	8	8	8	8
①	60	講師派遣による研修等の受講者の満足度	%	90%以上 (H29)	95	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
①	61	中・高生による人権交流集会参加者の満足度	%	75% (H29)	92	75	75	80	80	85
①	62	人権教育総合推進地域の指定地域数	地域	2地域 (H29)	2	2	2	2	2	2
①	63	社会教育における人権教育指導者研修会受講者の満足度	%	90%以上 (H29)	98	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
①	64	命に関する作品募集の応募作品数	点	5,531点 (H29)	5,135	5,000点 以上	5,000点 以上	5,000点 以上	5,000点 以上	5,000点 以上
①	65	「とくしま教員育成指標」を踏まえた研修受講者の満足度	—	準備 (H29)	98.3	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上
①	66	県内外大学における教員採用に係る説明会開催数	回	19回 (H29)	20	20	21	22	23	24
①	67	リーダーシップ養成研修受講者数（累計）	人	準備 (H29)	143	110	220	330	440	550
①	68	ICTを活用した授業実践の研修受講者数	人	400人 (H29)	444	400	410	420	430	440
①	69	英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数（累計）	人	436人 (H29)	678	580	830	1,080	1,330	1,580
①	70	各県立学校及び市町村教育委員会におけるコンプライアンス研修（要請）の実施回数	回	39回 (H29)	45	40	40	40	40	40
①	71	研修の充実や相談制度の利用促進、きめ細かな復帰支援の実施	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	72	公立学校共済組合等との協働により実施する、特定保健指導の推進につながる出前講座等の開催数	回	5	6	6	7	8	9	10
②	73	放課後や週末等における体験活動の実施率	%	80% (H29)	91	90	90	95	100	100
②	74	学校サポーターズクラブの登録数	団体	89団体 (H29)	93	93	98	103	108	113
②	75	高校生を対象とした読み聞かせの講習会等への高校生の参加者数	人	85人 (H29)	94	92	94	96	98	100
②	76	学校安全ボランティア（スクールガード）数	人	12,000人以上 (H29)	13,904	12,000人 以上	12,000人 以上	12,000人 以上	12,000人 以上	12,000人 以上
②	77	学校運営協議会制度を導入した学校数	校	16校 (H29)	18	16	18	18	20	20
②	78	定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	工程				
						目標数値等 (H30年 度)	目標数値等 (R元年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
②	79	私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保（再掲）	—	支援 (H29)	支援	支援	支援	支援	支援	支援
②	80	道徳の時間の授業参観を実施している学校の割合	%	小学校95% (H29)	97	100	100	100	100	100
				中学校81% (H29)	89	90	91	92	93	94
②	81	情報モラルコンテンツ数（累計）	コン テン ツ	27コン テン ツ (H29)	35	35	43	51	59	67
②	82	自然体験・交流体験等への参加者数（再掲）	人	813人 (H29)	929	900	900	900	900	900
②	83	とくしま親なびげーたーの派遣者数	人	85人 (H29)	118	100	100	100	100	100
②	84	社会教育関係者・団体を対象とした研修会への参加者数	人	696人 (H29)	825	700人以上	700人以上	700人以上	700人以上	700人以上
②	85	生涯学習情報システムへのアクセス件数	件	99,000件 (H29)	121,143	100,000	101,000	102,000	103,000	104,000
②	86	生涯学習情報システムへの人材・指導者、団体サークルの登録件数（累計）	件	990件 (H29)	1,004	1,000	1,010	1,020	1,030	1,040
②	87	マナビセンターの利用者及び受講者数	人	52,000人 (H29)	55,146	52,300	52,600	52,900	53,200	53,500
②	88	地域の活性化に取り組むリーダーを養成する講座の受講者数	人	680人 (H29)	743	710	740	770	800	830
②	89	サテライトオフィスを活用した講座の受講者数	人	—	26	20	40	60	80	100
②	90	文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数	回	270回 (H29)	333	270回以上	270回以上	270回以上	270回以上	270回以上
②	91	文化の森総合公園各文化施設入館者数総計（累計）	人	2,125万人 (H29)	2,250	2,205万人	2,285万人	2,365万人	2,445万人	2,525万人
②	92	博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館の学校への講師派遣回数	回	70回 (H29)	104	70回以上	70回以上	70回以上	70回以上	70回以上
③	93	公立小・中・高校及び特別支援学校における、主権者意識を高める教育の充実のための出前講座の実施校数	校	42校 (H29)	44	44	46	48	50	52
③	94	消費者教育研究指定校数（累計）	校	34校 (H29)	39	39	44	49	54	59
③	95	公立高校におけるエシカルクラブの設置率	%	33% (H29)	66	66	100	100	100	100
③	96	エシカル活動・作品を地域に提供した特別支援学校数	校	5校 (H29)	7	7	8	9	10	11
③	97	「新 学校版環境ISO」認証を取得した学校の割合	%	84.0% (H29)	86.0	86.0	86.5	87.0	87.5	88.0
③	98	6次産業化商品のプロデュース数（累計）	件	7件 (H29)	10	10	13	16	19	22
③	99	阿南光高校の開校（再掲）	—	準備 (H29)	開校	開校	推進	推進	推進	推進
③	100	県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数（累計）（再掲）	人	10人 (H29)	26	15	25	35	45	55
③	101	高校生産業教育展における来場者数（再掲）	人	1,850人 (H29)	1,910	1,900	1,950	2000	2050	2100

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	工程				
						目標数値等 (H30年 度)	目標数値等 (R元年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進										
①	102	「あわ文化検定」の受検者数	人	931人 (H29)	987	950	975	1,000	1,025	1,050
①	103	人形浄瑠璃伝承教室の参加者数 (累計)	人	1,658人 (H29)	1,689	1,698	1,738	1,778	1,818	1,858
①	104	「ふるさと文化人材バンク」を 活用し、あわ文化学習に関する 講師を派遣した学校数	校	60校 (H29)	78	65	72	79	86	93
①	105	埋蔵文化財総合センター利用者 数	人	9,200人 (H29)	14,325	9,300	9,300	9,300	9,300	9,300
①	106	史跡・埋蔵文化財保護関連行事参 加者数	人	350人 (H29)	494	470	470	470	470	470
①	107	国・県指定文化財件数	件	国99件 (H29)	101	100	101	102	103	104
				県335件 (H29)	335	336	337	338	339	340
①	108	博物館、近代美術館、文書館、 鳥居龍蔵記念博物館の学校への 講師派遣回数（再掲）	回	70回 (H29)	104	70回以上	70回以上	70回以上	70回以上	70回以上
①	109	阿南光高校の開校（再掲）	—	準備 (H29)	開校	開校	推進	推進	推進	推進
①	110	高校と大学の情報交流会や フォーラムの開催回数	回	2回 (H29)	2	2	2	2	2	2
①	111	鳴門教育大学との連携（再掲）	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
①	112	京都大学による出前授業やオー プン授業の実施校数	校	1校 (H29)	1	3	5	7	9	11
①	113	サテライトオフィスを活用した 講座の受講者数（再掲）	人	—	26	20	40	60	80	100
①	114	スーパーオンリーワンハイス クール事業実施校のうち、各分 野の全国大会・コンクールでの入 賞数（再掲）	事例	3事例 (H29)	4	3事例	3事例	3事例	3事例	3事例
①	115	6次産業化商品のプロデュース 数（累計）（再掲）	—	7件 (H29)	10	10	13	16	19	22
①	116	高校におけるインターンシップ の実施率（全日制・定時制） （再掲）	%	97.6% (H29)	100	100	100	100	100	100
①	117	県内外大学における教員採用に 係る説明会開催数（再掲）	回	19回 (H29)	20	20	21	22	23	24
①	118	札所寺院の国史跡追加指定に向 けた意見具申	—	—	意見具申	意見具申	推進	推進	推進	推進
①	119	「鳴門の渦潮」の世界遺産登録 に向けた取組の推進	—	学術調査の実施	調査	調査	調査	提出	推進	推進
①	120	小・中学生向け「鳴門の渦潮 学」講座の実施回数（累計）	回	準備 (H29)	5	5	7	10	12	15
①	121	「板東俘虜収容所関係資料」 「世界の記憶」登録に向けた取 組の推進	—	準備 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
②	122	小学校英語専科教員の配置人数	人	10人 (H29)	13	12	14	16	16	18
②	123	英語教育充実のための研修にお ける小学校教員の受講者数（累 計）（再掲）	人	436人 (H29)	679	580	830	1080	1330	1580
②	124	求められる英語力を有する生徒 の割合	%	中学校3年生 英検3級程度以 上47%（H29）	52	50	55	60	62	65
				高等学校3年生 英検準2級程度 以上41% (H29)	45	50	55	60	62	65

徳島県教育振興計画（第3期） 成果指標・工程表

推進項目	番号	事業名	単位	基準値 (基準年度)	平成30年 度実績	工程				
						目標数値等 (H30年 度)	目標数値等 (R元年度)	目標数値等 (R2年度)	目標数値等 (R3年度)	目標数値等 (R4年度)
②	125	児童生徒が世界を体感する英語体験プログラムへの参加者数（累計）	人	154人 (H29)	310	334	514	694	874	1,054
②	126	海外の学校等との交流校延べ数（中学・高校）	校	22校 (H29)	24	24	26	28	30	32
②	127	学校への日本語講師の派遣	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
②	128	国際科学オリンピック講習会の参加者数	人	220人 (H29)	222	225	230	235	240	245
②	129	S S H 合同発表会への参加校数（再掲）	校	5校 (H29)	7	6	7	8	9	10
②	130	鳴門教育大学との連携（再掲）	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	131	県高等学校総合体育大会生徒参加率	%	47.2% (H29)	48.6	49.0	50.5	52.0	53.5	55.0
③	132	全国高等学校総合体育大会等の入賞（団体・個人）数	団体・個人	47団体・個人 (H29)	37	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人	50団体・個人
③	133	全国中学校体育大会等の入賞（団体・個人）数	団体・個人	5団体・個人 (H29)	5	13団体・個人	14団体・個人	16団体・個人	17団体・個人	18団体・個人
③	134	全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞（団体・個人）数（再掲）	団体・個人	5団体・個人 (H29)	5	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人	5団体・個人
③	135	国民体育大会天皇杯順位	—	46位 (H29)	45	30位台	30位台	30位台	30位台	30位台
③	136	東京オリンピック・パラリンピック及びデフリンピックに日本代表として出場・参加できる本県ゆかりの選手、指導者数（累計）	人	—	—	—	東京オリ・パラの開催 14人	デフリンピックの開催	—	—
③	137	女性アスリート支援セミナーの開催	回	—	8	4	4	4	4	4
③	138	全国コンクール等での名西高校の入賞（団体・個人）数（再掲）	団体・個人	61団体・個人 (H29)	115	65団体・個人	65団体・個人	70団体・個人	70団体・個人	75団体・個人
③	139	人形浄瑠璃伝承教室の参加者数（累計）（再掲）	人	1,658人 (H29)	1,689	1,698	1,738	1,778	1,818	1,858
③	140	徳島県中学校総合文化祭の充実	—	推進 (H29)	推進	推進	推進	推進	推進	推進
③	141	近畿高等学校総合文化祭の充実	—	徳島大会準備 (H29)	開催	開催	推進	推進	推進	推進
③	142	文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数（再掲）	回	270回 (H29)	333	270回以上	270回以上	270回以上	270回以上	270回以上
③	143	文化の森総合公園各文化施設入館者数総計（累計）（再掲）	人	2,125万人 (H29)	2,250	2,205万人	2,285万人	2,365万人	2,445万人	2,525万人

第4章 令和元年度（平成30年度対象） 点検・評価概要（重点項目ごと）

重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならではの」教育の推進

推進項目① 個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進

主な取組状況

多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進

- 「主体的・対話的で深い学び実践研究公開授業」として、中高全てのクラスで5限目、6限目の2時間でICTを活用した授業を含む公開授業を実施した。また、中学校で2クラス、高校で4クラスが研究授業と授業研究会を実施し、多くの教員が参加して、熱心に協議した。
- 岡山大学と連携し、県立高校（3校）を対象に英単語の習得を目的としたビッグデータを活用したe-ラーニングを実施し、生徒の学習に関するデータを収集、分析した。大学等と連携した「教育ビッグデータ利用検討委員会」において、事業内容等の検証を行うとともに、教育ビッグデータの利活用について検討した。
- 私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行った。また、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会の均等を確保するため、高等学校等就学支援金や奨学のための給付金を支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。

障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援

- とくしま特別支援学校技能検定で培った技術を生かして、お接待活動等において飲み物の提供や清掃活動、児童生徒が作成した作品の提供、授業で身に付けたマッサージを実施した。また、地域協働活動として公共施設等の清掃活動も実施した。
- 将来の社会的自立に向けた学習の必要な生徒が在籍する高等学校において、コミュニケーション能力や社会性を育むためのソーシャルスキル・トレーニングを取り入れた実践を行った。自分の長所や適性など自己理解を深め、身だしなみ・挨拶の仕方などのソーシャルスキルを学ぶとともに、就業体験の実施や就職面接の練習といったキャリア教育の活動を、生徒の特性を踏まえて個に応じた行なった。
- 特別支援学校に在籍する専門性の高い教員を問題作成委員に任命し、指導主事とともにe-ラーニング問題を125問作成した。その結果、e-ラーニング問題の総数は958問となった。

次代を生きぬくキャリア教育の推進

- 「未来へつなぐキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」を開催（文科省調査官による講演等、研究校発表）した。
- 高校生産業教育展について、大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,910名となった。

評 価

- この公開授業には県内の中学校・高校の教員が多く参加して研修にも取り組むことができた。城ノ内中学・高校のリーディングハイスクールとしての成果を広く県内に普及するために、城ノ内中学・高校における研究を推進し、公開授業を継続して実施していくことが必要である。
- e-ラーニング、教育ビッグデータの分析手法を活用したICTによる個に応じた学習により、時間や場所を選ばない基礎的・基本的な学習が提供でき、生徒は効率的に英単語の語彙を身に付けることができた。
- 高等学校等就学支援金等を支給したことにより生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、「耀く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。
- 徳島視覚支援学校、板野支援学校、国府支援学校、阿南支援学校ひわさ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校は、お接待活動をとおして飲み物の提供や作品の配布等を実施できた。また、みなと高等学園は、地域協働活動として、清掃を主とした奉仕活動を展開することができた。生徒と地域がつながるこれらの取組をとおして、生徒たちの社会の役に立ちたいという意欲の向上や、地域の方々から「ありがとう」という感謝の言葉をいただくことにより、自己肯定感の高まりが見られた。

- 平成30年度は、高等学校11校において自立活動等の内容を取り入れた実践を行った。小学校や中学校からの学びの連続性を確保しつつ、生徒一人ひとりの教育的ニーズに即した適切な支援が提供できるよう、各高等学校において、自立活動の内容を取り入れた教育への理解を深めていくことが必要である。
- 特別支援教育コーディネーター研修会におけるアンケートで、受講者の91%が、事前及び事後課題としてeラーニングを設定することについて、「大変良かった」「概ね良かった」と回答した。また自由記述では、ほぼ全員が研修会当日の講義内容が理解しやすかったと答えた。
- 各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実を図る。
- 高校生の学習活動をアピールするという観点から、特に小中学生に進路指導の視点で多く参加してもらえようPR活動の工夫を図る。

今後の主な取組

- 城ノ内中学・高校では1学期に学校計画訪問を実施した後、2学期にも公開授業を実施している。リーディングハイスクールとして他校の模範となる授業ができるように、公開授業や研究授業等で支援していくとともに、その成果を普及するために、城ノ内高校の公開授業を広く広報して参加を呼びかける。
- 生徒の個々の学習状況を分析・可視化したフィードバックを活用し、生徒が意欲を持って学習を継続できるように実証校を支援する。また、徳島県「教育の情報化」推進フォーラム等において、実証事業の取組について報告し、教育へのビッグデータ活用について広く発信する。
- 引き続き、私立学校の振興と教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減、経営の健全性の向上を支援する。私立学校ならではの特色づくり、魅力アップ、預かり保育などの子育て支援の充実について、積極的に努力する学校を支援する。
- 特別支援学校間及び地域との連携がスムーズにできるように県教委が支援し、全ての学校が作品の提供やボランティア活動に参画できるようにしていく。
- 発達障がい等のある生徒の支援の充実を図るため、徳島県発達障がい教育研究会などの機会を活用して、将来の社会的自立に向けた学習指導内容や取組の有用性を広く発信し、情報共有を図る。
- eラーニング教材を総合教育センターで実施する教員研修の事前課題、事後課題として継続実施するとともに、研修受講者への聞き取りを行い、研修内容及び教材の改善を行う。
- 各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実を図る。
- 会場の選定も大切であるが、高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。

推進項目② 人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり

主な取組状況

徳島発の小中一貫教育の推進

- あわ(OUR)教育発表会や、小中一貫教育実践地区交流研修会において、チェーンスクールの実践地域である明神小・瀬戸中学校の取組を研究・発表し、県下の学校にその成果を普及した。
- 新たに那賀町立木頭小中学校をパッケージスクールに指定し、パッケージスクールの実践地域は、3地域となった。小中一貫教育実践地区交流研修会において、その取組の成果を発表した。

全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進

- 「高等学校における次世代の学習ニーズを踏まえた指導の充実事業」により、池田高校（本校・辻校・三好校）において、総合教育センター等から大学教授等による遠隔特別講座を実施するとともに、3校間での同時配信も実施することで、ICTを学校間連携に活用する際の効果と課題を検証した。
- 進化する教室イノベーション事業の実施校により、ICT活用に関する実証研究を行い、平成29年度実施校と平成30年度実施校が、意見交換会や情報交換サイトを活用し、得られた成果について、公開授業等で普及に努めた。

二地域居住を加速する学校間移動の実現

- 前年度から継続している東京の2家族により、美波町で2回、海陽町で2回の計4回実施した。また、名古屋の大型商業施設でのイベント実施（1回）、東京や大阪で県が主催する移住に関するイベントへの参加（3回）など、都市部でのPR活動を行った。

評 価

- 阿南市椿地区において、テレビ会議システムを引き続き運用し、普段から小中の交流が図られている。各地域においては、小中9年間を見通した特色のある教育活動が実践されている。その成果を小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会において、県下の学校及び関係者に広く普及した。
- 同一地域の社会教育施設との連携を密にした、学校・家庭・地域が一体となって取り組む地域総掛かりでの教育活動の充実・発展に向け、実践地域との連携を図りながら、実証事業を展開するとともに、その成果を県内に広報し、他地域へ普及していく必要がある。
- 大学教授等による専門性が高い講義内容など、都市部と同様の魅力ある特別講座や地域の地理的・文化的特性を生かした講座、キャリア教育に関する講座などを実施したことで、人口減少社会における新しい高校教育のモデルの一つとして活用できる、魅力ある学校づくりにつながった。
- 実施校においては、本事業に関する様々な取組を通じてICT活用授業を日常的に実施し、大きな成果を上げている。進化する教室イノベーション事業を実施していない学校とのICT環境整備に大きな差が生じない様にする必要がある。
- 本事業をメディアが紹介したり、これまでのPR活動の成果によって、県外での認知度が上がり、興味を持った方からの問合せが増加している。また、他県の教育委員会等からの質問や視察訪問も多数あった。

今後の主な取組

- 大学教授等の有識者を含む「小中一貫教育推進会議」を年2回開催し、各地域における実践の充実・発展に取り組んでいく。また、小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会において、その成果を県内外に広報・普及するとともに、市町村教育委員会と連携し、地域ごとに特色のある小中一貫教育の確立を目指す。
- 遠隔授業を、立地条件による教育格差の解消手段の一つとして活用し、人口減少地域における教育の質の維持向上や魅力ある学校づくりに活用するため、引き続き研究開発を進めるとともに、実施回数を増やしていく。
- 本事業で得られた成果をICT活用事例集にまとめ、全ての県立学校で活用できるよう普及啓発を図る。実施校にさらなる活用を働きかけると共に、全ての県立学校にICT環境を整えられる様に、進化する教室イノベーション事業を継続する。
- 本事業の対象となる家族の新規開拓に向けて、ターゲットに応じたPR活動を行う。また、いろいろなパターンの実施事例を積み重ねることで、市町村教育委員会や学校が行う転校に伴う手続きを簡素化する方法を検討すると共に、より活用しやすいシステムを構築していく。

推進項目③ 災害を迎え撃つ防災教育の推進

主な取組状況

防災知識の普及・啓発等の推進

- 平成30年度も、県立学校から防災士資格取得に意欲のある教員を募集選考の上、7名が徳島県地域防災推進員養成研修に参加した。その後、日本防災士機構の防災士資格取得試験を受験し7名全員が合格した。平成30年度までに、49名の防災士資格を取得した教員を養成し、全ての県立学校に配置した。
- 防災人材育成センターと連携を図り、平成30年5月16日に第1回学校防災研修会、平成31年1月7日に第2回学校防災研修会を開催し、教職員の防災に関する意識の啓発と防災教育に関する指導力の向上を図った。

学校を核とした地域防災力の向上

- 平成30年度は、衛星携帯電話33校、太陽光パネル付きLED照明灯（3校）、体育館天井材落下防止対策（1校）、地震時解除装置付き鍵ボックス（3校）、屋外トイレ改築等（2校）及び体育館トイレ洋式化（24校）の整備を行った。

- 「ふるさと大好き！地域防災推進事業」において、「防災クラブ」を全ての公立高等学校35校（徳島市立高校舎）と公立中学校38校に設置を広げ、地域の幼稚園や小学校との合同避難訓練や避難所運営訓練、文化祭でのパネル展示などの広報活動など、地域と連携した防災ボランティアに取り組むほか、7月に学校間の交流イベントを実施した。

地域防災を担う人材の育成

- 「あわっ子防災士養成講座」を開催し、平成30年度は中学・高校生141名が「防災士」の資格を取得した。防災士資格を取得した高校生は「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に積極的取り組みなど学校防災の牽引役として活動した。平成30年度までに、514名の防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に取り組んだ。また、7月に「中学生・高校生防災クラブ交流イベント」を開催し、研修を行うと共に他校との連携を図った。

評 価

- 人事異動により配置校の変更があることから、今後も継続して防災士養成に取り組む必要がある。また、研修等を通じ、防災士の資格を取得した教員の更なるスキルアップに取り組む必要がある。
- 学校防災研修会に参加した教員は、各学校において研修の成果を教職員と共有するとともに、積極的に地域と連携した防災学習や防災活動に取り組むことで、防災教育に係る指導力の向上が図られた。
- 避難所指定校35校のうち、平成30年度に20校において完了した。体育館等におけるトイレの洋式化改修を進めた結果洋式化率は63%となった。
- 引き続き、全県立高等学校に設置された「防災クラブ」の防災力を高め、地域と連携した防災ボランティア活動を推進するための取り組みと支援が必要である。
- 「防災クラブ」の活動を継続させるとともに、地域の関係機関や自主防災組織との協働を活性化させるため、地域防災のリーダーとなる「中学・高校生防災士」を継続して育成する必要がある。

今後の主な取組

- 引き続き、「教員防災士」の養成に努めるとともに、防災人材育成センター等と連携を図り、防災士の資格を取得した教員のスキルアップを図る。また、各校が行っている防災に関する取組事例について情報共有を図る体制を整備する。
- 学校防災研修会に加え、「教員防災士」を対象とした防災教育スキルアップ研修を開催し、教員の災害対応能力を高め、実践的な防災教育に取り組むことにより、災害発生時に児童生徒の命を守り、リーダーシップを取ることのできる力量を持った教員の養成を図る。
- 引き続き計画的に整備を行う。
- 地域と連携した避難訓練を推進するとともに、各学校の特色を生かした自主的な学校防災ボランティア活動展開のための支援を行う。また、他校の「防災クラブ」と交流を図り、防災活動を全県下に広げるとともに、市町村立中学校にも「防災クラブ」の設置を広げ、地域に根ざした防災活動を展開していく。
- 「チャレンジ防災人材育成推進事業」において、継続して防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を活動の拠点として、地域での防災ボランティア活動に参加するなど、学校防災の牽引役、地域防災の若い活力として資格取得で身につけた知識と技能の実践を図り、地域防災の担い手となる人材育成に取り組む。

重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

推進項目①

確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成

主な取組状況

「知徳体」が一体となった成長を支援

- 徳島「未来の学び」創造プロジェクトに基づき、学校訪問を実施し新学習指導要領の周知・徹底、学力向上確認プリントを作成・配布、鳴門教育大学と連携した「授業改善」推進校事業等を通して、各小中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現による、子供たちの確かな学力の育成を支援した。
- 「漁師さんから学ぶ海の『めぐみ』とその『食』」、「海辺の環境学習」、「もうすぐお正月」など、地域の住民や漁協組合、商工会、婦人会の協力により、地域の特性を生かした体験活動が行われ、県内各地から多くの人に参加した。
- 体育授業に専門性の高い大学教員や県内プロスポーツ団体、指導主事を派遣する「はつらつサポート（学校体育指導者派遣事業）」を県内70の小学校で実施し、運動の苦手な児童に目を向けた授業を展開することにより、体力・運動能力の向上及び教員の指導力向上を図った。

質の高い幼児教育の推進

- 県内2地域をモデル地域（阿南市・石井町）として幼小連携事業を進め、事業の成果を普及した。文部科学省の委託事業「幼児教育の推進体制構築事業」を活用し、アドバイザーによる幼小への訪問指導の中で、幼小連携の具体的な意義について啓発を行った。
- 平成30年度は小学校から中学校へ2名、中学校から小学校へ4名の計6名が新たに人事交流を行い、合計19名が異校種で勤務している。3年間の交流を終えた者は、原則として元の校種に戻るため、小中連携の強化に繋がった。

子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり

- スクールカウンセラーを拠点校79校（中学校72校、高等学校6校、特別支援学校1校）、対象校187校に配置した。また、県立学校からの要請に応じてスクールカウンセラーを学校等に派遣した。（県立学校への派遣：15校に356時間）
- 「中・高生による人権交流集会」には423名の参加者があり、講演後の分科会では、「在日コリアン」「児童虐待～子どもの人権～」の3テーマで各ブロックの活動の発表や意見交換が行われた。交流集会の午前中は遊芸芸能チングドゥルの公演を開催し、分科会後には各ブロックの報告会も実施した。

未来を拓く教職員の育成

- 総合教育センターで実施しているすべての研修講座において、終了時に受講者全員に対してアンケートを実施し、その質問事項の満足度の集計を実績値とした。実施したアンケート結果から、各研修講座の担当者が分析を行い、見出した課題についての改善を図った。
- 地域や学校でリーダーとしての役割を担うことが期待される教員を、市町村立小・中学校は各市町村教育長の推薦、県立学校は学校長の推薦により選出した。全国的な教育の動向、法令リスク管理、リーダーとして必要とされるコミュニケーション能力育成等幅広い視野から知見を得ることにより、県内の教育活動の質の向上を図った。
- 「出前！小英ヘルプデスク」を立ち上げ、小学校外国語教育を発展・充実させる上での課題や小学校外国語教育に携わる教員の不安要素についてサポートを行った。小学校教員の英語力及び指導力向上に特化した「英語中核教員研修A（小学校）」を実施し、各基本研修においては模擬授業や演習等を実施するなど、小学校教員の英語力や指導力の向上を図った。

評価

- 各校において、全国学力調査等の結果分析に基づいた授業改善を実施し、さらに学力向上確認プリントを活用した学力向上のPDCAサイクルの構築を行うことができた。
- 地域の方々との交流が広がり、協力を得て、アイデア豊富な体験活動の回数を増やすことで参加者の増加につなげることができた。
- 平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「運動やスポーツは好き」「体育の授業は楽しい」と回答した割合が、小学校男女、中学校男女ともに全国平均値を上回っており、運動やスポーツに対する良好な意識が形成されている。

- 昨年度と比較して、幼稚園・小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が増えている。県「学びのかけ橋」推進事業及び文部科学省の委託事業「幼児教育の推進体制構築事業」の成果が現れていると考えられる。
- モデル地域以外への成果の更なる普及を図るとともに、教職員の異動等があっても、継続的に幼小連携を行うための組織体制づくり及びカリキュラム編制を進めていく必要がある。
- 小中交流を実施することで、義務教育の9年間を見通しながら、専門性を生かした教育活動が展開できた。また、教員の資質の向上と小中連携の強化に繋がった。
- スクールカウンセラーの配置拡充に伴う人材確保が困難である。また、相談件数が増加する中、県立学校や教育支援センターへの配置や派遣の拡充が必要である。
- 人権交流集会当日は、中学生・高校生・特別支援学校の生徒・教職員・保護者等が多く参加し、各ブロックや全体会で活発に交流ができた。
- 各研修講座において、様々な教育的課題や目的、受講者のニーズ等に応じた研修内容を実施するため、実施した研修についての検証を行い、よりよい研修の実施に向けて改善を図っていく必要がある。
- 地域や学校を広い視野で捉えた組織的な教育活動を展開し、人材育成に積極的に取り組む教員の育成のための研修となり、受講者の22.4%が、教頭、主幹教諭、指導教諭等に昇任した。
- 学習指導要領改訂に伴う英語教育大改革を受け、小学校教員は新設された英語科の指導に強い不安感をもっている。小学校教員の多岐にわたる悩みや課題を解決するための研修を負担軽減も考えながら実施することが必要である。

今後の主な取組

- 学力向上推進員研修会において、学力向上推進員の役割について周知を行うとともに、優良な取組について県内へ広く周知を行う。また、国語力向上タスクフォースの提案の授業への活用等を通して、児童・生徒の「読み取る力」の育成を図る。
- 参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実し、効果的な事業を実施する。
- 引き続き、はつらつサポート（学校体育指導者派遣事業）を実施し、学校体育における指導力の向上を図り、運動に対する良好な意識を高めるとともに、運動習慣の確立に向けた支援を行う。
- モデル地域において、就学前教育と小学校との連携を図るカリキュラム編制について調査研究を進め、各種研修会やあわ教育発表会で周知を図る。
- 人事交流の趣旨と制度の概要について周知を図り、交流希望者の確保を図る。新任近距離勤務終了者が3年間の小中交流を希望した場合、これをもって遠距離勤務とみなすことで、交流希望者の増加に繋げる。
- 県立学校の拠点校化、教育支援センターへの配置拡充により、教育相談の充実を図る。また、職能団体や大学等と連携し、スクールカウンセラーの人材の確保や研修等による資質の向上に取り組む。
- 今年度も引き続き、人権交流集会で年間3回の実行委員会と生徒部会、中南西の各ブロックで実行委員会と生徒部会を実施し、分科会で研究するテーマを決定する。12月22日開催予定の交流集会では、人権コンサートと3分科会を実施する方向で計画を進めている。
- 全ての教職員が主体的に学び、自己を高め、学校目標を達成できるよう、キャリアステージに応じた体系的な研修の充実を図る。喫緊の課題に対応するために、地域や校内のリーダーを養成するリーダーシップ養成研修や小学校英語教科化に伴う専門性向上を図る研修の充実に取り組む。
- 研修後の状況やアンケートを踏まえて、地域や学校の中心となって活躍し、今後の徳島の教育を牽引できるような人材の育成を目指し、内容や講師の選定、時間配分等を検討し、さらに実りある研修となるよう、研修の改善を進める。
- 新学習指導要領のねらいを踏まえた授業が実施できるように、授業改善及び英語指導力向上を図るため、発音トレーニングを取り入れた研修を実施する。また、英語教育に携わる教員の力量をアップし、県内のすべての児童の発信力強化のため、小中高連携に取り組む。

主な取組状況

地域総ぐるみの子育ての実現

- 「子供の豊かな学び推進研修会」では、県内の放課後子供教室の事例報告やワークショップを実施した。「放課後子ども総合プラン研修会」では、鳴門教育大学の准教授による講演及びワークショップを実施し、ワークショップにおいてそれぞれの教室の取組や課題等について共有することができた。
- 「小学校区又は中学校区」で学校支援に取り組む婦人会、青年団、自治会、老人クラブ、ボランティアグループ等の地域団体の連合組織を「学校サポーターズクラブ」として、平成30年度は新たに4クラブを認証し、認定証とフラッグを授与した。このことにより、累計で24市町村93クラブとなった。
- 海陽町立宍喰小学校・宍喰中学校にコミュニティ・スクールが導入され、県下の18校において、地域とともにある学校づくりの推進が展開されている。

すべての子どもに均等な教育機会の提供

- 本年度は、定時制通信制を合わせて、189名の生徒が定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を活用した。

豊かな心の育成

- 校長会、道徳教育推進教師研修会、教育課程研究集会等の各種研修会において、道徳ノートの工夫や授業参観の実施等、家庭との連携の推進・工夫について、具体例を交えながら説明を行った。
- 情報モラル指導者研修会にて徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修を行った。1日研修としたためワークショップにおける情報共有の時間が十分に確保できたため、参加者の満足度が高かった。

家庭教育支援の充実

- 「とくしま親なびプログラム」ファシリテーター養成講座を、3日間6講座実施し、25名が受講した。また、県内の幼稚園・学校等27か所においてワークショップを実施し、「とくしま親なびげーたー」118名を派遣した。

生涯にわたって学び続ける環境づくり

- 県内の活動実践事例の報告及び報告をもとにしたワークショップにより、社会教育推進の機運を高め、ネットワークづくりにつながった。また、社会教育ファシリテーターを養成するとともに、学びの循環として養成講座修了生が各研修大会にファシリテーターやボランティアスタッフとして参加した。
- マナビィーセンター主催講座をはじめとする各種講座の広報に努めるとともに、書架の増加等によって蔵書の拡充を図り、利用者の利便性向上にも努めた。
- 「ジャングルいきもの図鑑」「100万回生きたねこ 佐野洋子の世界展」の開催のほか、「県指定有形文化財 青蓮院十一面観音菩薩立像」の特別陳列や勝浦町で発見された恐竜化石の公開展示を行うなど、多様な文化を発信した。

評 価

- 地域での放課後等における多様な学びの場づくりが、放課後子供教室などで推進されている。地域人材の発掘やネットワーク化が必要である。
- 累計で全24市町村で93のクラブを認証し、地域による学校支援活動の継続につながった。制度を周知し、学校を支援する団体としてネットワークをつくることが重要である。
- 学校運営協議会を継続的に推進するための支援メンバーの不足、協議の形骸化、地域連携コーディネーターとなるべき人材の育成、導入に向けての管理職や担当教職員の業務の負担増が課題である。
- 活用する生徒が増加しつつあり、定時制過程及び通信制課程での修学に役立っている。定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を必要とする生徒の増加が見込まれる中で、支援体制を継続し、充実させることが必要である。
- 「考える道徳」「議論する道徳」等に向けた授業改善が進んでいるものの、一方で教師の力量の差が見られる。教師の力量を高めるとともに、学校全体としての取組を充実させる必要がある。

- 情報モラル研修会にて徳島県の情報モラル教育コンテンツの認知度が高くなり、一時的にアクセス数が増加したが、まだまだ認知度が高まったとは言い難い。
- 「とくしま親なびげーたー」を派遣して県内27か所で実施されたワークショップでは、1,367名の保護者が参加し、保護者間の関係作りや家庭教育についての意見交換・相互研修を行うことができた。
- 公民館をはじめとした社会教育関係者や社会教育関係団体、NPO法人等の参加があり、多様な活動について、意見・情報の交換を進めたことで、参加者の意識向上が図られた。また、社会教育担当職員の資質向上と情報の共有化が図られた。
- マナビィーセンター主催講座の実施数を増やすことで学習機会の提供の充実を図るとともに、広報活動にも注力したことで受講者数が伸びた。
- 来館する度に新たな発見ができるような、多様な文化を発信するため、収蔵資料のさらなる活用と、より魅力ある手法の開発が必要である。

今後の主な取組

- 各事業間の連携を図るとともに、地域の人材や団体が交流し、新たな連携が期待できるような機会を創出する。
- 学校を支援している団体やグループ等のネットワークづくりを促進していく上で、認証制度が有効であることを周知するとともに、認証にあたっての取組を支援する。
- コミュニティ・スクール導入校における成果や課題をもとに、他県の先進地域の取組を参考にしながら、一層の普及・推進のために、その意義や有用性について広く周知していく。また、小中一貫教育推進地域においても、コミュニティ・スクール導入に向けた協議・研究を事業計画の1つとして位置づけ、地域とともにある学校づくりの推進に向けた取組を充実させていく。
- 定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を推進していく。
- 道徳授業の充実を図ることはもちろん、各教科等との関連を図るなど、学校教育全体で道徳教育の推進を図る。また、家庭・地域社会との連携をよりいっそう推進するための、研修体制や推進体制のさらなる充実を図る。
- 全校種を対象にして、平成30年度から3年計画で徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修会を行う。また、そのコンテンツを授業に活用してもらえるよう、毎年8本ずつコンテンツの追加し、内容の充実を図る。
- 県内の各幼稚園・学校・公民館等へ「とくしま親なびげーたー」派遣の周知を継続的に行う。また、中高校生を対象とした家庭教育に関する教材を開発し、それをを用いたワークショップを実施することで、次代の家庭教育を担う若者の育成を図る。
- 県内の社会教育委員、社会教育団体関係者等を対象とした研修会への参加者の拡大と、地域課題解決、持続可能な地域づくりといった新たなテーマを取り入れるなど研修内容の充実を図る。
- 新着図書や新規購入視聴覚教材の広報等の充実を図り、利用者の便宜を図る。また、実施講座については、より一層広報に努める。
- 文化の森開園30周年に向けて「とくしまの恐竜時代」や「美人画の雪月花一四季とくらし 培広庵コレクションを中心に」展など魅力ある企画展を開催するとともに、博物館における新未来型展示の実現を図る取組みを推進することにより、県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供し、あわ文化発信拠点として、芸術文化活動の促進に寄与する。

主な取組状況

将来を担う若者への主権者教育の充実

- 市町村選挙管理委員会や大学と連携した出前講座（社会参画の意義や選挙制度について講義、模擬選挙や模擬帳票）を小学校、中学校において14校、高等学校特別支援学校において30校実施した。

全国モデルの消費者教育の推進

- 研究校においては、地域とのつながりを意識した教科横断的な消費者教育を展開できた。指導者養成講座や講演・出前授業については、多様な主体と連携し、深化させることができた。ポスター募集では、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、啓発資料としての活用を図ることができた。
- 公立高等学校28校にエシカルクラブが設置されたことにより、高校生に消費者市民としての意識が醸成されるとともに、「エシカル消費」の周知を進めることができた。
- 各特別支援学校にリサイクル資材の回収ボックスを設置し「特別支援学校エコステーション化」を図ることができた。また、リサイクル資材から作った品を四国霊場札所でお遍路さんへ配布した。さらには、地元事業所等と連携し、子どもたちのアイデアや地元の特産を生かした新たな商品や製品の開発を行った。

未来へつなぐ環境教育の推進

- エコリーダー養成講座の開催やホームページ等による認証取得校の取組や環境教育に関する資料の情報発信を行った。

新たな成長産業を生み出す教育の推進

- 徳島ならではの生産物をテーマに、県下各3地域で展開。県央では「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校、県南では「ゆこう」をテーマに、小松島西高校勝浦校、新野高校、阿南工業・阿南光高校、富岡東高校、県西では「アロマオイル」をテーマに、池田高校三好校・辻校、つるぎ高校での学校間連携により、生産・商品開発・加工・販売について協働活動・情報交換を行い、各自の専門性を学んだ立場から、6次産業化商品のプロデュースに取り組んだ。
- 「植物バイオ技術によるイシマササユリ保護活動」、「LED照明による水耕栽培システム」、「ドローン操作及びび活用講座」における徳島大学との連携活動、6次産業化に取り組む先駆者による「6次産業化実践講座」を実施した。また、宝田キャンパスへの「ビジネスシミュレーション実習機器・協働ロボット実習機器」の整備及び新野キャンパスにおける徳島大学との教育・研究開発拠点「とくしまイノベーションセンター」の改修や地域開放拠点「生徒会館」のリノベーションを行った。平成31年3月、阿南工業高校と新野高校が閉校し、両校2年生が3年生に進級と同時に阿南光高校へ転学することで、阿南光高校として、3学年が揃うこととなった。
- 全国木育サミットへの参加や林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。林業に係る高校（学科）においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取組、林業関連産業への就職推進に努めた。

評価

- 出前講座を実施した各学校においては、児童生徒の主権者としての意識の高まりを感じられる感想が多々見られる。高等学校や特別支援学校における出前授業は、様々な形で実施されている。小学校、中学校における主権者教育についても具体的、計画的に実施する必要がある。
- 幼・小・中・高の接続を意識し、より系統的・体系的な消費者教育を推進していく必要がある。
- 全ての公立高等学校に「エシカルクラブ」を設置し、高校生による持続可能な社会の形成に向けた「エシカル消費」の普及推進を図る必要がある。
- 板野支援学校、国府支援学校、阿南支援学校ひわさ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校がお接待活動等に取り組み、児童生徒の作品等を提供することができた。また、阿南支援学校及びみなと高等学園は、地域の企業等と連携し、児童生徒のアイデアを生かした商品や製品の開発を行い、販売等を行うことができた。

- 新規申請7校、継続申請119校の認証をし、平成30年度末での「新学校版環境ISO」認証割合が、小・中学校、高等学校、特別支援学校の86.0%となった。
- 県下3地域における農業科、工業科、商業科設置校等の連携により、昨年までにプロデュースされた商品を踏まえ、6次産業化商品（県央：洋菓子、県南：ゆこうドラ焼き、県西：アロマ石けん）をプロデュースし、新たな商品の試作に取り組むとともに、一部の開発で販売への展開を進めることができた。
- 徳島大学との高大連携教育及び6次産業化教育に向けての連携活動の取組が行われ、宝田・新野両キャンパスの施設設備も整備されたことから、次年度からの高大接続教育や産業界と連携した教育に向けて、環境が整った。
- 継続的に林業関連産業への従事者が確保できるよう様々な機関と連携し、林業について理解を深める機会の確保に努める。林業に関する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める必要がある。

今後の主な取組

- 主権者教育の出前講座を進めるにあたり、講義型の講座だけではなく、ワークショップや模擬投票等、児童生徒が主体的に参加し、相互に意見を出し合い、主権者意識を高めることができる取組を各学校要望を聞きながら、選挙管理委員会や大学教員と連携し、出前講座の実施を進め、主権者としての意識を高めていきたい。
- 引き続き、幼児期からの発達段階に応じた消費者教育の充実・強化に消費者庁や県内大学等と連携し取り組んでいく。
- 学校が多様な主体と連携し、「エシカル消費」に関する研究・実践を推進することにより、生徒の消費者力の育成を図るとともに、令和元年度末までに「エシカルクラブ」を全ての公立高校に設置する。
- 学校単独での作品展示や作品配布が難しい場合は、既の実施している学校との共同実施を促すなど、学校間の連携を支援することで、全ての学校がエシカル商品や製品を地域に提供できるようにしていく。
- 平成30年度末で認証期間が終了した79校の継続申請の推進を図るとともに、市町村教育委員会と連携して、小学校・中学校の新規申請を推進する。また、エコリーダー養成講座を通じて、認証が100%である公立高校・特別支援学校の取組の充実を図る。
- プロデュース商品の新たな魅力化、生産方法・工程での改善、販路開拓等による事業の拡大・発展を図るため、学校間連携はもちろんのこと、地域や企業と積極的に連携を展開する。
- 徳島大学サテライトキャンパスと位置付けられている新野キャンパスにおいて、高大接続教育の拠点施設「とくしまイノベーションセンター」や「LED植物工場」の運用に関する徳島大学との協議、産業界や地域との調整を進め、連携活動を展開する。
- 林業について理解を深める機会を情報提供するとともに、林業に関係する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める。

重点項目Ⅲ グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

推進項目① 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進

主な取組状況

郷土愛を育む教育の推進

- 徳島の伝統文化と文化財を学校で学ぶための教材として作成した「あわ文化テキストブック」を活用するための、教師用指導教材解説集並びにワークシート集を配布し、全ての公立中学校の1年生、2年生に、本県の歴史・自然・芸術に関する学習教材を使った文化授業や、県独自文化の体験授業を行うとともに、あわ文化検定等の「あわ文化に関する教育」を実施した。
- 登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」等を会場として阿波人形じょうりり伝承教室を7日間開催し、31名の小・中学生の参加があった。
- 学校に「ふるさと文化人材バンク」の活用を周知するとともにホームページ等でも活用の周知を図り、年間を通じて「ふるさと文化人材バンク」への追加登録に努めた。

大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大

- 徳島県教育委員会LINE「Go! Tommorrow」を活用し、大学生から高校生への情報提供等、大学入学者選抜改革セミナーや高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター）」出張講義一覧」を総合教育センターのHPで掲載するなどを行った。
- 鳴門教育大学との連携協定に基づく、各部会における連携の推進により、各学校における学力向上や生徒指導力の向上、教員研修の在り方等について、教員の意識や学校力の向上において、改善が図られた。
- 「オンリーワンとくしま学講座」（9月15日）・（1月12日）の全2回、県立総合教育センター（メイン会場）の他に、県立図書館3階集会室をサテライト会場とし、メイン会場の講座の様子を同時中継することで学びの場の提供を行った。

若者による未来志向のアイデアの創出

- 4月に事業説明会を実施し、目的や内容をていねいに説明するとともに、学科や校種を問わず広く応募してもらえるような環境の設定に努めた。また、実施校には、事業成果を全国に発信するため、全国規模の大会やコンクールへの出場申請をはじめ、HPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。

「とくしま回帰」の促進

- 「未来へつなぐキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」を開催（文科省調査官による講演等、研究校発表）した。
- 平成24年度からこれまで優秀な教員の確保のため、大学での説明会の回数を拡充してきた。その結果、志願者は平成29年度実施の採用審査では受審者が5年ぶりに増加し、平成30年度実施の採用審査では、受審者は減少したものの、微減にとどまっており、着実に成果が表れつつある。

世界遺産登録への挑戦

- 極楽寺と平等寺の総合調査と測量を実施するとともに、牟岐町から海陽町にかけての遍路道「東寺道」の18kmの調査を実施した。
- 平成30年5月、兵庫・徳島両県の合同開催による「学術調査委員会」を初めて開催し、世界遺産登録に向けた今後の方向性について意見交換を行った。また、平成30年10月には、「顕著な普遍的価値」を証明するための「追加・本格調査」の中間報告を行い、平成31年3月に調査報告をとりまとめた。
- 東京都内（渋谷区Bunkamura BOXギャラリー）・京都市内（京都文化博物館別館ホール）において、周知広報のため、板東資料の実物の特別展示会を開催した。また、これまでに作成した広報資料（ポスター、パンフレット、動画コンテンツ）などを多言語化し、ドイツ国内の巡回展でも利用してもらうなど広範囲での活用を図った。さらに、出張授業など県内への周知も継続して実施した。

評 価

- 「あわ文化検定」については、平成30年度の受検申込数は1,044名、受検者数は987名（インフルエンザ等による欠席）と、増加傾向にある。また、「総合的な学習の時間」等での学校全体での取組が充実してきており、研修での実践事例の共有を行うこともできた。
- 人形浄瑠璃の振興については、会場として登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」を活用し、子供たちに本格的な芝居小屋での発表会を企画することができた。参加者の中から、平成30年11月18日に徳島県主催で実施された第3回ジュニア浄瑠璃フェスティバルに出演し、次世代後継者として県内外に存在感を示すことができた。
- 「ふるさと文化人材バンク」を活用し、外部人材を講師として迎えた学校が増加したことにより、各校での「あわ文化学習」への取組の更なる充実とともに、児童生徒の豊かな感性や情操の育成が図られている。
- 高校と大学の教育内容を円滑に接続するため、情報提供・周知等を行い、高大連携の強化につながった。また、情報交換会では、分科会でのより具体的な協議が実施でき、各校の取組への参考となった。
- 教員の人材育成については、大学院の改組を踏まえた研修の在り方等、有機的な連携を強化していく必要がある。また、学力向上については、各指定校の取組を県下全体へ広げていくことが求められる。さらに、問題行動防止については、各学校が抱える課題の解決に向けた効果的な事業展開を行う必要がある。
- 初めての試みであったが、目標値であった20人を上回ることができた。講座終了後の受講生へのアンケート調査からも、サテライトでの講座の実施回数を増やしてほしいなど、サテライトを利用した各種講座への期待の声が聞かれた。
- 毎年10校程度の応募校で推移している。また、応募校が固定化傾向にあるので、県下の多くの学校が学科や校種を問わず広く応募できるよう留意する必要がある。
- 生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に対する理解が深まった。
- 説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4回生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1～3回生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならない。
- 史跡指定を進めるとともに、顕著な普遍的価値の証明の議論を進める。
- 「鳴門の渦潮」について、「基礎的調査」「追加・本格調査」報告を受け、世界遺産登録に向けた「顕著な普遍的価値」を証明するための理論を構成し、「世界遺産暫定一覧表」の記載に向けた「提案書」を作成していく必要がある。
- 周知・広報については、板東資料について特に県外・国外についてはまだ十分とは言えないことから、ユネスコ申請・登録のタイミングまで今後も継続していく必要がある。また、申請登録については、ユネスコの制度改革が進められていることから、当初のスケジュールより遅れており、引き続きユネスコの動向に対応していかなければならない。

今後の主な取組

- 年度当初に実施する「あわ文化教育リーダー研修」において、実践報告や演習等を取り入れ情報共有を行うことで、取り組みやすいモデルを見だし、各校で、地域や学校の実態に即した「あわ文化教育」が展開できるようにするとともに、各市町村教育委員会や各中学校への更なる周知を図る。
- 公募期間の延長を図るとともに、学校における文化教育とリンクできるよう教育機関との連携を強化する。また、参加者の習熟度を確認しながら、講師に各自のレベルに合わせた指導内容を取り入れてもらい、伝統文化の興味・関心を高められるよう、サポートする。
- 地域や異年齢者とのつながりを強くし、地域への理解と愛情を深め、ふるさと徳島の魅力を積極的に発信できる人材の育成を図る。「ふるさと文化人材バンク」が学校現場でより一層活用されるよう、県内人材等と学校のニーズを把握しながら、新規人材の人材開拓に努める。
- より円滑な接続ができるように、協議会の内容の見直しやSNSの発信の仕方など情報提供等について工夫する。

- 各部会において、各学校が抱える課題の解決等、取組内容を明確にした上で、連携強化を図っていく。その中で、効果的な事業展開を推進し、本県教育の更なる充実につなげていく。
- 本年度は、「新未来とくしま講座」においてサテライトオフィスを活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。
- 応募ステージや実施分野を見直しするなど、実施要項を検討し、さらに事業説明会を通して学科や校種を問わず広く応募してもらえるような工夫に努める。また、全国規模やコンクールでの入賞数を数値目標に設定し、実施内容や継続性の充実、プレゼンテーション技術の向上を図る。
- 各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実を図る。
- 引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるよう大学とへの働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やし実施する。
- 札所寺院、遍路道の調査を進め、条件が整ったところから意見具申していくとともに、普遍的価値の証明についての議論を深めていく。
- 平成31・令和元年度に「世界遺産暫定一覧表」記載に向けた「提案書」を作成する予定である。
- 令和元年度には、日独協力の一環として、ドイツで実施した展示会を県内・県外でも実施し、周知・広報を継続していく。申請については、ユネスコの制度改革が2019年中には完了することから、申請受付が2020年となることが見込まれている（時期の詳細は不明）。ユネスコの動向に対応できるように、申請書の準備を進める。

推進項目②

世界に羽ばたくグローバル人財の育成

主な取組状況

徳島発、世界を体感できる環境づくり

- 小学校において、英語専科教員を13名配置し、32校で指導を行った。英語教育に関する校内研修の中核としての役割を担うとともに、複数校で兼務することで、より多くの児童への質の高い学びの機会を提供することができた。
- 「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標については、中・高等学校では全校で設定済みであり、現在は各校による公表や達成状況の把握を進めている。小学校に関しては、過去の研究開発で作成した小学校向けの「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標及び同じ校区の中学校が作成した「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を参考に、作成の準備を進めた。また、「先進とくしま『世界とつながる英語力』育成事業において、教員及び生徒の英語力の向上を図った。
- 小学校5年生から高校生の児童生徒に、外国人と交流し生きた英語を使う機会を提供した。また、児童生徒が徳島県の魅力を再発見し、その感動を外国人と共有することを促すような、特色のある内容のプログラムを実施することができた。

科学の魅力を実感し、世界に挑戦

- 国際科学オリンピック講習会を物理、化学、生物、地学の各分野で1回ずつ、数学で2回実施した。科学の甲子園徳島県予選では7校から計19チームが参加した。いずれの取組においても昨年度とほぼ同数の参加者数であり、参加した生徒は熱心に取り組んでいた。
- 教育会館において、生徒が授業や部活動で取り組んできた課題研究に関する発表を、口頭発表の部とポスター発表の部に分かれて実施した。審査員は、SSH運営指導委員、理科学会役員、教育委員会指導主事主事等合計27名で行った。いずれの課題研究も高校生らしい内容でしっかり準備されたものであった。

評 価

- 小学校教諭の中に、英語免許等、英語専科教員に求められる所定の資格保有者が少ないことや、小規模校の多い本県では単独校への配置が少なく、英語専科教員の多くが複数校を兼務しており、負担が大きい。
- 高等学校での取組の強化と、平成30年度で終了した「先進とくしま『世界とつながる英語力』育成事業」の成果の活用が課題である。
- 英語体験プログラムの内容が、小・中・高等学校の発達段階を適切に反映したものになるよう、常にコンテンツの見直しと改良を図り、より参加者のニーズに応えられるようにする必要がある。
- 平成29年度と同様に、ジュニアドクター受講生の小中学生も一部の講座に参加した。参加人数については、ほとんど変化していない。参加者に実施したアンケート結果では「科学に対する興味が深まった」等の効果があったという回答がほとんどであった。
- 新しい試みとして、城東高校のスーパーグローバルハイスクールとしての成果発表を合同で行った。異なる視点からの発表により、課題研究の内容が深まることが期待できる。また、これまでと同様に、部活動での取組を発表するといった、少人数での参加校もあり、このような取組を継続して支援していきたい。

今後の主な取組

- 小学校教員を目指す者が、英語専科教員に求められる所定の資格を取得するよう、大学等の関係機関に働きかける。また、小学校英語教育の充実を図るため、小学校教員採用審査受審者の資格保有者の増加を目指すとともに、中学校英語教員の小中学校間の人事交流を継続して進め、計画的な英語専科教員の配置を推進する。
- 中・高等学校では、各学校による「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の活用を進め、小学校では、全校で「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標を設定する。高等学校の取組を強化し、生徒の英語力の更なる向上を図るために、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の達成状況の把握による評価と指導の更なる一体化を進める。また、中・高等学校ともに、生徒の英語力の評価の際には、「先進とくしま『世界とつながる英語力』育成事業」のこれまでの結果を参照する視点を取り入れるよう意識付けを図る。
- 令和2年度より本格実施される小学校3・4年生の外国語活動を見据え、小学校3・4年生向けに新たに英語で外国人と交流し、世界を体感する場を提供するとともに、中学生・高校生向けの内容も改良に向けて検討を進めることを予定している。また、悪天候や異常気象の影響を受けにくい運営を考えていく。
- 教員の研修会や生徒が参加する講習会等で、これらの講座が高校生の主体的取組を育成する機会としても有効であることを広く周知する。
- 新学習指導要領では探究活動が重視されているが、理数系科目における探究活動はこれまで同様に重要であり、授業の中で実施していく必要があることを周知するとともに、SSH生徒合同発表会への参加を促していく。また、理数系の部活動の活性化についても、教員の研修会等の場を利用して呼びかける。

主な取組状況

世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり

- 「徳島トップスポーツ校育成事業」において、公立高校20校の36部を指定し、指導者の配置や、指定枠による有力選手の確保、遠征費等の強化費支援を行ったほか、「中学校トップスポーツ競技育成」において競技専門部を対象として、中学から高校へ継続して選手を発掘、育成、強化する取り組みにより、生徒数が300名弱減少する中、運動部活動の登録数は100名程度の減少であったため、県総体生徒参加率は増加した。
- 「中学校トップスポーツ競技育成事業」により、県中体連と連携し、7つの競技専門部（陸上競技、新体操、弓道、柔道、バスケットボール、バレーボール、ソフトボール）を指定して、強化練習、指導者講習、強化合宿等に係る助成や支援を行った。また「あわスポーツ・ブルーミング戦略事業」により、中体連加盟20競技において、補助金を配分し、強化練習会、指導者講習会等に係る助成を行った。
- 新たに創設された「東京オリンピック・パラリンピック徳島未来創造基金」を活用し、国体入賞に向けた強化を図る「オリンピック・国体チャレンジ事業」、有望選手を指定して育成強化費を助成する「オリンピック・国体選手育成事業」、有力な県内企業及び大学の運動部が行う練習会や遠征等を支援する「企業・大学スポーツ支援事業」、国体順位向上のための備品整備に対し助成する「国体バックアップ事業」、ジュニア世代からの一貫した強化に対し助成する「徳島育ち競技力向上プロジェクト」、スポーツコーディネーターを競技者、指導者、アスレチックトレーナーなどとして活用する「スポーツコーディネーター活用事業」、国体直前強化合宿、メンタルトレーニングなどの医科学サポート、講演会及びトレーナー派遣等を行う「競技スポーツ重点強化対策事業」を実施した。また、「福井国体」終了後、各競技団体に対してヒヤリングを実施し、課題の抽出や分析を行うとともに、強化策の検討を行った。

世界に輝く「あわ文化」の創造・発信

- 平成30年度より、私立中学校2校、道徳部会、総合的な学習の時間部会、特別活動部会が中学校文化連盟に加入し組織の拡充を図っている。
- 第38回近畿高等学校総合文化祭の徳島県開催により他府県との文化交流や、仲間との切磋琢磨を通して貴重な経験や確かな技術を得られた。

評 価

- 今後、県総体での活躍が期待される1、2年生の部員が主体となる全国選手権大会、選抜大会等では、前年度を大幅に上回る個人・団体合計24の入賞（前年度6）があり、選手層の底上げが図られた。
- 中学校スポーツにおいては、活動主体が各学校の部活動が中心であるため、学校単位の強化だけではなく、高校進学後を視野に入れた競技毎の強化も必要である。全国ベスト16に入っている競技についても更なる競技力の向上が求められる。
- 天皇杯30位台を実現するためには、入賞による獲得点数が高い団体競技を中心に、さらに全体的な競技力向上を図る必要がある。
- 徳島県中学校総合文化祭中央大会への来場者数は2,500名を超え、広く周知されてきている。また、全国高総文祭、近畿高総文祭への参加率も70%を越え、充実期を迎えている。
- 近畿高等学校総合文化祭を徳島県にて開催。県内外から6,500人の高校生が一堂に会して、総合開会式及び全19部門で日頃の成果を披露するとともに、他府県の高校生との交流が図られた。

今後の主な取組

- NEO徳島トップスポーツ校強化事業において、中学校には無い部活動や、新たな競技を知る機会として、競技団体を主体として、トップスポーツ校での中学生との合同練習会を実施する。
- 引き続き、県中体連競技専門部と連携し、トップスポーツ競技の育成を推進する。（今年度の指定競技：陸上競技、新体操、弓道、柔道、剣道、バスケットボール、ソフトボールの7競技）また、あわスポーツ・ブルーミング戦略事業においても、中体連加盟競技に補助金を配分し支援を行う。
- ジュニア期から優れた素質を有する競技者を発掘し、一貫指導体制によるトップレベルの競技者育成並びにトップ指導者の養成に努めるとともに、企業や大学等のスポーツ選手強化・育成事業への支援や、元オリンピック選手等による講習会の開催により、未来のトップアスリートの育成や県内選手の強化を推進する。
- 徳島県中学校文化連盟、徳島県高等学校文化連盟と連携し、中高生の文化芸術に親しむ機会の拡充を図るとともに、文化芸術力を高め、全国に向けての発信を行う。
- 記録映像や記録集による周知を図ることにより、文化活動に取り組む小中学生の裾野拡大を目指し、次代へ繋がる「文化レガシー」として継承していく。

第5章 令和元年度（平成30年度対象） 点検・評価結果

徳島県教育振興計画（第3期） 平成30年度 成果指標進捗状況等

重点項目Ⅰ 地方創生から日本創成へ！「徳島ならでは」の教育の推進

推進項目番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
1	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p style="text-align: center;">事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>学力分野のリーディングハイスクールである城ノ内中学・高校において取り組んでおり、ICTを活用した授業や、「主体的・対話的で深い学び」の観点に立った授業改善などの成果を、県内の中学・高等学校に広く普及し、質の高い学びの実現を目指します。【新規】</p> <p>「主体的・対話的で深い学び実践研究公開授業」として、中高全てのクラスで5限目、6限目の2時間でICTを活用した授業を含む公開授業を実施した。また、中学校で2クラス、高校で4クラスが研究授業と授業研究会を実施し、多くの教員が参加して、熱心に協議した。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">基準値(H29)</td> <td style="text-align: center;">H30</td> <td style="text-align: center;">H31・R1</td> <td style="text-align: center;">R2</td> <td style="text-align: center;">R3</td> <td style="text-align: center;">R4</td> <td style="text-align: center;">達成率(H30)</td> <td style="text-align: center;">目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】公開授業ではほぼ全ての普通教室でICTを用いた授業が展開されており、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業となっていた。積極的に取り組む教員が増加するとともに、授業力の向上が見られた。</p> <p>【課題】城ノ内中学・高校のリーディングハイスクールとしての成果を広く県内に普及するために、城ノ内中学・高校において、ICTを用いた授業等の授業力をさらに向上させるとともに、公開授業の参加者を増加させる必要がある。</p> <p>城ノ内中学・高校では1学期に学校計画訪問を実施した後、2学期にも公開授業を実施している。リーディングハイスクールとして他校の模範となる授業ができるように、公開授業や研究授業等で支援していくとともに、その成果を普及するために、城ノ内高校の公開授業を広く広報して参加を呼びかける。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進					/	推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
推進	推進					/	推進												
2	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p style="text-align: center;">事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>併設型中高一貫教育校である城ノ内中学・高校を、令和2年度から本県初の中等教育学校へ移行し、難関大学・学部、スーパーグローバル大学等への進学実績の向上をはじめ、リーディングハイスクールとしての効果を最大限に発揮する教育の推進に取り組みます。【新規】</p> <p>令和2年度の開校に向け、県内4地域における「ブレイン学会」や所要の条例改正を行うとともに、国内外の中高一貫教育校との交流を開始するなど新たな連携に取り組んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">基準値(H29)</td> <td style="text-align: center;">H30</td> <td style="text-align: center;">H31・R1</td> <td style="text-align: center;">R2</td> <td style="text-align: center;">R3</td> <td style="text-align: center;">R4</td> <td style="text-align: center;">達成率(H30)</td> <td style="text-align: center;">目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">準備</td> <td style="text-align: center;">準備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">準備</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】説明会を通して、本県初となる城ノ内中等教育学校の周知を図ることができた。また、独NS州ラーベ校、神奈川県私立聖光学院との文化交流活動や協働学習など、新たな教育活動に取り組むことができた。</p> <p>【課題】切れ目のない効果的な中高一貫教育を展開するため、教育内容や教育環境の整備が必要である。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	準備					/	準備
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
準備	準備					/	準備												

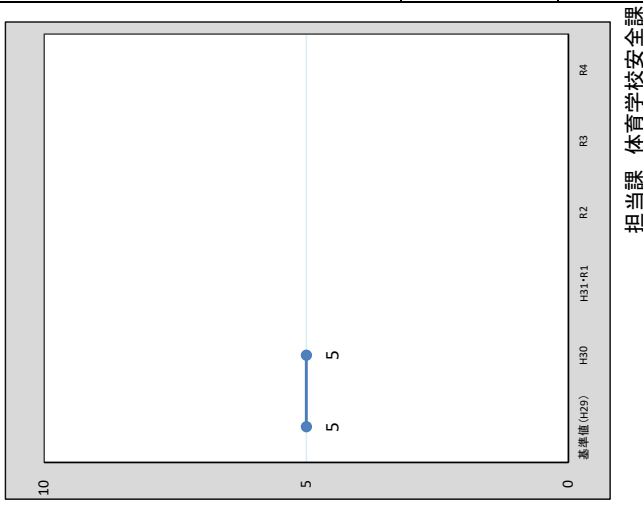
<p>番号</p> <p>3</p>	<p>推進項目</p> <p>個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進</p>	<p>施策の方向性</p> <p>多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進</p>	<p>実施の方針</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>
<p>番号</p> <p>4</p>	<p>推進項目</p> <p>個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進</p>	<p>施策の方向性</p> <p>多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進</p>	<p>実施の方針</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>

■ 施策・□ 成果指標

リーディングハイスクールの実現

■ 鳴門渦潮高校を拠点校とした、高度で質の高いスポーツ教育による、本県スポーツ科学の普及・振興

□ 全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞(団体・個人)数



事業目的

スポーツ分野のリーディングハイスクールである鳴門渦潮高校において、充実した施設・設備の活用を一層推進するとともに、県外強豪校との対戦・交流や関係機関、大学との連携を密にし、スポーツ拠点校としての機能強化と、更なる競技力向上を図ります。【改善】

取組状況(H30年度分)

「渦潮スポーツアカデミー推進事業」において

- 1 ユースアスリート科学サポーター事業として、最新の呼吸ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県トレナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医学的科学的なサポートを行い、受講者は241人に達した。
- 2 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理論に基づいた指導法に関する研修会を3回開催した。
- 3 スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目(女子サッカー、男子バスケット、硬式野球、陸上競技、柔道、女子ラグビー、男女ウェイトリフティング、男子剣道)に対して集中強化を図った。
- 4 Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チーム等を招へいし、合同練習等を実施した。

(単位：団体・個人)

基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)
5	5					100.0%	5

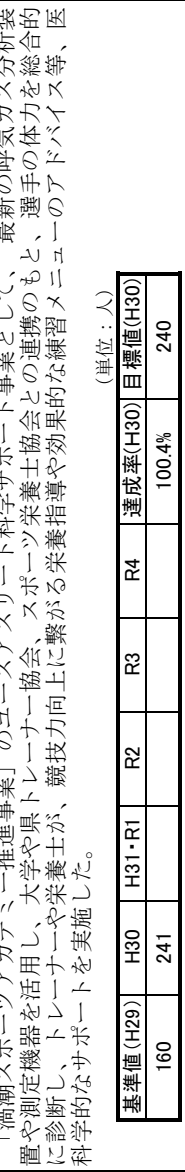
【平成30年度の成果】県大会レベルでは専攻実技8種目のうち5種目が優勝しており、全国では、女子ラグビーが団体や女子セブンズ等において活躍したほか、陸上競技は前年度から継続して入賞する競技として育成、強化が図られた。

【課題】県大会では着実に優勝できる競技が育成されているが、全国大会で、安定して成果を出すために、技術面やメンタル面での更なる指導力、競技力の向上が求められている。

引き続き「渦潮スポーツアカデミー推進事業」を実施し、選手の医学的サポートの強化や、指導力スキルアップ研修の内容の充実等を図る。

事業目的

スポーツ分野のリーディングハイスクールである鳴門渦潮高校の充実した設備や測定機器を使い、選手の体力を総合的に判断し、科学的に分析したデータをトレーニングに活用することで県内選手の競技力の向上を図ります。【継続】



【平成30年度の成果】トップスポーツ指定校をはじめ、県内高校の運動部の選手や指導者に対し、「体力診断」「疲労骨折診断」「鉄分不足診断」「栄養診断」等の診断結果を用いたアドバイスを行うことで、医学的に効果的な指導や練習方法についての意識が高まった。

【課題】利用校に固定化の傾向があるため、更なる周知が必要であるとともに、測定機器を活用した専門家からのアドバイスを、更に効果的に指導や練習に活かすことが求められている。

診断結果に基づき医学的サポートの効果を、多くの指導者に普及させ、活用できるよう講義や研修を実施し、更に周知を図る。

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
5	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>文化芸術分野のリーディングハイスクールにおいて、芸術を学ぶ生徒の技術力向上を図ります。また、同校と芸術家等との連携を深めるなど多様な文化芸術活動の推進に努め、その成果を県内外に発信します。 【新規】</p> <p>プロの芸術家や芸術系大学教員等による定期的な講習会を延べ31講座実施し、生徒のスキルアップと、教員の指導力を強化するとともに、地域の施設等での作品の展示会を開催し、地域全体の文化芸術に対する気運を高めました。 平成30年度の全国コンクール等での名西高校の入賞（団体・個人）実績数：音楽6 美術6 書道103 （単位：団体・個人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61</td> <td>115</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>176.9%</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】芸術家による講習会や実技指導の実施回数の増加等、指導の充実により各種大会等への入賞実績数も大きく伸びている。</p> <p>【課題】名西高校芸術科の更なる魅力発信と県下の中学校へ活動内容の周知を図る必要がある。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	61	115					176.9%	65
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
61	115					176.9%	65												
6	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>大学や企業、研究機関との連携を深化させ、各学校の特色ある教育活動のレベルアップを図り、全国に発信できる徳島ならではの取組を支援するとともに、多くの生徒が多様な学びの成果を発表し、評価の機会を得られるよう、学校のニーズや社会の要請等を踏まえて、実施要項を検討し、応募校の増加に向けて取り組みます。 【改善】</p> <p>4月に事業説明会を実施し、目的や内容をいねいに説明するとともに、学科や校種を問わず広く応募してもらえようとする環境の設定に努めた。また、実施校には、事業成果を全国に発信するため、全国規模の大会やコンクールへの出場申請をはじめ、HPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。 ・全国高校生クリエイティブコンテスト（佳作） ・循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰 ・1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」奨励賞 ・高校生ビジネスプラン・グランプリ審査員特別賞 （単位：事例）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>133.3%</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】合計10校の応募があり、実施校はその取組内容や継続性、プレゼンテーション技術の向上がみられ、入賞実績も増加した。</p> <p>【課題】毎年10校程度の応募校で推移している。また、応募校が固定化傾向にあるので、県下の多くの学校が学科や校種を問わず広く応募できるような工夫に努める。また、全国規模やコンクールでの入賞数を数値目標に設定し、実施内容や継続性の充実、プレゼンテーション技術の向上を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	3	4					133.3%	3
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
3	4					133.3%	3												

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針																
7	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、理科や数学に重点を置いたテーマを定めて研究に取り組んできた、城南高校、脇町高校、徳島科学技術高校、富岡西高校について、その取組の充実・発展を支援するとともに、研究成果の県内各校への普及を推進し、国際的に活躍し得る科学技術人材等の育成を目指します。【継続】</p> <p>教育会館において、生徒が授業や部活動で取り組んできた課題研究に関する発表を、口頭発表の部とポスター発表の部に分かれて実施した。審査員は、SSH運営指導委員、理学会役員、教育委員会指導主事等合計27名で行った。いずれの課題研究も高校生らしい内容でしつかり準備されたものであった。</p> <p>(単位：校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>116.7%</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】新しい試みとして、城東高校のスーパーグローバルハイスクールとしての成果発表を合同で行った。異なる視点からの発表により、課題研究の内容が深まることが期待できる。また、これまでと同様に、部活動での取組を発表するといった、少人数での参加校もあり、このような取組を継続して支援していきたい。</p> <p>【課題】少人数で取り組んでいる科学系の部活動がいくつかわかるが、それらの部活動が継続できるように支援が必要である。また、理科科を設置している学校の課題研究を活性化するために、SSHの研究成果を普及する必要がある。</p> <p>新学習指導要領では探究活動が重視されているが、理数系科目における探究活動はこれまで同様に重要であり、授業の中で実施していく必要があることを周知するとともに、SSH生徒合同発表会への参加を促していく。また、理数系の部活動の活性化についても、教員の研修会等の場を利用して呼びかける。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	7					116.7%	6
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
5	7					116.7%	6												
8	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>徳島ウインターキャンパスでは、高校生が教科や学問等において知的な刺激を受け、切磋琢磨する合宿を通して人間力の向上につなげ、座談会やワークショップなどに取り組むことにより、スーパーグローバル大学進学を目標とする生徒の学校の枠を超えたネットワークづくりを目指します。【新規】</p> <p>徳島ウインターキャンパスにおいて、12月8・9・15・16日に参加生徒60～74名で、県外スーパーティーチャーによる特別講座、知事、本県高校卒業の大学生等による座談会、高校生ミニアテインメント、ワークショップ、教育長への政策提言、難関大学を目指す意義についての特別講演等を実施した。</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H28)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>297</td> <td>290</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>85.3%</td> <td>340</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】「ウインターキャンパス」参加者は、キャンパスを通して、同じ目標に向かって切磋琢磨する同志となることができ、目標とする大学への進学のためのモチベーションを維持することができた。</p> <p>【課題】12月の4日間のみの実施だったため、キャンプ後のモチベーションの維持やネットワークの活用が、時間の経過とともに、難しくなっていた。</p> <p>「ネクスト・リーダー育成プログラム」という年間のプログラムにすることで、課題を克服し、モチベーションやネットワークをより強固なものにし、成果につなげたい。</p>	基準値(H28)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	297	290					85.3%	340
基準値(H28)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
297	290					85.3%	340												

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針
9	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり ■将来的に社会の各分野を牽引していく人間力を備えた、「SuperStudent」の育成 □東京大学、京都大学進学者教</p> <p>基礎値(H28) H30 H31・R1 R2 R3 R4 26 28</p> <p>達成率(H30) 目標値(H30) 63.6% 44</p> <p>(単位：人)</p> <p>【平成30年度の成果】「ウインターキヤンパ」参加者は、キヤンパを通して、同じ目標に向かって切磋琢磨する同志となることができて、目標とする大学への進学のためのモチベーションを維持することができた。</p> <p>【課題】12月の4日間のみの実施だったため、キヤンパ後のモチベーションの維持やネットワークを活用が、時間の経過とともに、難しくなっていた。</p> <p>「ネクスト・リーダー育成プログラム」という年間のプログラムにすることで、課題を克服し、モチベーションやネットワークをより強固なものにし、成果につなげたい。</p>
10	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり ■ビッグデータ等を活用したICTによる個に応じた学習の推進による、学習活動の充実 □ビッグデータ実証事業における活用者数</p> <p>基礎値(H29) H30 H31・R1 R2 R3 R4 140 379</p> <p>達成率(H30) 目標値(H30) 111.5% 340</p> <p>(単位：人)</p> <p>【平成30年度の成果】eラーニング、教育ビッグデータの分析手法を活用したICTによる個に応じた学習により、時間や場所を選ばない基礎的・基本的な学習が提供でき、生徒は効率的に英単語の語彙を身に付けることができた。</p> <p>【課題】生徒が意欲を持って学習を継続できるように、実証校への働きかけが必要である。また、実証事業の効果や教育ビッグデータ活用の今後の方向性について広く発信する必要がある。</p> <p>1 岡山大学と連携し、県立高校（3校）を対象に英単語の習得を目的としたビッグデータを活用したeラーニングを実施し、生徒の学習に関するデータを収集、分析した。 2 大学等と連携した「教育ビッグデータ利用検討委員会」において、事業内容等の検証を行うとともに、教育ビッグデータの利活用について検討した。</p>

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針	事業目的	取組状況 (H30年度分)	評価	今後の取組方針						
11	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校の開校</p> <p>□阿南光高校の開校</p>	<p>事業目的</p> <p>平成30年4月に、農工商が一体化した特色ある教育を推進する阿南光高校を開校し、時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に引き続き取り組みます。【改善】</p>	<p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>「植物バイオ技術によるイシシマササユリ保護活動」、「LED照明による水耕栽培システム」、「ドローン操作及び利活用講座」における徳島大学との連携活動、6次産業化による「6次産業化実践講座」を実施した。また、宝田キャンパスへの「ビジネスマシナリーシミュレーション実習機器・協働ロボット実習機器」の整備及び新野キャンパスにおける徳島大学との教育・研究開発拠点「とくしまイノベーションセンター」の改修や地域開放拠点「生徒会館」のリノベーションを行った。</p> <p>平成31年3月、阿南工業高校と新野高校が閉校し、両校2年生が3年生に進級と同時に阿南光高校へ転学すること、阿南光高校として、3学年が揃うこととなった。</p>	<p>【課題】2キャンパスを効率的に活用し、新たな高大接続教育、6次産業化教育を展開するため、徳島大学、産業界、地域との連携内容・方法等のソフト面を充実させる必要がある。</p>	<p>徳島大学サテライトキャンパスと位置付けられている新野キャンパスにおいて、高大接続教育の拠点施設「とくしまイノベーションセンター」や「LED植物工場」の運用に関する徳島大学との協議、産業界や地域との調整を進め、連携活動を展開する。</p>						
			<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に取り組みます。【新規】</p>	<p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>○全国木育サミットへの参加や林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。</p> <p>○林業に関係する高校(学科)においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取り組み、林業関連産業への就職推進に努めた。</p>	<p>【平成30年度の成果】平成30年度の取組によって、16名(森林組合等10名、林産物加工等6名)林業関連従事者となった。</p>	<p>【課題】継続的に林業関連産業への従事者が確保できるような様々な機関との連携を深め、効果的な取組を模索していく必要がある。</p>	<p>継続的に林業関連産業への従事者が確保できるような様々な機関と連携し、林業について理解を深める機会の確保に努める。林業に関する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める。</p>						
12	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>個性を伸ばす特色ある学校づくり</p> <p>■地域資源に富まれた地域において、林業に関する新たな教育の展開</p> <p>□県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数(累計)</p>	<p>事業目的</p> <p>時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に取り組みます。【新規】</p>	<p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>○全国木育サミットへの参加や林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。</p> <p>○林業に関係する高校(学科)においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取り組み、林業関連産業への就職推進に努めた。</p>	<p>【平成30年度の成果】平成30年度の取組によって、16名(森林組合等10名、林産物加工等6名)林業関連従事者となった。</p>	<p>【課題】継続的に林業関連産業への従事者が確保できるような様々な機関との連携を深め、効果的な取組を模索していく必要がある。</p>						
			<p>担当課 教育創生課</p>		<table border="1"> <caption>県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	年度	人数	基準値(H29)	10	H30	26		
年度	人数												
基準値(H29)	10												
H30	26												
			<p>担当課 学校教育課</p>										

番号	13	推進項目 個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	施策の方向性 多様で特色ある能力・個性を伸ばす教育の推進	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針	<p>私立学校では、コミュニケーションを重視した幼児期からの英語教育や離園大学への進学に重点を置いたトップレベルの学力養成のためのキャリア教育、優れた指導者の採用と有識な生徒の獲得によるサービス競争力の向上等、多様なニーズに対応するための特色ある教育に引き続き取り組みます。多様な教育サービスを選択肢を提供するため、私立学校の魅力ある学校づくりを支援するとともに、本県私立学校の認知度を高めるための、特色ある教育内容の紹介など、各学校のホームページ等による情報発信の取組についても支援します。</p> <p>【継続】 私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行った。また、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会の均等を確保するため、高等学校等就学支援金や奨学のための給付金を支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。</p> <table border="1" data-bbox="446 369 550 1220"> <tr> <td colspan="2">基準値(H29)</td> <td colspan="2">H30</td> <td colspan="2">H31・R1</td> <td colspan="2">R2</td> <td colspan="2">R3</td> <td colspan="2">R4</td> <td colspan="2">達成率(H30)</td> <td colspan="2">目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> <td colspan="2">支援</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】高等学校等就学支援金を支給したことにより生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、「耀く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。</p> <p>【課題】今後も公私間格差是正等を図る取組が必要である。</p>	基準値(H29)		H30		H31・R1		R2		R3		R4		達成率(H30)		目標値(H30)		支援		支援		支援		支援		支援		支援		支援		支援	
基準値(H29)		H30		H31・R1		R2		R3		R4		達成率(H30)		目標値(H30)																							
支援		支援		支援		支援		支援		支援		支援		支援																							
事業目的																																					
取組状況(H30年度分)																																					
評価																																					
今後の取組方針																																					
事業目的																																					
取組状況(H30年度分)																																					
評価																																					
今後の取組方針																																					

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																								
15	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■特別支援学校における取組</p> <p>■特別支援学校の強みを生かした教育の推進</p> <p>□児童生徒の作品やポスター等や地域に提供した特別支援学校数</p> <table border="1"> <caption>特別支援学校が地域に提供した作品やポスター等の数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数	H29	5	H30	7	特別支援学校の児童生徒が学校近隣を中心とした地域の活動に参加するなど、障がいの種別や程度に関わらず一人ひとりが主役となり、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けるため、特別支援学校ならではの強みを生かした教育を推進します。【新規】	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>特別支援学校の児童生徒が学校近隣を中心とした地域の活動に参加するなど、障がいの種別や程度に関わらず一人ひとりが主役となり、将来にわたって地域で活躍できる力を身に付けるため、特別支援学校ならではの強みを生かした教育を推進します。【新規】</p> <p>とくしま特別支援学校技能検定で培った技術を生かして、お接待活動等において飲み物の提供や清掃活動、児童生徒が作成した作品の提供、授業で身に付けたマッサージを実施した。また、地域協働活動として公共施設等の清掃活動も実施した。</p> <table border="1"> <caption>特別支援学校技能検定の達成率</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>5</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：校)</p> <p>【平成30年度の成果】徳島視覚支援学校、板野支援学校、国府支援学校、阿南支援学校ひわざ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校は、お接待活動をおとして飲み物の提供や作品の配布等を実施できた。また、みなと高等学園は、地域協働活動として、清掃を主とした奉仕活動を展開することができた。生徒と地域がつながるこれらの取組をおして、生徒たちの社会の役に立ちたいという意欲の向上や、地域の方々から「ありがとう」という感謝の言葉をいただくことにより、自己肯定感の高まりが見られた。</p> <p>【課題】お接待活動においては、特別支援学校間の連携が十分図れおらず、礼所が近くにない学校の作品をお接待実施校が配布するおといった活動には至っていない。各学校とも作品作りは進めているもの、地域での作品展示に至っていない学校もある。</p> <p>特別支援学校間及び地域との連携がスムーズにできるように県教委が支援し、全ての学校が作品の提供やポスターアイデア活動に参画できるようにしていく。</p>	年度	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)		5	7					100.0%	7
年度	数																												
H29	5																												
H30	7																												
年度	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																					
	5	7					100.0%	7																					
16	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■特別支援学校における取組</p> <p>■生徒の働きたい想いに応える就労支援の充実</p> <p>□「とくしま特別支援学校技能検定」の受検者数(累計)</p> <table border="1"> <caption>特別支援学校技能検定の受検者数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>512</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>1,086</td> </tr> </tbody> </table>	年度	数	H29	512	H30	1,086	特別支援学校の幼稚部から高等部におわたって幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進するとともに、福祉的就労が想定される生徒の作業学習等をはじめ、特別支援学校高等部生徒の働きたい想いに応える就労支援をさらに充実します。【改善】	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>特別支援学校の幼稚部から高等部におわたって幼児児童生徒の将来を見据えたキャリア教育を推進するとともに、福祉的就労が想定される生徒の作業学習等をはじめ、特別支援学校高等部生徒の働きたい想いに応える就労支援をさらに充実します。【改善】</p> <p>「とくしま特別支援学校技能検定」として、ビルメンテナンス(自在ぼうき、テーパー拭き、ダスタークロス、モップ)、接客(喫茶サービス：基礎編、応用編)、介護(シーツ回収、シーツセット)、ICT(ワープロ入力)、流通(商品化)の5分野10種目を実施した。また、今後の受検者数増加への対応できるように審査員認定教員の養成を行い、各学校で検定の実施を目指した体制構築に取り組んだ。</p> <table border="1"> <caption>特別支援学校技能検定の受検者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>512</td> <td>1,086</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>135.8%</td> <td>800</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p> <p>【平成30年度の成果】平成30年度は、「ビルメンテナンス」、「接客」、「介護」、「ICT」、「流通」の5分野10種目で、延べ18回の検定を実施し、延べ574名の生徒が受検して級認定を受けた。受検した生徒には技能の習得とともに自信や意欲の向上が見られた。また、審査員認定教員の養成では、主査12名、副査18名を認定した。</p> <p>【課題】受検者の増加、検定種目の増加により開催場所や日程調整が難しくなってきたことから、より多くの生徒が技能検定を受検できる体制構築に向け、更なる審査員認定教員の養成が求められる。</p> <p>各校が開催できるように、専門家とともに技能検定の審査ができる審査員認定教員をさらに育成する。また、教員が審査しやすいように、各種目ごとに評価基準の統一を進める。</p>	年度	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)		512	1,086					135.8%	800
年度	数																												
H29	512																												
H30	1,086																												
年度	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																					
	512	1,086					135.8%	800																					

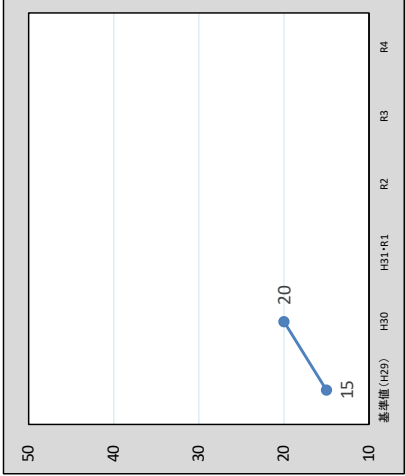
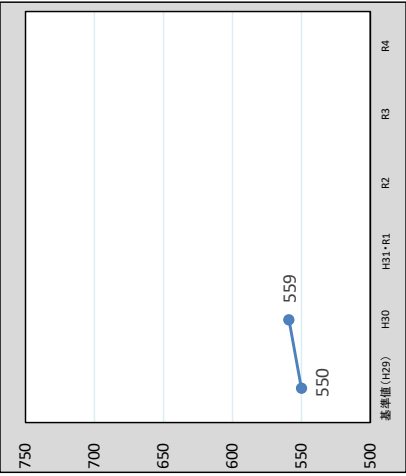
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針
17	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■施策・□成果指標</p> <p>特別支援学校における取組 ■生徒の働きたい思いに応える就労支援の充実 □県立特別支援学校高等部卒業生のうち、就職を希望する生徒の就職率</p> <p>基礎値(H29) 100 H30 100 H31・R1 R2 R3 R4 達成率(H30) 100.0% 目標値(H30) 100</p> <p>(単位：%)</p> <p>【平成30年度の成果】ゆめチャレンジフェスティバルの開催や技能検定の実施により、生徒の働く意欲の高揚と職業技能の向上が図られた。また、協定を生かした就業体験の機会を拡充することで、多くの生徒が就業体験に取り組みることができ、就労にも繋がった。平成30年度高等部卒業生154名のうち55名が就職を希望し、全員就職することができた。</p> <p>【課題】生徒の就職先や就業体験受入れ先企業を開拓していくことが難しくなってきた。また、就労に向けた生徒の技術や態度の向上が求められる。</p> <p>就職先や就業体験受入れ先の開拓を行う「ジョブサポーター」を配置する。また、障がいのある生徒及び特別支援学校の取組に関する理解を深める「学校見学会」や「ゆめチャレンジフェスティバル」の開催、生徒が就労につながる技術や態度を身に付けることのできる「とくしま特別支援学校技能検定」を継続実施する。また、就労支援に関する協力協定を生かし、生徒の障がい特性や持っている力を生かせる就業体験の機会拡充を図る。</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 幼・小・中学校において、子ども達の望ましい行動をほめて育てることも、問題行動を未然に防ぐ「ポジティブな行動支援」の考え方の浸透を図り、各園・学校全体でその取組を推進します。【新規】</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ポジティブな行動支援実施校及び研修による支援校 幼稚園28園、小学校35校、中学校10校 計73校 20.2% (全360校) ○ 東みよし町内の4小学校をモデル校として研究指定し、ポジティブな行動支援の実践研究を行った。 <p>基礎値(H29) 準備 H30 20.2 H31・R1 R2 R3 R4 達成率(H30) 101.0% 目標値(H30) 20</p> <p>(単位：%)</p> <p>【平成30年度の成果】東みよし町内の小学校で実施したポジティブな行動支援の取組は、他市町村の学校にも広がった。また、本成果を「ポジティブな行動支援リーフレット」にまとめ、県内すべての学校に配付し、ホームページに公開することができた。</p> <p>評価 【課題】「ポジティブな行動支援」の考え方を浸透させるため、指導教材や指導マニュアルの開発と効果的な運用方法など、学校現場で簡易に実施できるシステムを構築する必要がある。</p> <p>今後の取組方針 総合教育センターを中心に指導教材やマニュアルの開発を進めるとともに、小中連合校長会等での管理職への理解啓発や、総合教育センター主催研修(フレッシュ研修、特別支援教育コーディネーター研修等)を活用し、すべての学校でポジティブな行動支援が実施できるよう研修内容の充実を図る。</p>
18	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■施策・□成果指標</p> <p>幼・小・中・高等学校における特別支援教育 ■「ポジティブな行動支援」の考え方の浸透 □「ポジティブな行動支援」に取り組んだ園・学校の割合</p> <p>基礎値(H29) 0 H30 20.2 H31・R1 R2 R3 R4 達成率(H30) 101.0% 目標値(H30) 20</p> <p>(単位：%)</p> <p>【平成30年度の成果】東みよし町内の小学校で実施したポジティブな行動支援の取組は、他市町村の学校にも広がった。また、本成果を「ポジティブな行動支援リーフレット」にまとめ、県内すべての学校に配付し、ホームページに公開することができた。</p> <p>評価 【課題】「ポジティブな行動支援」の考え方を浸透させるため、指導教材や指導マニュアルの開発と効果的な運用方法など、学校現場で簡易に実施できるシステムを構築する必要がある。</p> <p>今後の取組方針 総合教育センターを中心に指導教材やマニュアルの開発を進めるとともに、小中連合校長会等での管理職への理解啓発や、総合教育センター主催研修(フレッシュ研修、特別支援教育コーディネーター研修等)を活用し、すべての学校でポジティブな行動支援が実施できるよう研修内容の充実を図る。</p>

番号	19	推進項目	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	施策の方向性	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>幼・小・中・高等学校における特別支援教育</p> <p>■ 一人ひとりの学習上につまずきに応じた自律型学習教材の作成と活用の推進</p> <p>□ 研究協力校において作成した自律型学習教材の問題数（累計）</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,000</td> <td>3,644</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>113.9%</td> <td>3,200</td> </tr> </tbody> </table> <p>（単位：問）</p> <p>【平成30年度の成果】小学校1年生の「なんぼんめ」、5年生の「平均」の単元に関する問題を作成、児童が実施した解答をもとに分析・改善し完成させることができました。</p> <p>【課題】学校での実施後、回収してから分析・改善する作業に時間を要するため、すぐに学校へのフィードバックができない。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	3,000	3,644					113.9%	3,200
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)															
3,000	3,644					113.9%	3,200															
事業目的	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>小・中学校の通常の学級に在籍する発達障がいを含めた、学びにくさのある児童生徒の学習を支援するため、一人ひとりの学習上につまずきに応じた自律型学習教材を作成し、活用を推進します。【新規】</p>																					
取組状況（H30年度分）	<p>自律型学習教材作成研修会を実施し、児童の誤答分析を行い、どのようなステップの問題を作成すれば正答に導けるのかを考え、問題案を作成した。その後、協力校児童の解答結果をさらに分析することにより問題の改善を行い、3644問をホームページに公開した。</p>																					
評価	<p>【課題】学校での実施後、回収してから分析・改善する作業に時間を要するため、すぐに学校へのフィードバックができない。</p>																					
今後の取組方針	<p>令和元年度は、小学校2校を協力校とし、協働して自律型学習教材を開発する。分析・改善の時間を短縮するため、学校での取組状況を確認しながら数回に分けて実施、回収する。</p>																					
事業目的	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>高等学校に在籍する、発達障がい等の生徒の支援の充実を図るため、将来の社会的自立に向けた学習指導内容（自立活動等）を取り入れた教育を推進します。【新規】</p>																					
取組状況（H30年度分）	<p>将来の社会的自立に向けた学習の必要な生徒が在籍する高等学校において、コミュニケーション能力や社会性を旨むためのソーシャルスキル・トレーニングを取り入れた実践を行った。自分の長所や適性など自己理解を深め、身だしなみ・挨拶の仕方などのソーシャルスキルを学ぶとともに、就業体験の実施や就職面接の練習といったキャリア教育の活動を、生徒の特性を踏まえて個に応じた行なった。</p>																					
評価	<p>【平成30年度の成果】「通級による指導」の実施校や特別支援教育支援員配置校を中心に、将来の社会的自立に向けた学習の必要な生徒が在籍する高等学校11校において、自立活動等の内容を取り入れた実践を行った。実践校では、関係機関とも連携するなど、支援の充実を図っている。</p> <p>【課題】平成30年度は、11校において自立活動等の内容を取り入れた実践を行った。小学校や中学校からの学びの連続性を確保しつつ、生徒一人ひとりの教育的ニーズに即した適切な支援が提供できるよう、各高等学校において、自立活動の内容を取り入れた教育への理解を深めていくことが必要である。</p>																					
今後の取組方針	<p>発達障がい等のある生徒の支援の充実を図るため、徳島県発達障がい教育研究会などの機会を活用して、将来の社会的自立に向けた学習指導内容や取組の有用性を広く発信し、情報共有を図る。</p>																					

番号	推進項目	施策の方向性	■ 施策・□ 成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																				
21	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>インクルーシブな教育体制の強化</p> <p>■ ICTを活用した教員用eラーニングを活用した、教員の特別支援教育に関する専門性の向上</p> <p>□ 特別支援教育に関するeラーニング研修支援システム問題にアクセスした件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,500</td> <td>7,173</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 特別支援教育課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	5,500	7,173					<p>事業目的</p> <p>既存の教員研修に加えて、ICTを活用した教員用eラーニング教材等を活用し、教員の特別支援教育に関する専門性の向上を図ります。【継続】</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>特別支援学校に在籍する専門性の高い教員を問題作成委員に任命し、指導主事とともにeラーニング問題を125問作成した。その結果、eラーニング問題の総数は958問となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,500</td> <td>7,173</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】特別支援教育コーディネーター研修会におけるアンケートで、受講者の91%が、事前及び事後課題としてeラーニングを設定することについて、「大変良かった」「概ね良かった」と回答した。また自由記述では、ほぼ全員が研修会当日の講義内容が理解しやすかったと答えた。</p> <p>【課題】研修会の事前課題・事後課題として設定しているものの受講者アンケートに基づき検証、改善が十分できていないeラーニング問題がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>eラーニング教材を総合教育センターで実施する教員研修の事前課題、事後課題として継続実施するとともに、研修受講者への聞き取りを行い、研修内容及び教材の改善を行う。</p>	(単位：件)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	5,500	7,173										6,000
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
5,500	7,173																																							
(単位：件)																																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
5,500	7,173																																							
					6,000																																			
22	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	障がいによる困難を克服し、個性輝く自立を支援	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>インクルーシブな教育体制の強化</p> <p>■ 学識経験者等と連携した、特別支援学校教員の専門性の向上</p> <p>□ 「発達障がい教育・自立促進アドバイザーチーム」連携した行動改善の事例数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74</td> <td>87</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 特別支援教育課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	74	87					<p>事業目的</p> <p>特別支援学校のセンタースタッフの機能の充実を図るため、学識経験者等と連携し、特別支援学校教員の専門性向上に取り組みます。【継続】</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>平成30年度においては、大学教員からなる本県で独自に設置した発達障がい教育・自立促進アドバイザーチームと連携し、相談と評価をセットにした事例研究に年間2回取り組んだ。客観的評価による授業改善を取り入れた「学校コンサルテーション徳島スタイル」として、特別支援学校5校で実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位：件)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>74</td> <td>87</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】一つの事例に、複数の教員がチームとなり取り組み、アドバイザーの指導や助言を共有することで、組織的な専門性の向上を図ることができた。各学校の実践成果を特別支援教育実践研究報告会において県内外に発信することができた。</p> <p>【課題】学校コンサルテーションの専門性の向上を図るためには、専門性の高い校内リーダーの育成と、教員一人ひとりの専門性の向上を図るための研修体制の構築が必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>専門性の高い校内リーダーを育成するために、校内担当リーダー対象の研修会を実施する。また、教員一人ひとりの専門性の向上を図るために、コンサルテーション当日の研修会の在り方について検討し、より教員がチームで主体的に取り組むことができるよう演習中心の研修会を実施する。</p>	(単位：件)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	74	87										80
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
74	87																																							
(単位：件)																																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
74	87																																							
					80																																			

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
23	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	次代を生きぬくキャリア教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>発達段階に応じたキャリア教育の推進 ■組織的・体系的なキャリア教育の推進 □高校におけるインターンシップの実施率 (全日制・定時制)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.6</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p> <p>生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、インターンシップの実施をはじめ、組織的・体系的なキャリア教育を推進し、学校での教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成に取り組めます。【継続】</p> <p>「未来へつながるキャリア教育推進プロジェクト」等の事業により、各学校種に応じたキャリア教育推進に向けた取組を実施した。小中高等学校キャリア教育担当教員を対象とした「キャリア教育推進フォーラム」を開催（文科省調査官による講演等、研究校発表）した。</p> <p>【平成30年度の成果】生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に対する理解が深まった。</p> <p>【課題】普通科高校におけるインターンシップの拡大とともに、新学習指導要領(H30.3)を踏まえ、教育活動全体において組織的・体系的にキャリア教育を一層推進していく必要がある。</p> <p>各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実を図る。</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生が、各大学科や学校独自の特色ある教育活動について、日頃の学習の成果と、今後の徳島県の産業界を支える人材育成を目指す。【新規】</p> <p>大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,910名となった。</p> <p>【課題】高校生の学習活動をアピールするという観点から、特に小中学生に進路指導の視点で多く参加してもらえるようPR活動の工夫を図る。</p> <p>会場の選定も大切であるが、高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	97.6	100					100.0%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
97.6	100					100.0%	100												
24	個性、可能性を最大限に伸ばす教育の推進	次代を生きぬくキャリア教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>発達段階に応じたキャリア教育の推進 ■職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生による学校独自の特色ある教育活動のアピール □高校生産業教育展における来場者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,850</td> <td>1,910</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.5%</td> <td>1,900</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p> <p>職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生が、各大学科や学校独自の特色ある教育活動について、日頃の学習の成果と、今後の徳島県の産業界を支える人材育成を目指す。【新規】</p> <p>大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小中学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,910名となった。</p> <p>【課題】高校生の学習活動をアピールするという観点から、特に小中学生に進路指導の視点で多く参加してもらえるようPR活動の工夫を図る。</p> <p>会場の選定も大切であるが、高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	1,850	1,910					100.5%	1,900
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
1,850	1,910					100.5%	1,900												

番号	25	推進項目	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	実施の方向性	徳島発の小中一貫教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>徳島モデルの小中一貫教育</p> <p>■小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの小中一貫教育の全県展開</p> <p>□学校分散型「チェーンスクール」実施地域数</p> <p>担当課 学校教育課</p>	<p>事業目的</p> <p>小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの小中一貫教育として、地理的に分散した小中学校が人的・物的に連携する「チェーンスクール」という徳島発の小中一貫教育を全県に展開します。【継続】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>あわ(OUR)教育発表会や、小中一貫教育実践地区交流研修会において、チェーンスクールの実践地域である明神小・瀬戸中学校の取組を研究・発表し、県下の学校にその成果を普及した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位：地域)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】阿南市椿地区において、テレビ会議システムを引き続き運用し、普段から小中の交流が図られている。各地域においては、小中9年間を見通した特色のある教育活動が実践されている。その成果を小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会において、県下の学校及び関係者に広く普及した。</p> <p>評価</p> <p>【課題】小中連携活動に係る教職員の打合せ時間及び合同研修会の確保を図ることや、教職員の異動等があったりも、継続的に小中の一貫教育の推進を図るための組織及びカリキュラムを構築していく必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>大学教授等の有識者を含む「小中一貫教育推進会議」を年2回開催し、各地域における実践の充実・発展に取り組んでいく。また、小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会において、その成果を県内外に広報・普及するとともに、市町村教育委員会と連携し、地域ごとに特色のある小中一貫教育の確立を目指す。</p>	(単位：地域)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	6	6										100.0%						6
(単位：地域)																																					
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																
6	6																																				
					100.0%																																
					6																																
番号	26	推進項目	人口減少社会に挑戦する「徳島モデル」の学校づくり	実施の方向性	徳島発の小中一貫教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>徳島モデルの小中一貫教育</p> <p>■小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの小中一貫教育の全県展開</p> <p>□学校一体型「パッケージスクール」実施地域数</p> <p>担当課 学校教育課</p>	<p>事業目的</p> <p>小規模化する学校を存続させ、かつ教育の質を保障する徳島モデルの小中一貫教育として、同一地域の学校や保育所、社会教育施設などが地域一体で取り組む「パッケージスクール」という徳島発の小中一貫教育を全県に展開します。【継続】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>新たに那賀町立木頭小中学校をパッケージスクールに指定し、パッケージスクールの実践地域は、3地域となった。小中一貫教育実践地区交流研修会において、その取組の成果を発表した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位：地域)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】木頭小中学校では、「ふるさと学習」等、9年間で育成をめざす資質・能力を明確にした取組が実践されている。また、小中の教員によるティームアップでの指導の質の向上や、授業回数が増えたことで、連携を重視した教育活動に対して、教職員の意識の向上がみられる。</p> <p>評価</p> <p>【課題】同一地域の社会教育施設との連携を密にした、学校・家庭・地域が一体となって取り組む地域総掛かりでの教育活動の充実・発展に向け、実践地域との連携を図りながら、実証事業を展開するとともに、その成果を県内に広報し、他地域へ普及していく必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>大学教授等の有識者を含む「小中一貫教育推進会議」を年2回開催し、各地域における実践の充実・発展に取り組んでいく。また、小中一貫教育実践地区交流研修会やあわ教育発表会において、その成果を県内外に広報・普及するとともに、市町村教育委員会と連携し、地域ごとに特色のある小中一貫教育の確立を目指す。</p>	(単位：地域)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	2	3										100.0%						3
(単位：地域)																																					
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																
2	3																																				
					100.0%																																
					3																																

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針																
27	人口減少社会に挑戦する「福島モデル」の学校づくり	全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進	■ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化 ■テレビ会議システム等のICTを活用した、公立学校での遠隔指導・授業や交流学習、研修、会議等の推進 □高校での双方向遠隔授業・講座の実施回数 	事業目的 過疎・少子化の進行により小規模校が進む高校において、多様な教育活動、魅力的な授業の展開を維持し、生徒の学習ニーズに対応した授業を実施する方策として、ICT（TV会議システム）を活用した福島ならではの遠隔授業の実施体制を構築します。【新規】 取組状況（H30年度分） <table border="1" data-bbox="448 376 517 1223"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>20</td> </tr> </table> <p>(単位：回)</p> 評価 【平成30年度の成果】大学教授等による専門性が高い講義内容など、都市部と同様の魅力ある特別講座や地域の地理的・文化的特性を生かした講座、キャリア教育に関する講座などを実施したことで、人口減少社会における新しい高校教育のモデルの一つとして活用できる、魅力ある学校づくりにつながった。 今後の取組方針 【課題】遠隔授業をより効果的に行うため、グループ学習など様々な学習形態にも対応するための通信環境の研究や授業補助者のスキル向上を図るとともに、生徒の興味関心や理解度を講座の内容に反映させることができるような実施体制の構築が必要である。 遠隔授業を、立地条件による教育格差の解消手段の一つとして活用し、人口減少地域における教育の質の維持向上や魅力ある学校づくりに活用するため、引き続き研究開発を進めるとともに、実施回数を増やしていく。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	15	20					100.0%	20
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
15	20					100.0%	20													
28	人口減少社会に挑戦する「福島モデル」の学校づくり	全国屈指の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進	■ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化 ■テレビ会議システム等のICTを活用した、公立学校での遠隔指導・授業や交流学習、研修、会議等の推進 □テレビ会議システムの利用回数 	事業目的 テレビ会議システム等の遠隔システムを活用した遠隔指導・授業など、ICTを効果的に活用した教育活動や研修等の充実を図ります。【新規】 取組状況（H30年度分） <table border="1" data-bbox="1075 376 1144 1223"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>550</td> <td>559</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101.6%</td> <td>550</td> </tr> </table> <p>(単位：回)</p> 評価 テレビ会議システムによる公立学校での遠隔授業や交流学習、研修、会議等を実施した。 ・遠隔授業（海部高校、池田高校の本・分校） ・各種会議（県立高校の家庭クラブ総会、那賀地域の中・高連絡会議） ・県教委事務局コンプライアンス・人権研修（県庁・総合教育センター・文化の森） 今後の取組方針 【平成30年度の成果】遠隔地にある大学や中・高等学校間の交流・連携が図られるとともに、校務の効率化を実現することができた。 【課題】学校等に対するテレビ会議システム活用の一層の普及・啓発が必要である。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	550	559					101.6%	550
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
550	559					101.6%	550													

番号	推進項目	施策の方向性 全国風情の光ブロードバンド環境を活用した教育の推進	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 教科等でのICT活用教育を推進するため、タブレット端末や電子黒板等のICT活用に関する実証研究を行い、その効果の検証及び普及・啓発により、教育の多様化と効率化を図ります。【新規】																												
29	人口減少社会に挑戦する「福島モデル」の学校づくり	■ 施策・成果指標 ICTの効果的活用による教育の多様化と効率化 ■ タブレット端末や電子黒板等のICT活用に関する実証研究とその効果の検証及び普及・啓発 □ 電子黒板を活用した公開授業の実施回数(累計)	進化する教室イノベーション事業の実施校により、ICT活用に関する実証研究を行い、平成29年度実施校と平成30年度実施校が、意見交換会や情報交換サイトを活用し、得られた成果について、公開授業等で普及に努めた。																												
取組状況 (H30年度分)		<table border="1" data-bbox="351 1388 782 1859"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	5	10					(単位: 回) <table border="1" data-bbox="430 1030 510 1366"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	10					100.0%	10
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																										
5	10																														
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																								
5	10					100.0%	10																								
評価		【平成30年度の成果】 授業改善のためにICTが日常的に活用されており、先生からは、ICT活用によって授業が効果的に進められたという回答が90%を超え、生徒からは、学習の理解を高めたことができたという回答が80%近くまで得られた。	【課題】 実施校においては、本事業に関する様々な取組を通じてICT活用授業を日常的に実施し、大きな成果を上げている。進化する教室イノベーション事業を実施していない学校とのICT環境整備に大きな差が生じたように見える必要がある。																												
今後の取組方針		本事業で得られた成果をICT活用事例集にまとめ、全ての県立学校で活用できるように普及啓発を図る。実施校にさらなる活用を働きかけると共に、全ての県立学校にICT環境を整えられる様に、進化する教室イノベーション事業を継続する。	【課題】 実施校においては、本事業に関する様々な取組を通じてICT活用授業を日常的に実施し、大きな成果を上げている。進化する教室イノベーション事業を実施していない学校とのICT環境整備に大きな差が生じたように見える必要がある。																												
担当者		総合教育センター ■ 施策・成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																												
30	推進項目	施策の方向性 地域の魅力を生かした教育の推進	事業目的 人口減少が急速に進む地域の高校において、その魅力や活性化を通じて地域の新たな活力を創出するため、豊かな資源を活かした教育プログラムを確立し、地域を挙げて、地元はもとより県内外から生徒が集う学校づくりを進めます。【新規】																												
取組状況 (H30年度分)		豊かな資源を生かした教育プログラムの確立 ■ 県内外から生徒が集う学校づくり □ 高校を拠点とした地方創生の推進	【ふるさと創生拠点ハイクラススクール推進事業】 により、海部高校をモデルに、大学及び地元自治体との連携のもと体験体感を重視した教育活動の実施、特別非常勤講師(英語)の配置、オンライン英会話などによるグローバル教育の推進、PR動画の作成などによる魅力化の広報を行った。また、海部高校魅力化推進協議会を設置し、事業の効果と課題等の検証を行った。																												
評価		【平成30年度の成果】 各分野のプロフェッショナルや大学教授、地域の人材を活用した特別講座の実施、ICT環境等を活用したグローバル教育により、魅力的な教育プログラムが推進された。また、自治体や地域関係者が連携して海部高校の魅力化を推進する体制づくりが進んだ。	「ふるさと創生拠点ハイクラススクール推進事業」により、海部高校をモデルに、大学及び地元自治体との連携のもと体験体感を重視した教育活動の実施、特別非常勤講師(英語)の配置、オンライン英会話などによるグローバル教育の推進、PR動画の作成などによる魅力化の広報を行った。また、海部高校魅力化推進協議会を設置し、事業の効果と課題等の検証を行った。																												
今後の取組方針		担当課 教育創生課	【課題】 地域の魅力を生かした教育プログラムの開発を進めるとともに、県外からの生徒を受け入れる体制を構築するために、地域関係者、地元自治体、学校が一体となった取組をさらに推進する必要がある。																												
今後の取組方針		前年度の取組を継続することにより、高校の魅力化の推進を図るとともに、その成果を効果的にPRすることで、県外からの生徒募集を積極的に進める。また、地域との連携により県外からの生徒の受入体制を構築する。	【課題】 地域の魅力を生かした教育プログラムの開発を進めるとともに、県外からの生徒を受け入れる体制を構築するために、地域関係者、地元自治体、学校が一体となった取組をさらに推進する必要がある。																												

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針												
31	人口減少社会に挑戦する 福島モデルLの学校づくり	二地域居住を加速する 学校間移動の実現	<p>事業目的 二地域居住を促進するため、地方と都市の学校間移動を容易にし、双方で教育を受けられることにより、それぞれの良さを実感し、多様な価値観を身に付けることができる「デュアルスクール」を創設します。【継続】</p> <p>取組状況 (H30年度分) 前年度から継続している東京の2家族により、美波町で2回、海陽町で2回の計4回実施した。また、名古屋の大型商業施設でのイベント実施(1回)、東京や大阪で県が主催する移住に関するイベントへの参加(3回)など、都市部でのP R活動をを行った。</p> <p>評価 【平成30年度の成果】本事業をメディアが紹介したり、これまでのP R活動の成果によって、県外での認知度が高まり、興味を持った方からの問合せが増加している。また、他県の教育委員会等からの質問や視察訪問も多数あった。 【課題】これまでは、東京の3家族による県南部の2町での実施のみで、家族の新規開拓や、県中部や県西部での実施が課題である。</p> <p>今後の取組方針 本事業の対象となる家族の新規開拓に向けて、ターゲットに応じたP R活動を行う。また、いろいろなパターンの実施事例を積み重ねることで、市町村教育委員会や学校が行う転校に伴う手続きを簡素化する方法を検討すると共に、より活用しやすいシステムを構築していく。</p>												
		<p>■施策・口成果指標 「新しい学校のかたち」の制度化 ■地方と都市、双方の視点に立った考え方のできる人材を育成する「デュアルスクール」のモデル化 □「デュアルスクール」モデル化に向けてのモデル試行回数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7</td> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:回)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	7	11					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 教員の災害対応能力を高め、児童生徒の命を守るための体制を整備し、地域とのコーディネーター役や災害発生時にリーダーシップを発揮できる人材として養成し、災害時の学校防災力の向上を図ります。【継続】</p> <p>取組状況 (H30年度分) 平成30年度も、県立学校から防災士資格取得に意欲のある教員を募集選考の上、7名が徳島県地域防災推進員養成研修に参加した。その後、日本防災士機構の防災士資格取得試験を受験し7名全員が合格した。平成30年度までに、49名の防災士資格を取得した教員を養成し、全ての県立学校に配置した。</p> <p>評価 【平成30年度の成果】防災士の資格を取得した教員は、「防災クラブ」の活動において指導的な役割を果たし、地域と連携した防災活動に積極的に取り組むことで、学校の防災力の向上が図られた。 【課題】人事異動により配置校の変更があることから、今後も継続して防災士養成に取り組む必要がある。また、研修等を通じ、防災士の資格を取得した教員の更なるスキルアップに取り組む必要がある。</p> <p>今後の取組方針 引き続き、「教員防災士」の養成に努めるとともに、防災人材育成センター等と連携を図り、防災士の資格を取得した教員のスキルアップを図る。また、各校が行っている防災に関する取組事例について情報共有を図る体制を整備する。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4										
7	11														
32	災害を迎え撃つ防災教育の推進	防災知識の普及・啓発等の推進	<p>■施策・口成果指標 防災啓発・防災生涯学習の推進 ■教職員の防災教育に関する指導力の向上 □県立学校への防災士資格を有する教職員の配置率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:%)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	100	100				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4										
100	100														

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (H30年度分)	評価	今後の取組方針															
33	災害を迎え撃つ防災教育の推進	防災知識の普及・啓発等の推進	■施策・□成果指標 防災啓発・防災生涯学習の推進 ■教職員の防災教育に関する指導力の向上 □防災人材育成センター等と連携した教職員のスキルアップ	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針 教職員の防災に関する意識を啓発し、防災教育に関する指導力の向上を図るため、防災教育・防災管理に関する教職員の研修会を実施します。【新規】	防災人材育成センターと連携を図り、平成30年5月16日に第1回学校防災研修会、平成31年1月7日に第2回学校防災研修会を開催し、教職員の防災に関する意識の啓発と防災教育に関する指導力の向上を図った。 (単位：－) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	推進						推進	【平成30年度の成果】 学校防災研修会に参加した教員は、各学校において研修の成果を教職員と共有するとともに、積極的に地域と連携した防災学習や防災活動に取り組むことで、防災教育に係る指導力の向上が図られた。 【課題】 「教員防災士」の養成と併せ、更なる災害対応能力の向上と、より実践的な防災教育に取り組むために、継続したたスキルアップが必要である。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)															
準備	推進						推進															
34	災害を迎え撃つ防災教育の推進	防災知識の普及・啓発等の推進	■施策・□成果指標 災害記録の普及・啓発による防災意識の向上 ■国登録記念物「南海地震徳島県地震津波碑」等の災害記録の普及・啓発による、防災意識の向上 □地域に残された災害記録の普及・啓発	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針 国登録記念物「南海地震徳島県津波碑」をはじめ、地域に残された災害を記録する史跡について、その歴史的価値や教訓を普及・啓発することにより地域の防災意識の向上を図り、また、市町村と連携しながら後世へ継承してまいります。【新規】	地震津波碑説明板を16箇所を設置するとともに、「レキシールとくしま」ホームページにおいて石碑の4K映像や3D画像を公開し、地震津波碑の内容を紹介した。 (単位：－) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	推進						推進	【平成30年度の成果】 石碑の横に現代語訳した説明板を設置し、見学者に内容がわかりやすくした。また、レキシールとくしまホームページ上に地震津波碑の解説ページを作成し、それぞれの石碑の写真や内容、場所を掲載し、全国に発信した。 【課題】 地元が主体となって活用を図っていくことが重要であるため、関係各市町への支援、連携が必要である。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)															
準備	推進						推進															
			担当課 文化資源活用課	今後の取組方針		地震津波碑が地元の文化財として保存され、防災教育等に活用されるよう、関係市町との連携や周知、活用を進める。																

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																
35	災害を迎え撃つ防災教育の推進	学校を核とした地域防災力の向上	■ 施策・□ 成果指標 学校の避難所機能の強化 ■ 中核的な避難所としての県立学校の施設整備 □ 体育館等におけるトイレの洋式化率 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>63</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>126.0%</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	28	63					126.0%	50	事業目的 県立学校が中核的な避難所として機能するよう、非構造材の耐震化をはじめ、ライフラインの確保に向けた太陽光発電装置や自家発電装置等の設置を推進し、すべての県立学校において避難所機能を確保します。さらに、県立学校に整備した無線LAN環境を、災害時の通信手段として活用することにより、学校の避難所機能を強化します。【新規】 平成30年度は、衛星携帯電話33校、太陽光パネル付きLED照明灯（3校）、体育館天井材落下防止対策（1校）、地震時解除装置付き鍵ボックス（3校）、屋外トイレ改築等（2校）及び体育館トイレ洋式化（24校）の整備を行った。 取組状況 (H30年度分) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28</td> <td>63</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>126.0%</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【平成30年度の成果】避難所指定校35校のうち、平成30年度に20校において完了した。体育館等におけるトイレの洋式化改修を進めた結果洋式化率は63%となった。 【課題】引き続き計画的に整備を進める必要がある。 今後の取組方針 引き続き計画的に整備を行う。 [避難所指定校35校中（H30 20校完了、R1 10校完了予定、R2 5校完了予定）]	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	28	63					126.0%	50
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
28	63					126.0%	50																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
28	63					126.0%	50																													
36	個性がひらく特別支援教育の推進	学校を核とした地域防災力の向上	■ 施策・□ 成果指標 地域防災を担う人材の育成 ■ すべての県立中学・高校に設置した防災クラブの活動の推進 □ 地域と連携した防災ボランティア活動の推進	事業目的 すべての県立高等学校に設置した防災クラブの活動を推進するとともに、中学校にも設置をを広げ、防災活動を通して地域と連携した防災ボランティア活動を推進し、地域防災の即戦力、将来の担い手の育成と地域防災力の向上を図ります。【継続】 「ふるさと大好き！地域防災推進事業」において、「防災クラブ」を全ての公立高等学校35校（徳島市立高等学校）と公立中学校38校に設置を広げ、地域の幼稚園や小学校との合同避難訓練や避難所運営訓練、文化祭でのパネル展示などの広報活動など、地域と連携した防災ボランティアに取り組みほか、7月に学校間の交流イベントを実施した。 (単位：一) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> 取組状況 (H30年度分) 評価 【平成30年度の成果】地域や学校の状況に応じた取組みが更に進み、将来の防災の担い手の育成と防災力の向上が図られた。 【課題】引き続き、全県立高等学校に設置された「防災クラブ」の防災力を高め、地域と連携した防災ボランティア活動を推進するための取り組みと支援が必要である。 今後の取組方針 地域と連携した避難訓練を推進するとともに、各学校の特色を生かした自主的な学校防災ボランティア活動を展開するための支援を行う。また、他校の「防災クラブ」と交流を図り、防災活動を全県下に広げるとともに、市町村立中学校にも「防災クラブ」の設置を広げ、地域に根ざした防災活動を展開していく。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進					推進	推進																
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
推進	推進					推進	推進																													


番号	37																
推進項目	個性がひらく特別支援教育の推進																
施策の方向性	<p>学校を核とした地域防災力の向上</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>■ 地域防災を担う人材の育成</p> <p>■ 中学・高校生の防災士資格取得の支援による、児童生徒の防災対応能力の向上</p> <p>□ 中学・高校生防災士養成数(累計)</p>																
事業目的	<p>防災士資格を取得した中学・高校生(県立中学)を養成し、防災クラブを活動拠点として学校防災の牽引役として活動する中で、地域の実情に応じた防災訓練や防災ボランティアに取り組みることにより、地域防災の担い手となる人材として育成します。【継続】</p>																
取組状況(H30年度分)	<p>「あわっ子防災士養成講座」を開催し、平成30年度は中学・高校生141名が「防災士」の資格を取得した。防災士資格を取得した高校生は「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に積極的取り組みなど学校防災の牽引役として活動した。平成30年度までに、514名の防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を拠点として、地域と連携した防災活動に取り組んだ。また、7月に「中学生・高校生防災クラブ交流イベント」を開催し、研修を行うと共に他校との連携を図った。</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="790 369 869 1220"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>360</td> <td>514</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.8%</td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	360	514					102.8%	500
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)										
360	514					102.8%	500										
評価	<p>【平成30年度の成果】防災士資格を取得した中学・高校生が、防災クラブの活動等を通じて、地域や学校の状況に応じた取り組みを行うことで、将来の防災の担い手として育成が図られた。</p> <p>【課題】「防災クラブ」の活動を継続させるとともに、地域の関係機関や自主防災組織との協働を活性化させるため、地域防災のリーダーとなる「中学・高校生防災士」を継続して育成する必要がある。</p>																
今後の取組方針	<p>「チャレンジ防災人材育成推進事業」において、継続して防災士資格を取得した中学・高校生を育成し、「防災クラブ」を活動の拠点として、地域での防災ボランティア活動に参加するなど、学校防災の牽引役、地域防災の若い活力として資格取得で身につけた知識と技能の実践を図り、地域防災の担い手となる人材育成に取り組む。</p>																
担当課	体育学校安全課																

重点項目Ⅱ 一人ひとりが輝く！徳島の未来を育む教育の推進

番号		推進項目	施策の方向性																			
38		確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	「知徳体」が一体となった成長を支援	<p style="text-align: center;">■施策・□成果指標</p> <p>本県教育の充実・発展</p> <p>■鳴門教育大学との連携協定に基づく取組による、 ■本県教育の充実・発展 □鳴門教育大学との連携</p>	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																	
				<p>鳴門教育大学と締結した連携協定に基づき、子どもたちの確かな学力の育成や問題行動等防止、教員の人材育成等について協議を深め、より一層の連携協力体制を構築し、本県教育の充実・発展に取り組めます。 【新規】</p> <p>○教員の人材育成について ・教員育成指標を踏まえた主幹教諭・指導教諭研修プログラムの開発に取り組んだ。 ・研修の単位化による科目履修制度を活用した専修免許取得プログラムの検討を行った。 ・鳴門教育大学大学院・教職大学院への教員の派遣についての検討を行った。</p> <p>○確かな学力の育成について ・「授業改善」推進校への学校訪問において、アクティブ・ラーニングの視点の授業について、具体的な指導助言をいただいた。</p> <p>○児童生徒の問題行動等の防止について ・公立学校生徒指導主任会や公立中学校生徒指導主事会など、様々な会議での意見や事業実施に係る指導・助言をいただいた。</p>																		
				<table border="1" style="margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">基準値(H29)</td> <td style="text-align: center;">H30</td> <td style="text-align: center;">H31・R1</td> <td style="text-align: center;">R2</td> <td style="text-align: center;">R3</td> <td style="text-align: center;">R4</td> <td style="text-align: center;">達成率(H30)</td> <td style="text-align: center;">目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">推進</td> <td style="text-align: center;">推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> <td style="text-align: center;">推進</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">(単位：－)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進					/	推進		
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)															
推進	推進					/	推進															
				<p>【平成30年度の成果】各部会における連携の推進により、各学校における学力向上や生徒指導力の向上、教員研修の在り方等について、教員の意識や学校力の向上において、改善が図られた。</p>																		
				<p>【課題】教員の人材育成については、大学院の改組を踏まえた研修の在り方等、有機的な連携を強化していく必要がある。また、学力向上については、各指定校の取組を県下全体へ広げていくことが求められる。さらに、問題行動防止については、各学校が抱える課題の解決に向けた効果的な事業展開を行う必要がある。</p>																		
				<p>各部会において、各学校が抱える課題の解決等、取組内容を明確にした上で、連携強化を図っていく。その中で、効果的な事業展開を推進し、本県教育の更なる充実につなげていく。</p>																		
				<p>今後の取組方針</p> <p>担当課 教育政策課</p>																		

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	取組状況 (H30年度分)	評価	今後の取組方針																																
39	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知徳体」が一体となった成長を支援	■施策・□成果指標 確かな学力の育成 ■学力向上推進員を中心とした児童生徒の学力向上と情報発信 □「全国学力・学習状況調査」における県平均正答率	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針 全国学力・学習状況調査や徳島県学力テストアッププログラムの結果分析から明らかとなった本県の課題等を踏まえ、大学や市町村教育委員会とも連携・協力を図りながら、学校訪問や教員研修等の機会を捉えて、各学校の授業改善や家庭学習の充実を支援することにより、学力向上、学習状況改善に取り組みます。【継続】 徳島「未来の学び」創造プロジェクトに基づき、学校訪問を実施し新学習指導要領の周知・徹底、学力向上確認プリントを作成・配布、専門教育大学と連携した「授業改善」推進事業等を通して、各小中学校の「主体的・対話的で深い学び」の実現による、子供たちの確かな学力の育成を支援した。 (単位：－) <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td>国語・算数(数学)で全国平均正答率以上</td> <td>中学校国語A、数学A、Bで全国平均以上</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>国語・算数(数学)で全国平均正答率以上</td> </tr> </table> 【平成30年度の成果】各校において、全国学力調査等の結果分析に基づいた授業改善を実施し、さらに学力向上確認プリントを活用した学力向上のPDCAサイクルの構築を行うことができた。 【課題】各学校において組織的な取組の蓄積や優良な取組から学ぶ体制の構築及び、「活用問題」への対応も含め、小・中学校ともに、「読み取る力」を育てることに課題がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	国語・算数(数学)で全国平均正答率以上	中学校国語A、数学A、Bで全国平均以上						国語・算数(数学)で全国平均正答率以上	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針 すべての児童生徒に求められる情報活用能力の育成に向け、各学校段階で求められる能力や教育内容を明確化し、各学校で発達段階に応じた指導計画を作成します。【新規】 新学習指導要領の実施に向けて、小学校における情報活用能力年間指導計画について検討し準備した。	取組状況 (H30年度分) <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td>－</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table> (単位：－) 【平成30年度の成果】県内の小中高特別支援学校において情報活用能力の一つである情報モラル教育の年間指導計画を作成できた。また、情報活用能力年間指導計画の様式について検討した。 【課題】新学習指導要領で示されたプログラミング教育年間指導計画を含め情報活用能力の育成に向けた年間指導計画を策定する必要がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	－	推進						推進	今後の取組方針 既存の情報モラル年間指導計画にプログラミング教育や情報手段を活用するための基礎的・基本的な知識技能等を追加し、情報活用能力の育成に関する年間指導計画を策定する。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																
国語・算数(数学)で全国平均正答率以上	中学校国語A、数学A、Bで全国平均以上						国語・算数(数学)で全国平均正答率以上																																
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																
－	推進						推進																																
40	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知徳体」が一体となった成長を支援	■施策・□成果指標 確かな学力の育成 ■発達段階に応じた指導計画の作成 □情報活用能力の育成に関する指導計画の作成	事業目的 新学習指導要領の実施に向けて、小学校における情報活用能力年間指導計画について検討し準備した。	取組状況 (H30年度分) <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td>－</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table> (単位：－) 【平成30年度の成果】県内の小中高特別支援学校において情報活用能力の一つである情報モラル教育の年間指導計画を作成できた。また、情報活用能力年間指導計画の様式について検討した。 【課題】新学習指導要領で示されたプログラミング教育年間指導計画を含め情報活用能力の育成に向けた年間指導計画を策定する必要がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	－	推進						推進	今後の取組方針 既存の情報モラル年間指導計画にプログラミング教育や情報手段を活用するための基礎的・基本的な知識技能等を追加し、情報活用能力の育成に関する年間指導計画を策定する。																	
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																
－	推進						推進																																

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																														
41	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知徳体しが一体となった成長を支援	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>時代を超えて普遍的に求められる「プログラミング的思考」などを育むプログラミング教育を、小・中・高等学校を通じて、組織的・系統的に推進するための学習との関連付けを行いながら発達段階に応じた位置付けるように全体計画・指導計画を作成し、学校全体でプログラミング教育を推進します。【新規】</p> <p>新学習指導要領の実施に向けて、年間指導計画の作成、教員研修（特別研修3日、希望研修2日、受託研修2回、要請訪問研修19回）、研究指定校（鳴門市里浦小学校、小松島市南小松島小学校、東よし町足代小学校）での実証研究等に取り組んだ。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> <th>準備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>準備</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】総合教育センターでプログラミング教育の年間指導計画例を作成するとともに、公立全小学校のプログラミング教育推進者を対象に研修を実施し、研修受講者の伝達研修により全教職員が研修を受講でき、指導力向上が図れた。また、研究指定校では各教科等における指導事例を数多く創出することができた。</p> <p>【課題】プログラミング教育推進者研修会では知識・技能が身に付き、プログラミング教育の有用性を実感できたが、自らのICTの操作スキル不足からくる不安は簡単にはぬぐい去れないことが分かった。</p> <p>プログラミング教育推進者研修会にてプログラミング教育年間指導計画コアカリキュラムを提示し、令和元年度末には全公立小学校でプログラミング教育の年間指導計画を完成させた。また、企業、大学、高等専門学校、高等学校等と連携した新たな指導事例を作成する取組を実施する。</p>	基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	準備	準備																		
基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備																								
準備	準備																																
42	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知徳体しが一体となった成長を支援	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>各園・学校や関係団体等の、読書環境を整える工夫などの情報提供により、子どもたちの主体的な参加を促す読書活動の取組を推進し、関係者・団体間のネットワークづくりを支援します。また、地域の読み聞かせ団体等の協力を得て、学校における読書活動を充実させるとともに、ブックリストの普及や学校図書館の貸出冊数の増加に努めることで、家庭での読書活動につながる取組を充実させ、子どもの読書の生活化を推進します。【継続】</p> <p>保護者や地域との連携を図るなど、様々な工夫を凝らした「読み聞かせ」に取り組んでいる園・学校が多数見られた。新聞形式での「図書館だより」や新聞記事を活用した話し合い活動など、新聞記事を活用した取組が見られた。</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> <th>準備</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小5</td> <td>89</td> <td>90</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>90</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中2</td> <td>84</td> <td>80</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>94.1%</td> <td>85</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】小学5年生の1日10分以上読書をする児童の割合は9割に達している。読書時間が10分未満児童の割合は、順調に減少をしている。学校による家庭読書につながる取組の充実がみられる。</p> <p>【課題】中学2年生の1日10分未満の読書時間の生徒が2割いるので、学校図書館活動を活性化させ、家庭読書へとつながる子供の読書の生活化を図ることが課題である。</p> <p>書評合戦（ビブリオバトル）による「おすすめの本」を紹介し合う活動など読書の楽しさを味わう取組や、新聞記事の語り合い活動の推進を図る。家庭読書につながる取組の質的な向上と他の読書活動の取組との連携を図り、読書の生活化を推進していく。</p>	基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	小5	89	90					100.0%	90		中2	84	80					94.1%	85	
基準値(H29)		H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備																								
小5	89	90					100.0%	90																									
中2	84	80					94.1%	85																									

番号	43	推進項目	<p>確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p>	施策の方向性	<p>知・体・心が一体となった成長を支援</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>豊かな情操の育成 ■ 平成30年度自然の家を拠点とした、地域との交流を深める自然体験・交流体験等の推進 □ 自然体験・交流体験等への参加者数</p>  <table border="1" data-bbox="662 1377 981 1518"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>813</td> <td>929</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.2%</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】地域の方々との交流が広がり、協力が得て、アイデア豊富な体験活動の回数を増やすことで参加者の増加につなげることができた。</p> <p>【課題】体験活動の日程や内容の見直しを常に行い、地域の住民や自治体と連携して改善を図っていくことが重要である。</p> <p>参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実し、効果的な事業を実施する。</p> <p>事業目的 県立牟岐少年自然の家を子どもたちの体験活動の拠点として、地域の自然や文化活動を生かした自然体験・交流体験・環境学習等を実施し、達成感や成功体験を得ることにより、自己肯定感を育む取組を推進します。 【継続】</p> <p>取組状況(H30年度分) 「漁師さんから学ぶ海の『めぐみ』とその『食』」、「海辺の環境学習」、「もうすぐお正月」など、地域の住民や漁協組合、商工会、婦人会の協力により、地域の特性を生かした体験活動が行われ、県内各地から多くの人が参加した。</p> <p>評価 【課題】体験活動の日程や内容の見直しを常に行い、地域の住民や自治体と連携して改善を図っていくことが重要である。</p> <p>今後の取組方針 参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実し、効果的な事業を実施する。</p> <p>担当課 生涯学習課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	813	929					103.2%	900
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)															
813	929					103.2%	900															

番号	44																	
推進項目	<p>確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p>	<p>知體体が一体となった成長を支援</p>																
施策の方向性	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>健やかな体の育成</p> <p>■ 児童生徒の体力・運動能力の向上</p> <p>□ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、全国平均を上回る種目数</p>	<table border="1" data-bbox="486 1400 1173 1870"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>種目数</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 体育学校安全課</p>	種目	R1	R2	R3	R4	種目数	11	10	10	17						
種目	R1	R2	R3	R4														
種目数	11	10	10	17														
事業目的		<p>「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」をもとに、県内小・中学生の体力・運動能力に関する基礎資料を収集するとともに、改善に向けた具体的な方策を検討することにより、「学校体育の充実」「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」を柱とした事業の充実改善を図り、子どもたちの体力・運動能力を向上します。【継続】</p>																
取組状況 (H30年度分)		<p>学校体育の充実として、全ての学校で「体力向上計画」を策定し、各校の課題に応じた取組を推進するとともに、低年齢期からの「体力アップ運動」の継続的な実施を図った。</p> <p>また、「はつらつサポート」として、小学校の体育授業に専門性の高い大学教員や県内プロスポーツ団体を派遣し、運動の苦手の児童に目を向けた授業を展開することにより、体力向上及び教員の指導力向上を図った。</p> <p>運動習慣の確立のため、パソコンを使ったランキングシステムを活用して、運動習慣が確立できていない児童生徒も友達や家族と手軽に継続して取り組むことができ、種目を提供する「Newキッズ&ジュニアわんぱくランキング」や、「プラス1000歩チャレンジ」などとして歩数計を活用し運動量の可視化（見える化）により子供が自分の運動習慣を知り、その改善ができるよう体力向上の取組を支援した。</p> <p>さらに、望ましい生活習慣の形成のため、「さわやかサポート」として専門性の高い大学教員等を幼稚園、小・中学校のPTA・学校行事等に派遣し、運動好きの園児、児童生徒の育成や、生活習慣の基礎形成を目指し、保護者への啓発、教員の指導力向上を図った。</p> <p>これらの取り組みについては、「子どもたちの体力・運動能力向上対策委員会」を2回開催し、大学やPTA等、様々な立場から意見をいただき、事業の充実改善を図った。</p> <p>(単位：種目)</p> <table border="1" data-bbox="853 952 933 1243"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>58.8%</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	11	10					58.8%	17
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)											
11	10					58.8%	17											
評価		<p>【平成30年度の成果】平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果、体力合計得点が、小学校男女、中学校男女とともに前年度を上回り、小学校男女、中学校女子で過去最高値となるなど、全国平均との差は縮まっており、本県の児童生徒の体力・運動能力は改善傾向にある。</p> <p>【課題】全身持久力の参考となる「20mシャトルラン」「持久走」の平均値や、筋持久力の参考となる「上体起こし」の平均値については、改善が見られるものの、全国平均値との差が顕著であり、更なる取組が必要である。</p> <p>引き続き「体力の向上」とともに「運動習慣の確立」「望ましい生活習慣の形成」を目指し、これまでの効果的な取組を実施するとともに、低年齢期からの「体力アップ運動」実施を推進する。また、体力調査の実施にあたっては、記録シートや指導者のチェックリストを提供し、子どもが具体的な目標をもち、意欲的に取り組むことができる支援を講じていく。取組については「子どもたちの体力・運動能力向上対策委員会」を開催し、大学やPTA等、様々な立場から意見をいただき、事業の充実改善を図っていく。</p>																
今後の取組方針																		

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
45	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知・徳・体・心が一体となった成長を支援	■健やかな体の育成 ■児童生徒の体力・運動能力の向上 □「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、運動好きの子どもの割合が全国平均を上回るカテゴリ（カテゴリ別数：小学5年生の男女、中学2年生の男女の計4） 	事業目的 小学校の体育授業の充実を図り、運動好きの子どもの増やすことにより、運動やスポーツに対する良好な意識を基盤とした体力・運動能力の向上を実現し、子どもが豊かなスポーツライフを形成できる教育を支援します。【改善】	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 小学校の体育授業の充実を図り、運動好きの子どもの増やすことにより、運動やスポーツに対する良好な意識を基盤とした体力・運動能力の向上を実現し、子どもが豊かなスポーツライフを形成できる教育を支援します。【改善】 体育授業に専門性の高い大学教員や県内プロスポーツ団体、指導主事を派遣する「はつらつサポート（学校体育指導者派遣事業）」を県内70の小学校で実施し、運動の苦手な児童に目を向けた授業を展開することにより、体力・運動能力の向上及び教員の指導力向上を図った。 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、「運動やスポーツは好き」「体育の授業は楽しい」と回答した割合が、小学校男女、中学校男女、中学校男女ともに全国平均値を上回っており、運動やスポーツに対する良好な意識が形成されている。 【課題】学校からの指導者派遣の希望が増加しており、体育授業への専門的な支援のニーズが求められている。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	100	100					100.0%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)														
100	100					100.0%	100														
46	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知・徳・体・心が一体となった成長を支援	■健やかな体の育成 ■児童生徒の体力・運動能力の向上 □ICTを活用した手軽にできる運動のランキング判定システムの参加グループ数 	事業目的 パソコンを使って、学校や家庭でランキングを確認しながら、友だちや家族と一緒に楽しみながら繰り返し記録に挑戦できる運動プログラム「ICTによるランキングシステム」を活用することにより、学校や家庭における運動習慣の確立を支援します。【新規】 教員の研修会等でランキングシステムの普及をすすめるとともに、提供した運動プログラムによる「キッズわんぱくランキング大会」を1月に開催し、取組が顕著な団体や学校を表彰するなど、家庭への運動習慣確立の啓発を行った。また、歩数計を貸与をすることで、ランキング種目「ファミリーチャレンジ歩き遍路」への参加を増やすとともに、運動量の可視化を図り、子供たちが自分の運動習慣を知り、その改善ができるよう支援した。	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 パソコンを使って、学校や家庭でランキングを確認しながら、友だちや家族と一緒に楽しみながら繰り返し記録に挑戦できる運動プログラム「ICTによるランキングシステム」を活用することにより、学校や家庭における運動習慣の確立を支援します。【新規】 教員の研修会等でランキングシステムの普及をすすめるとともに、提供した運動プログラムによる「キッズわんぱくランキング大会」を1月に開催し、取組が顕著な団体や学校を表彰するなど、家庭への運動習慣確立の啓発を行った。また、歩数計を貸与をすることで、ランキング種目「ファミリーチャレンジ歩き遍路」への参加を増やすとともに、運動量の可視化を図り、子供たちが自分の運動習慣を知り、その改善ができるよう支援した。 (単位：グループ) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3,535</td> <td>3,835</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>106.5%</td> <td>3,600</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、運動やスポーツ、体育授業に対して、小学校5年男女、中学校2年男女ともに良好な意識がうかがえるとともに、「体育の授業以外での1週間の総運動時間」は、小学校5年女子、中学校2年男子で全国平均以上となり、「1週間の総運動時間が420分以上」の割合も小学校5年男女、中学校2年男子で全国平均以上となっている。 【課題】運動時間の確保ができていない児童生徒がいる一方で、「1週間の総運動時間が0分」の児童生徒の割合も増加しており、運動習慣の確立に關して2極化が見られる。学校数や児童・生徒数も減少していることから、更なる事業の周知が必要である。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	3,535	3,835					106.5%	3,600
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)														
3,535	3,835					106.5%	3,600														
			担当課 体育学校安全課	今後の取組方針																	
			担当課 体育学校安全課	今後の取組方針																	

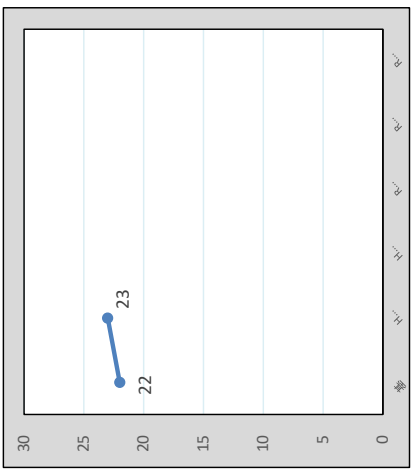
番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																
47	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知徳体一が一体となった成長を支援	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>栄養教諭等が各校の食育リーダーと連携・協力し、学校給食を生きた教材として活用しながら、すべての小・中学校において食に関する指導を積極的に実施します。また、学校を核として、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等とも連携しつつ、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組を進めます。【改善】</p> <p>平成28年度実施の採用候補者審査から栄養教諭の新規採用を開始し、平成30年度は3名の栄養教諭を採用した(志願者は23名)。また、栄養教諭特別選考(任用替え)により、2名の栄養教諭を任用した。</p> <p>(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>57</td> <td>60</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>60</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】栄養教諭採用候補者選考審査と特別選考により、60名の栄養教諭を配置した。栄養教諭を8市2町に複数配置することで、一層の食育の推進と指導の充実が図られた。</p> <p>【課題】年度ごとに志願者数に変動が見られ、一定以上の資質を持った栄養教諭の採用が難しい場合がある。給食管理と食育指導を両立させねばならず、また、複数校で食育指導を実施する場合もあり、負担が大きい。</p> <p>優秀な人材を確保するために栄養教諭を養成する大学を訪問し、志願者確保のための広報に努める。当面は栄養教諭特別選考(任用替え)も併用する。</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>栄養教諭等が各校の食育リーダーと連携・協力し、学校給食を生きた教材として活用しながら、すべての小・中学校において食に関する指導を積極的に実施します。また、学校を核として、家庭、地域の生産者や関係機関・団体等とも連携しつつ、朝食摂取や生活習慣病予防など、発達段階に応じた望ましい食習慣の形成に向けた取組を進めます。【改善】</p> <p>県内全ての小中学校で小学校3学年・中学校2学年に対し、栄養教諭・学校栄養職員が担任と食育の授業を行う「食育推進パワーアップ作戦」をそれぞれの学校や地域の実態に応じて実施した。</p> <p>(単位:%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】食に関する授業を実施するほか、給食の時間における指導や個別的な相談指導等でも専門性を生かした取組を進め、教員や子供たちの食に対する意識が高まった。</p> <p>【課題】単独調理場が少なくなり、学校給食施設のセンター化が進むことで、栄養教諭・学校栄養職員が未配置校に赴いて授業をする機会が増えている。担当校数が増えると、授業時間だけでなく、担任等との打合せのための時間も倍増するため、栄養教諭・学校栄養職員の負担が大きくなっている。</p> <p>栄養教諭の配置拡大を図るとともに、栄養教諭が未配置校に赴いて指導しやすい学校食育推進体制を整備するよう市町村に働きかける。また、栄養教諭・学校栄養職員を対象に、教科等における食に関する指導に関する研修を行う。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	57	60					100.0%	60	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	100	100					100.0%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																												
57	60					100.0%	60																												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																												
100	100					100.0%	100																												
48	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知徳体一が一体となった成長を支援	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>学校における食育の推進</p> <p>■発達段階に応じた望ましい食習慣の形成のための、栄養教諭の配置拡充</p> <p>□小・中学校への栄養教諭の配置人数</p> <p>担当課 教職員課</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>学校における食育の推進</p> <p>■発達段階に応じた望ましい食習慣の形成のための、栄養教諭の配置拡充</p> <p>□栄養教諭・学校栄養職員による食に関する授業を半分以上の学年で実施する小・中学校の割合</p> <p>担当課 体育学校安全課</p>																																

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																				
49	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知能体心が一体となった成長を支援	<p>■施策・□成果指標</p> <p>学校における食育の推進 ■地元食材を使った学校給食を生きた教材とした、食に関する指導の充実 □学校給食に地場産物を活用する割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35</td> <td>43.8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 体育学校安全課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	35	43.8					<p>事業目的 学校給食に県産の安全・安心な食材を活用することにより、感謝の心や郷土愛を育むとともに、野菜がおいしく感じられるような献立作成に取り組みます。また、野菜摂取の大切さについての理解を深め、野菜摂取をはじめとす望ましい食習慣の形成に向けた取組を進めます。【継続】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35</td> <td>43.8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>125.1%</td> <td></td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 【平成30年度の成果】各調理場で積極的に地場産物を活用することができ、国の目標値30%を大きく上回った。また、地場産物を献立に取り入れることで、給食の時間を中心に、地場産物を食に関する指導に生かすことができた。</p> <p>今後の取組方針 【課題】地場産物は時期により価格の変動が大きく、コスト面で積極的な活用が困難な場合がある。</p>	(単位：%)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	35	43.8								125.1%		35
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
35	43.8																																							
(単位：%)																																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
35	43.8																																							
			125.1%		35																																			
50	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	知能体心が一体となった成長を支援	<p>■施策・□成果指標</p> <p>学校保健の充実 ■肥満対策、肥満予防及び生活習慣改善 □生活習慣改善等の健康課題に対する取組を、学校教育計画に位置付け、推進している学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 体育学校安全課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	100	100					<p>事業目的 「元氣なあわわ子憲章」のもと、子供たちが健康について学び、自ら考え、実践できるよう、学校・家庭・地域・専門機関等が連携し、子供たちの望ましい生活習慣の定着を図るため、すべての小中高で生活習慣改善計画を策定し、実践に取り組み、肥満予防・肥満対策、生活習慣病予防対策を推進します。【改善】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="6">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td></td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価 【平成30年度の成果】県内全ての学校が生活習慣改善のための取組を計画することができた。また、他校の取組を参考にし、自校の新たな取組に活用できるように優れた取組についてまとめた冊子を作成し、配付・周知した。</p> <p>今後の取組方針 【課題】「学校保健統計調査」において徳島県の肥満傾向児の出現率は依然として高く、各学校において「生活習慣改善プロジェクト」等の対策を実施しているが、肥満、生活習慣病には、運動不足、食生活や睡眠などの基本的な生活習慣が大きく影響しているため、十分な実態把握と、家庭と連携した継続した取組が必要である。</p>	(単位：%)						基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	100	100								100.0%		100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
100	100																																							
(単位：%)																																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																			
100	100																																							
			100.0%		100																																			

<p>番号</p> <p>推進項目</p> <p>施策の方向性</p>	<p>51</p> <p>確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p> <p>知徳体しが一體となった成長を支援</p>	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校保健の充実</p> <p>■ 肥満対策、肥満予防及び生活習慣改善</p> <p>□ 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」において、肥満傾向を示す本県児童生徒の出現率（小学校5年生・中学校2年生）</p> <p>担当課 体育学校安全課</p> <p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校保健の充実</p> <p>■ 警察、医師会、学校薬剤師等の関係機関と連携した、薬物乱用防止教室の開催</p> <p>□ 薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>99.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	100	99.3					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>学校、家庭及び学校医、医師会等の関係機関と連携し、「肥満健康管理システム」による二次検診の受診を勧めるとともに、個々に応じた指導を行い、肥満対策、肥満予防及び生活習慣の改善に取り組みます。</p> <p>【改善】</p> <p>徳島県医師会との連携による「肥満健康管理システム」を活用した肥満二次検診の受診については、ブライパシナーに配慮しながら個別指導を行うとともに、徳島県医師会と小児生活習慣病対策班会議を開催し、専門的な見地を元に対策を検討した。</p> <p>県内全ての学校において、児童生徒自らが健康課題に取り組む「生活習慣改善プロジェクト」を実施するとともに、小学校では児童の健康増進を目指す「体力アップ100日作戦」、中学校・高等学校では、生徒自身が目標を決めて取り組む「健康力アップ30日作戦」を推進し、自分の生活習慣を見直す機会を促した。</p> <p>さらには、家庭での健康づくりを支援する「元気なあわっ子道場」を県南部（1泊2日）と県西部（日帰り）の2箇所で開催した。</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td>全国平均出現率を上回る</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>全国平均出現率以下</td> <td>全国平均出現率以下</td> </tr> </table> <p>小5</p> <p>中2</p> <p>【平成30年度の成果】平成30年度の「全国体力・運動能力、運動習慣調査」の結果、肥満傾向を示す本県児童生徒の出現率は小学校5年生男子:13.0%、女子9.9%、中学校2年生男子:9.6%、女子9.1%であり、ともに全国の出現率を上回っていた。しかし一方で、悉皆調査である徳島県保健統計による肥満児童生徒のうち、肥満度50%以上の高度肥満児童の出現率は29年度:1.30%、30年度:1.01%と減少傾向にある。</p> <p>【課題】全国的にみて、本県の子どもの肥満傾向児の出現率は依然として高い状態であり、学校だけでなく、保護者や家庭の果たす役割が重要である。</p> <p>継続して「生活改善プロジェクト」に取り組む、子どもたちの肥満予防・肥満対策を図るため、学校・家庭・地域及び医療機関が連携し、運動、食などの基本的な生活習慣の改善の取組を行うとともに、特に「高度肥満」の改善のため、医師会との連携のもと、肥満二次検診対象者には、受診について積極的に勧奨する。</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用に対する正しい知識理解を深め、望ましい行動選択ができる子どもへの育成を目指し、警察、医師会、学校薬剤師等の関係機関と連携し、薬物乱用防止教室をすべての小・中・高等学校において開催します。【継続】</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室は、全ての学校で実施計画が作成された。今年度は学校行事の都合により実施が困難となった学校があったが、各校で関係者や学校薬剤師等の関係機関と連携した薬物乱用防止教室の取組が定着してきている。また、教職員や学校薬剤師、警察関係者等に対し、指導者への養成研修として「薬物乱用防止教育研修会」は310名が参加し実施することができた。</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>99.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>99.3%</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】ほとんども全ての中学校、高等学校で、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室を実施すること、児童生徒が自ら望ましい行動選択ができる意識の醸成が図られた。</p> <p>【課題】青少年へのスマートフォン等の急速な普及等もあり、更なる乱用の広がりが懸念されるため、さらに関係機関等と連携し、広報啓発活動等の取組を推進する必要がある。</p> <p>「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室」を年間計画に位置付け、学校の教育活動全体を通じて指導の充実を図る。また、家庭との連携を踏まえ、学校薬剤師や警察関係等と連携を図りながら、各種研修会で薬物乱用防止教育について一層の周知と啓発を図り、指導者の育成と指導力の向上を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る					全国平均出現率以下	全国平均出現率以下	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	100	99.3					99.3%	100
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																										
100	99.3																																														
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																								
全国平均出現率を上回る	全国平均出現率を上回る					全国平均出現率以下	全国平均出現率以下																																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																								
100	99.3					99.3%	100																																								
<p>番号</p> <p>推進項目</p> <p>施策の方向性</p>	<p>52</p> <p>確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p> <p>知徳体しが一體となった成長を支援</p>	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校保健の充実</p> <p>■ 警察、医師会、学校薬剤師等の関係機関と連携した、薬物乱用防止教室の開催</p> <p>□ 薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>99.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>担当課 体育学校安全課</p> <p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校保健の充実</p> <p>■ 警察、医師会、学校薬剤師等の関係機関と連携した、薬物乱用防止教室の開催</p> <p>□ 薬物乱用防止教室を開催する中・高等学校の割合</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	100	99.3					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室をすべての小・中・高等学校において開催します。【継続】</p> <p>喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室は、全ての学校で実施計画が作成された。今年度は学校行事の都合により実施が困難となった学校があったが、各校で関係者や学校薬剤師等の関係機関と連携した薬物乱用防止教室の取組が定着してきている。また、教職員や学校薬剤師、警察関係者等に対し、指導者への養成研修として「薬物乱用防止教育研修会」は310名が参加し実施することができた。</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>100</td> <td>99.3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>99.3%</td> <td>100</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】ほとんども全ての中学校、高等学校で、喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室を実施すること、児童生徒が自ら望ましい行動選択ができる意識の醸成が図られた。</p> <p>【課題】青少年へのスマートフォン等の急速な普及等もあり、更なる乱用の広がりが懸念されるため、さらに関係機関等と連携し、広報啓発活動等の取組を推進する必要がある。</p> <p>「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室」を年間計画に位置付け、学校の教育活動全体を通じて指導の充実を図る。また、家庭との連携を踏まえ、学校薬剤師や警察関係等と連携を図りながら、各種研修会で薬物乱用防止教育について一層の周知と啓発を図り、指導者の育成と指導力の向上を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	100	99.3					99.3%	100																
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																																										
100	99.3																																														
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																								
100	99.3					99.3%	100																																								

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																					
53	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	質の高い幼児教育の推進	■施策・□成果指標 質の高い幼児教育の推進 ■幼稚園等と小学校の連携のあり方の研究と成果普及 □幼稚園等と小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合 	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 県内すべての乳幼児が養育環境に関わらず、生涯にわたる人格形成の基礎を培う質の高い幼児教育・保育を提供するため「認定こども園」の設置促進、保育教諭、幼稚園教諭及び保育士に対する研修の充実など必要な環境整備に取り組むとともに、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図ります。【継続】 県内2地域をモデル地域（阿南市・石井町）として幼小連携事業を進め、事業の成果を普及した。文部科学省の委託事業「幼児教育の推進体制構築事業」を活用し、アドバイザーによる幼小への訪問指導の中で、幼小連携の具体的な意義について啓発を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>87</td> <td>96</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>104.3%</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】 昨年度と比較して、幼稚園・小学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が増えている。県「学びのかけ橋」推進事業及び文部科学省の委託事業「幼児教育の推進体制構築事業」の成果が現れていると考えられる。 【課題】 モデル地域以外への成果の更なる普及を図るとともに、教職員の異動等があっても、継続的に幼小連携を行うための組織体制づくり及びカリキュラム編制を進めていく必要がある。 モデル地域において、就学前教育と小学校との連携を図るカリキュラム編制について調査研究を進め、各種研修会やあわ教育発表会で周知を図る。	(単位：%)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	87	96					104.3%	92
(単位：%)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																		
87	96					104.3%	92																		
54	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	質の高い幼児教育の推進	■施策・□成果指標 質の高い幼児教育の推進 ■小・中学校の円滑なつながりと学力向上を図るための、小中一貫教育についての研究と成果普及 □小・中学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合 	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 小・中学校のより円滑なつながりと学力向上を図るため、小・中学校の教員間において情報交換等の会議を実施し、小中一貫教育について研究を進め、その成果を普及します。【改善】 あわ(OUR)教育発表会において、小中一貫教育の実践校である佐那河内小中学校、明神小・瀬戸中学校の取組を発表し、県下の学校に、その成果について普及した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>77</td> <td>78</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>86.7%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】 1%ではあるが、昨年度と比較して、小中学校の教員間で情報交換等の合同会議や研修会を行う割合が増えている。平成27年度では、その割合が70%であったので、このことから小中のつながりの重要性が浸透し、着実に成果が現れていると考えられる。 【課題】 各中学校区においては、元々進級時の情報交換会があるので、それを元にして、より一層小中のつながりのある取組へと発展する体制づくりが必要である。 小中一貫教育（徳島モデル）推進事業との連携を図り、実践地域において小中のより円滑なつながりに関する実証研究を推進するとともに、効果的な小中の連携の仕方や、その成果について、他地域へも普及していく。	(単位：%)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	77	78					86.7%	90
(単位：%)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																		
77	78					86.7%	90																		

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針												
55	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	質の高い幼児教育の推進	<p>■施策・□成果指標</p> <p>小中学校のより円滑なつながりと学力向上 ■小・中学校間における教員の安定した人事交流 □小・中学校間における教員の人事交流</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>18</td> <td>19</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	18	19					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>県内すべての乳幼児が養育環境に関わらず、生涯にわたる人格形成の基礎を培う質の高い幼児教育・保育を提供するため「認定こども園」の設置促進、保育教諭、幼稚園教諭及び保育士に対する研修の充実など必要な環境整備に取り組みつつも、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながる発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育の充実を図ります。【新規】</p> <p>平成30年度は小学校から中学校へ2名、中学校から小学校へ4名、計6名が新たに人事交流を行い、合計19名が異職種で勤務している。3年間の交流を終えた者は、原則として元の職種に戻るため、小中連携の強化に繋がった。</p> <p>【平成30年度の成果】小中交流を実施することで、義務教育の9年間を見通しながら、専門性を生かした教育活動が展開できた。また、教員の資質の向上と小中連携の強化に繋がった。</p> <p>【課題】小中交流の希望者が少なく、安定的な人数を継続的に確保するために、希望者を増加させる必要がある。</p> <p>人事交流の趣旨と制度の概要について周知を図り、交流希望者の確保を図る。新任近距離勤務終了者が3年間の小中交流を希望した場合、これをもって遠距離勤務とみなすことで、交流希望者の増加に繋げる。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4											
18	19															
56	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■施策・□成果指標</p> <p>教育相談体制の充実 ■スクールカウンセラーを活用した教育相談体制の充実 □スクールカウンセラーの配置校数(拠点校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>78</td> <td>79</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：校)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	78	79					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>いじめや不登校等の生徒指導上の諸課題にきめ細かに対応するため、スクールカウンセラーの全公立学校への配置・派遣を継続するとともに、県立学校等への配置を拡充し、教育相談体制の充実を図ります。【改善】</p> <p>スクールカウンセラーを拠点校79校(中学校72校、高等学校6校、特別支援学校1校)、対象校187校に配置した。また、県立学校からの要請に応じてスクールカウンセラーを学校等に派遣した。(県立学校への派遣：15校に356時間)</p> <p>【平成30年度の成果】従来の相談活動に加え、教員と連携した心理に関する授業や職員研修に心の専門家として参画するなど、いじめ・不登校等の予防教育を実施することができた。また、学校等の実態に応じて相談時間を設定するなど、スクールカウンセラーの効果的な活用に取り組みることができた。</p> <p>【課題】スクールカウンセラーの配置拡充に伴う人材確保が困難である。また、相談件数が増加する中、県立学校や教育支援センターへの配置や派遣の拡充が必要である。</p> <p>県立学校の拠点校化、教育支援センターへの配置拡充により、教育相談の充実を図る。また、職能団体や大学等と連携し、スクールカウンセラーの人材の確保や研修等による資質の向上に取り組む。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4											
78	79															

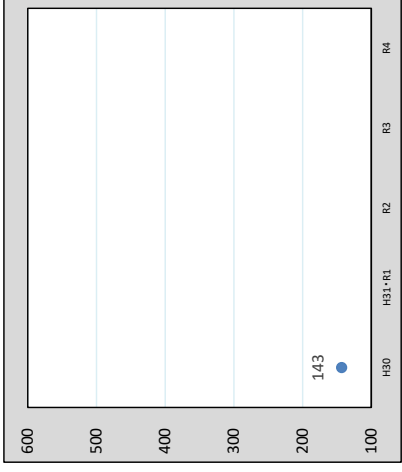
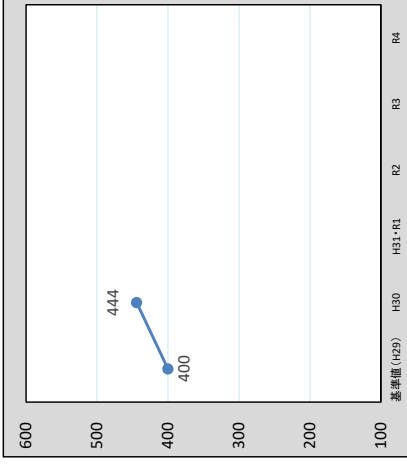
<p>番号</p> <p>57</p>	<p>推進項目</p> <p>確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p>	<p>施策の方向性</p> <p>子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり</p>	<p>■施策・□成果指標</p> <p>教育相談体制の充実</p> <p>■児童生徒や保護者への支援、関係機関との連携等のためのスクールソーシャルワーカーの配置拡充</p> <p>□スクールソーシャルワーカーの配置人数</p>  <p>担当課 人権教育課</p>	<p>事業目的</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>	<p>事業目的</p> <p>各小・中学校及び県立学校にスクールソーシャルワーカーを配置・派遣し、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働き掛けて支援を行い、問題の解決を図るため、スクールソーシャルワーカーの配置拡充を図ります。【継続】</p>	<p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>スクールソーシャルワーカーを23名委嘱し、16市町教育委員会に配置するとともに、公立学校等の要請に応じて派遣した。</p>	<p>評価</p> <p>【平成30年度の成果】スクールソーシャルワーカーを配置した16市町教育委員会では、生徒指導上の諸課題に迅速に対応するとともに、継続した支援を行うことができた。また、学校等からの要請により、小学校1校、中学校1校、高等学校2校、特別支援学校2校、その他1施設に計8回派遣し、学校等に指導助言を行い、対応力の向上を図ることができた。</p> <p>【課題】相談件数が増加する中、市町村教育委員会への配置や公立学校等への派遣の拡充を図る必要がある。また、拡充に伴うスクールソーシャルワーカーの人材の確保が困難である。</p>	<p>今後の取組方針</p> <p>市町村教育委員会へのスクールソーシャルワーカーを配置拡充し、それぞれ所管する小中学校に対して、児童生徒や保護者への支援、関係機関との連携、働きかけ等ができる体制を整備する。また、福祉関係機関の協力のもと、スクールソーシャルワーカーの人材確保を図るとともに、資質の向上のための研修会を実施する。</p>	<p>事業目的</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>	<p>事業目的</p> <p>ライフステージに応じた人権研修「“あわ”じんけん講座」を充実させるとともに、人権教育指導用引書を活用した人権教育を進め、いじめや差別の解消に資する指導内容や指導方法の工夫・改善に取り組みます。【改善】</p>	<p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>“あわ”じんけん講座 ①実践力向上講座 (8年目の教員) 幼 (7月27日)、小(7月23日)、中(7月25日)、高・特(7月25日) ②指導力充実講座 (10年経験者) 幼、小、中、高・特(8月16日) ③希望研修 (8月17日)</p>	<p>評価</p> <p>【平成30年度の成果】従来の基本研修や職務研修と「“あわ”じんけん講座」を関連させることで、教職員のライフステージに応じた人権教育の研修を実施することにより、人権問題の理解と人権意識の高揚につながっている。</p> <p>【課題】人権教育のほかに様々な内容の研修が求められており、基本研修や職務研修で、人権教育に関する研修の機会を確保することが困難になってきている。研修内容の充実を図るとともに、総合教育センター等との連携を密にし、研修機会を更に確保していく必要がある。</p>	<p>今後の取組方針</p> <p>全国的に教員の世代交代が進んでいるので、今後もライフステージに応じた人権教育の研修を継続して行い、教員の人権意識と指導力の向上に努めていく。研修において身に付けた知識や技能を、組織的な取組や幼児児童生徒の成長につなげていけるように、研修内容・指導方法の改善・充実に努める。</p>	<p>担当課 人権教育課</p>
<p>番号</p> <p>58</p>	<p>推進項目</p> <p>確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成</p>	<p>施策の方向性</p> <p>子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり</p>	<p>■施策・□成果指標</p> <p>人権教育の推進・充実</p> <p>■“あわ”人権学習ハンドブックを活用した教職員研修の充実</p> <p>□“あわ”じんけん講座の充実</p> <p>担当課 人権教育課</p>	<p>事業目的</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>	<p>事業目的</p> <p>ライフステージに応じた人権研修「“あわ”じんけん講座」を充実させるとともに、人権教育指導用引書を活用した人権教育を進め、いじめや差別の解消に資する指導内容や指導方法の工夫・改善に取り組みます。【改善】</p>	<p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>“あわ”じんけん講座 ①実践力向上講座 (8年目の教員) 幼 (7月27日)、小(7月23日)、中(7月25日)、高・特(7月25日) ②指導力充実講座 (10年経験者) 幼、小、中、高・特(8月16日) ③希望研修 (8月17日)</p>	<p>評価</p> <p>【平成30年度の成果】従来の基本研修や職務研修と「“あわ”じんけん講座」を関連させることで、教職員のライフステージに応じた人権教育の研修を実施することにより、人権問題の理解と人権意識の高揚につながっている。</p> <p>【課題】人権教育のほかに様々な内容の研修が求められており、基本研修や職務研修で、人権教育に関する研修の機会を確保することが困難になってきている。研修内容の充実を図るとともに、総合教育センター等との連携を密にし、研修機会を更に確保していく必要がある。</p>	<p>今後の取組方針</p> <p>全国的に教員の世代交代が進んでいるので、今後もライフステージに応じた人権教育の研修を継続して行い、教員の人権意識と指導力の向上に努めていく。研修において身に付けた知識や技能を、組織的な取組や幼児児童生徒の成長につなげていけるように、研修内容・指導方法の改善・充実に努める。</p>						

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																					
59	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	事業目的 取組状況 (H30年度分)	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>「自尊感情」や「まわりの人を大切にしている心や態度」、「互いのちがいを多様性を認めることができる力」の育成が、学校での人権教育に期待されていることから、人権教育研究指定校での研究発表や人権教育主要研修会等を効果的に活用して情報共有し、実践的な研究の中で、いじめの未然防止や差別の解消に取り組まします。【継続】</p> <p>1 研究指定校の指定 ○県指定（あいおいこども園、徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校、名西高等学校） ○文部科学省指定（相生小学校、柿原小学校、小松島中学校、石井中学校） 研究発表会の開催 11月2日（小松島中学校）、11月9日（あいおいこども園、相生小学校）、 11月21日（徳島視覚支援学校・徳島聴覚支援学校） ホームページ等での情報発信</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】研究指定校においては、実践研究を深め、指導内容や指導方法の改善・充実を図るとともに、教職員の人権意識の高揚やP T A研修の充実にもつながった。研究発表会の開催、人権教育課のホームページ上での情報発信等により、研究の成果を広く県内各園・校に普及し、人権教育の充実を図ることができた。</p> <p>【課題】研究指定校への支援、研究成果等の普及については、更に工夫改善を行っていく必要がある。</p>	(単位：校)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	8	8					100.0%	8
(単位：校)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																		
8	8					100.0%	8																		
60	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	事業目的 取組状況 (H30年度分)	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>学校教育における人権教育を推進するため、様々な人権課題に対応した講師を派遣し、教員の人権意識の高揚と指導力向上を図ります。【継続】</p> <p>38名の徳島県人権教育指導員を委嘱し、各学校及び市町村教育委員会が主催する研修会等において、個別人権課題や普遍的な視点についての指導助言を行った。様々な人権課題や今日的な課題に対応できるようにするために、指導員の選考を行い、推進方針に掲げる全ての個別人権課題に加えて普遍的な観点からも指導できる体制を整えた。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">(単位：%)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>95</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>105.6%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】豊かな知識や経験を有する人権教育指導員を校内研修会等の講師として派遣し、人権に関する知識・理解を深め、指導力や実践力の向上を図ることができた。</p> <p>【課題】各学校等から依頼のあった研修会に偏りがある。各学校や市町村教育委員会等に、可能な限り幅広く個別人権課題を取り上げた研修が行われるように働きかけていく必要がある。</p> <p>今後とも、幅広い研修の要望に応えられる体制を整えていく。また、人権教育指導員の連絡会において今日的な課題、特に「部落差別の解消に関する法律」等についての研修会や情報交換を行い、指導員の指導力の向上を図っていく。</p>	(単位：%)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	90	95					105.6%	90
(単位：%)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																		
90	95					105.6%	90																		

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
61	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	■施策・□成果指標 人権教育の推進・充実 ■様々な人権問題解決の実践力を身に付けたリーダーの育成 □中・高生による人権交流集會参加者の満足度	事業目的 中・高生による人権交流学習を発展させ、校種間の切れ目のない人権教育の実践力向上を図る体制づくりを図ります。また、その中で様々な人権問題を解決する実践力を身に付けた次世代のリーダーの育成に取り組めます。【継続】	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 「中・高生による人権交流集會」には423名の参加者があり、講演後の分科会では、「在日コリアン」「児童虐待～子どもの人権～」の性の多様性について」の3テーマで各ブロックの活動の発表や意見交換が行われました。交流集會の午前中は遊芸芸能チングドゥルの公演を開催し、分科会後には各ブロックの報告会も実施した。 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>75</td> <td>92</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>122.7%</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】 人権交流集會当日は、中学生・高校生・高校生・特別支援学校の生徒・教職員・保護者等が多く参加し、各ブロックや全体会で活発に交流ができた。 【課題】 6月以降の中南西の各ブロック生徒部会における生徒の参加数が増加し、更に交流が図られることが課題である。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	75	92					122.7%	75
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)														
75	92					122.7%	75														
62	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	■施策・□成果指標 人権教育の推進・充実 ■地域ぐるみのいじめや差別のない社会の構築 □人権教育総合推進地域の指定地域数	事業目的 取組状況(30年度分)	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 学校・家庭・地域が一体となり、人権教育の総合的な取組を通じて、地域ぐるみでいじめや差別のない社会を築くための人権教育を進めるとともに、その成果を県のホームページ等で公表することにより、学校における指導方法の工夫・改善につなげていきます。【継続】 1 総合推進地域の指定 文部科学省指定として、勝浦町と阿南市の2地域を指定して研究を実施した。 2 連絡協議会の開催 研究の進め方や成果を検証・改善等を協議した。(第1回 7月9日 第2回 2月25日) 3 研究成果の普及 ホームページで総合推進地域の取組について情報を発信した。 (単位：地域) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】 総合推進地域においては、教育委員会が学校と連携しながら地域全体で充実した取組を展開することができた。連絡協議会では、学校教育と社会教育の取組と一緒に協議し、校種間の接続や連携・協働の視点から人権教育の総合的な推進について考えることができた。 【課題】 総合推進地域への支援、研究成果等の普及については、更に工夫改善を行っていく必要がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	2	2					100.0%	2
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)														
2	2					100.0%	2														

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
63	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■ 施策の推進・充実</p> <p>■ 地域的先頭に立って人権教育を推進していくことのできる指導者の育成</p> <p>□ 社会教育における人権教育指導者研修会受講者の満足度</p> <table border="1"> <caption>基 準 値 (H29) 目 標 値 (H30)</caption> <thead> <tr> <th>基 準 値 (H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達 成 率 (H30)</th> <th>目 標 値 (H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>90</td> <td>98</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>108.9%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table>	基 準 値 (H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達 成 率 (H30)	目 標 値 (H30)	90	98					108.9%	90	<p>事業目的</p> <p>社会教育における人権教育指導者研修会において、地域的先頭に立って人権教育を推進していくことのできる指導者の養成と、その資質向上を図ります。【改善】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>社会教育における人権教育を推進するため、市町村から推薦した推進担当者50名を対象として2日間の継続研修を実施した。「徳島県人権教育推進方針」に基づき人権教育や人権の視点でのまちづくりの講演、市町村における取組についての情報交換を行うとともに、体験的参加型による研修を行い、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。</p> <p>評 価</p> <p>【平成30年度の成果】6月と1月に「社会教育における人権教育指導者研修会」を計2回開催し、外部有識者の意見をいただき、各市町村の諸事業推進に役立つことができた。また、体験的参加型による研修を実施し、人権教育推進者の養成と資質向上を図った。社会教育における人権教育に携わる各市町村の推進者が、日頃の悩みや課題を共有する貴重な機会となっており、情報交換をすることで各市町村での取組・改善に向けた有効な場となっている。</p> <p>【課題】研修会参加者の経験年数にばらつきがあり、研修内容の工夫改善が必要である。また、各市町村の諸事業にどのようなように反映したかを把握するために、情報を更に共有できる研修会を実施していく。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>毎年約50名の推進者が参加しているが、研修の成果を広めることができよう、参加者の出席についても引き続き働きかけるとともに、個人人権課題についての研修や体験的参加型研修の内容の充実及び効果的な人権教育・啓発について情報交換を行い、社会教育における人権教育推進者の資質の向上と計画的な推進者の確保につなげる。</p>
基 準 値 (H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達 成 率 (H30)	目 標 値 (H30)													
90	98					108.9%	90													
64	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	子どもたちの健全な生活を守りぬく環境づくり	<p>■ 施策の推進・充実</p> <p>■ 命に関する作品募集を通じた、人権尊重精神の涵養</p> <p>□ 命に関する作品募集の応募点数</p> <table border="1"> <caption>基 準 値 (H29) 目 標 値 (H30)</caption> <thead> <tr> <th>基 準 値 (H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達 成 率 (H30)</th> <th>目 標 値 (H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5,531</td> <td>5,135</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.7%</td> <td>5,000</td> </tr> </tbody> </table>	基 準 値 (H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達 成 率 (H30)	目 標 値 (H30)	5,531	5,135					102.7%	5,000	<p>事業目的</p> <p>命に関する作品の募集やその活用・展示を通して、幼児児童生徒をはじめ県民の人権意識の高揚を図ります。【改善】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>1 作品募集 県内の幼稚園児から大人の方まで5,135点の作品応募があった。 2 優秀作品の表彰式 平成30年12月27日の表彰式において、優秀作品 (33作品) を表彰するとともに作品の展示を行った。 3 優秀作品の活用 優秀作品を啓発用パネルにし、人権教育資料への掲載等で活用できるようにした。</p> <p>評 価</p> <p>【平成30年度の成果】「人とのつながり」の大切さや言葉の力のすばらしさを考える機会となった作品募集とともに表彰式や優秀作品のパネル展示、パネルの貸出しなどにより、多くの県民が人権について考える機会とすることができた。</p> <p>【課題】本事業は、毎年、児童生徒に広く普及しつつある。今後は、一般の部の作品の充実に向けて、学校を通じて保護者への参加呼びかけや各市町村教育委員会、県立施設等へリーフレットを配付し、広報に努めていく。また、「人とのつながり」や言葉の力のすばらしさをテーマにした作品であるため、学校や地域社会での人権フェスティバルや文化祭等において人権意識の高揚を図るために、効果的な作品の活用が必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>作品募集について工夫し更に広報に努める。また、様々な機会を捉えて作品パネルの展示や貸出しを行うとともに、優秀作品を人権教育資料への掲載等により、効果的な作品の活用を図る。</p>
基 準 値 (H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達 成 率 (H30)	目 標 値 (H30)													
5,531	5,135					102.7%	5,000													

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																																																																																																																																																
65	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>本県教員のキャリアアステージに応じた求められる資質・能力を明示した「とくしま教員育成指標」を踏まえた研修計画を定め、総合教育センターを中心に多種多様な研修を実施し、学び続ける教員を支援する環境を整備します。【新規】</p> <p>総合教育センターで実施しているすべての研修講座において、終了時に受講者全員に対してアンケートを実施し、その質問事項の満足度の集計を実績値とした。実施したアンケート結果から、各研修講座の担当者が分析を行い、見出した課題についての改善を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値(H29)</th> <th colspan="5">H30</th> <th colspan="5">H31・R1</th> <th colspan="5">R2</th> <th colspan="5">R3</th> <th colspan="5">R4</th> <th colspan="5">達成率(H30)</th> <th colspan="5">目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td colspan="5">基準</td> <td colspan="5">98.3</td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5">109.2%</td> <td colspan="5">90</td> </tr> </thead> </table> <p>(単位：%)</p> <p>【平成30年度の成果】フレッシユ研修Ⅰ、フレッシユ研修Ⅱ、ジャンプアップ研修、ミドルリーダー研修Ⅰ、リーダーシップ養成研修、主幹教諭・指導教諭研修、学校リーダー研修の全てにおいて、満足度90%を越えた。</p> <p>【課題】各研修講座において、様々な教育的課題や目的、受講者のニーズ等に応じた研修内容を実施するため、実施した研修についての検証を行い、よりよい研修の実施に向けて改善を図っていく必要がある。</p> <p>全ての教職員が主体的に学び、自己を高め、学校目標を達成できよう、キャリアアステージに応じた体系的な研修の充実を図る。喫緊の課題に対応するために、地域や校内のリーダーを養成するリーダーシップ養成研修や小学校英語教科化に伴う専門性向上を図る研修の充実に取り組む。</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>県内外の大学で教員採用説明会を開催する等の積極的な広報を展開し、優秀な人材の確保に努めます。【継続】</p> <p>中四国、近畿の大学を中心に、計20回の教員採用に係る説明会を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値(H29)</th> <th colspan="5">H30</th> <th colspan="5">H31・R1</th> <th colspan="5">R2</th> <th colspan="5">R3</th> <th colspan="5">R4</th> <th colspan="5">達成率(H30)</th> <th colspan="5">目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td colspan="5">基準</td> <td colspan="5">20</td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5">100.0%</td> <td colspan="5">20</td> </tr> </thead> </table> <p>(単位：回)</p> <p>【平成30年度の成果】平成24年度からこれまで優秀な教員の確保のため、大学での説明会の回数を拡充してきた。その結果、志願者数は、平成29年度実施の採用審査では5年ぶりに増加し、平成30年度実施の採用審査では減少したものの微減にとどまっており、着実に成果が表れている。</p> <p>【課題】説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4回生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1～3回生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならない。</p> <p>引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるよう大学とへの働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やし実施する。</p>	基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(H30)					目標値(H30)					基準					98.3																									109.2%					90					基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(H30)					目標値(H30)					基準					20																									100.0%					20				
基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(H30)					目標値(H30)																																																																																																																																
基準					98.3																									109.2%					90																																																																																																																																
基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(H30)					目標値(H30)																																																																																																																																
基準					20																									100.0%					20																																																																																																																																
66	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>本県教員のキャリアアステージに応じた求められる資質・能力を明示した「とくしま教員育成指標」を踏まえた研修計画を定め、総合教育センターを中心に多種多様な研修を実施し、学び続ける教員を支援する環境を整備します。【新規】</p> <p>総合教育センターで実施しているすべての研修講座において、終了時に受講者全員に対してアンケートを実施し、その質問事項の満足度の集計を実績値とした。実施したアンケート結果から、各研修講座の担当者が分析を行い、見出した課題についての改善を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="5">基準値(H29)</th> <th colspan="5">H30</th> <th colspan="5">H31・R1</th> <th colspan="5">R2</th> <th colspan="5">R3</th> <th colspan="5">R4</th> <th colspan="5">達成率(H30)</th> <th colspan="5">目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td colspan="5">基準</td> <td colspan="5">20</td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5"></td> <td colspan="5">100.0%</td> <td colspan="5">20</td> </tr> </thead> </table> <p>(単位：回)</p> <p>【平成30年度の成果】平成24年度からこれまで優秀な教員の確保のため、大学での説明会の回数を拡充してきた。その結果、志願者数は、平成29年度実施の採用審査では5年ぶりに増加し、平成30年度実施の採用審査では減少したものの微減にとどまっており、着実に成果が表れている。</p> <p>【課題】説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4回生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1～3回生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならない。</p> <p>引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるよう大学とへの働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やし実施する。</p>	基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(H30)					目標値(H30)					基準					20																									100.0%					20																																																																																				
基準値(H29)					H30					H31・R1					R2					R3					R4					達成率(H30)					目標値(H30)																																																																																																																																
基準					20																									100.0%					20																																																																																																																																

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針																
67	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	■施策・□成果指標 教職員の資質能力向上 ■校内のリーダーを養成するためのリーダーシップ養成研修の実施 □リーダーシップ養成研修受講者数(累計) 	事業目的 教職員をまとめリーダーのできる管理職の育成を目指すとともに、校内のリーダーを養成するためにリーダーシップ養成研修を実施します。【新規】	地域や学校でリーダーとしての役割を担うことが期待される教員を、市町村立小・中学校は各市町村教育長の推薦、県立学校は校長の推薦により選出した。全国的な教育の動向、法令リスク管理、リーダーとして必要とされるコミュニケーション能力育成等幅広い視野から知見を得ることにより、県内の教育活動の質の向上を図った。 (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>143</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>130.0%</td> <td>110</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】 地域や学校を広い視野で捉えた組織的な教育活動を展開し、人材育成に積極的に取り組む教員の育成のための研修となり、受講者の22.4%が、教頭、主幹教諭、指導教諭等に昇任した。 【課題】 受講者は、校内において多忙な教員が多いことから、受講機会の確保ができるように、日程の調整やサテライト会場を確保する必要がある。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	143					130.0%	110
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)														
準備	143					130.0%	110														
68	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	■施策・□成果指標 教職員の資質能力向上 ■教職員のICT活用指導力の向上 □ICTを活用した授業実践の研修受講者数 	事業目的 授業等において、タブレット端末等を取り入れた指導ができるよう、教職員のICT活用指導力の向上を目指す。【改善】	1 教職経験年数に応じたフレンシユ研修 I (初任者)、ミドルリーダー研修 I (10年次) において、情報教育に関する講義やICT活用を取り入れた模擬授業形式の研修を実施した。(各1日) 2 希望者を対象とした研修において、学校でのICT活用を想定した研修講座を実施した。(7講座11回) (単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>400</td> <td>444</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>111.0%</td> <td>400</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】 プログラミング教育やタブレット活用等に関する研修講座の内容を充実させることにより、授業におけるICT活用について理解とスキルを深めることができた。 【課題】 文部科学省「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」(平成30年3月実施)において、ICT活用指導力について、「わりにできる」「ややできる」と回答した本県の教員の割合は90.4%と年々向上しており、全国平均(76.5%)を上回っているもの、今後この割合の向上が求められる。 今後も、授業における教員のICT活用指導力向上に資する研修内容の改善に取り組むとともに、新学習指導要領で示された、児童生徒の情報活用能力(プログラミング教育、情報モラル教育を含む。)の育成に関する研修内容を充実させる。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	400	444					111.0%	400
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)														
400	444					111.0%	400														

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																								
69	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>教職員の資質能力向上 ■ 小学校英語教科化に伴う専門性向上のための研修の充実 □ 英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>436</td> <td>679</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p> <p>【平成30年度の成果】 ほとんどの地域で「出前!小英ヘルプデスク」を実施し、多くの参加があった。悩みに対して指導主事と直接、協議することで改善が図られ、近隣の中学校英語担当教員も参加したことで、小・中連携を図ることができた。</p> <p>【課題】 学習指導要領改訂に伴う英語教育大改革を受け、小学校教員は新設された英語科の指導に強い不安感をもっている。小学校教員の多岐にわたる悩みや課題を解決するための研修を負擔軽減も考えながら実施することが必要である。</p> <p>新学習指導要領のねらいを踏まえた授業が実施できるように、授業改善及び英語指導力向上を図るため、発音トレーニングを取り入れた研修を実施する。また、英語教育に携わる教員の力量をアップし、県内の全ての児童の発信力強化のため、小中高連携に取り組み。</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、英語教育の専門性向上のための研修を充実します。【新規】 ケーセッション能力の育成を推進するため、小学校教員の専門性向上のための研修を充実します。【新規】</p> <p>「出前!小英ヘルプデスク」を立ち上げ、小学校外国語教育を発展・充実させる上での課題や小学校外国語教育に携わる教員の不安要素についてサポートを行った。小学校教員の英語力及び指導力向上に特化した「英語中核教員研修A(小学校)」を実施し、各基本研修においては模擬授業や演習等を実施するなど、小学校教員の英語力や指導力の向上を図った。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>436</td> <td>679</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>達成率(H30) 117.1% 目標値(H30) 580</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	436	679					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	436	679				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
436	679																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
436	679																										
70	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>教職員の資質能力向上 ■ 各所属におけるコンプライアンス研修の充実 □ コンプライアンス研修(要請)の実施回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39</td> <td>45</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:回)</p> <p>【平成30年度の成果】 各校(所属)の課題や実情に応じた研修内容を作成し、ポイントを絞った研修が実施できることに加え、直接各校の教職員と接してその声を聞くことができた。大きな意義がある。また、講師派遣の周知も浸透しつつあり、校内研修において年間計画に複数回要請研修を位置づける学校も出てきた。研修後実施したアンケートの肯定的評価は、「研修内容」についてが99.6%、「今後の業務に役立つか」についてが99.4%であった。</p> <p>【課題】 昨年度に続いて要請を受けた学校も多かったが、まだ未実施の学校も多い。そのため、継続的な研修実施に加えて、新たな研修実施校の拡充や市町村教育委員会が主催する研修会実施の拡充が必要である。</p> <p>新たな研修実施校を増やすために、年度当初に開催される「コンプライアンス推進員会議」において、より積極的に講師派遣を呼びかける。また、市町村教育委員会に働きかけ、県教育委員会と連携した研修を実施する。さらに、平成26年度に開設した「コンプライアンス研修」を随時更新し、効果的に広報していくとともに、要請を受けた学校の要望に応じた研修内容を工夫し、その充実を図る。</p> <p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>不祥事根絶対策タスクフォースからの提言を踏まえ、全教職員のコンプライアンス研修を継続するとともに、研修内容を改善することにより、教職員の知識と意識の更新を図ります。また、教職員の高い規範意識を維持するため、eラーニングによるコンプライアンス研修を継続するとともに、絶えず研修内容を改善することにより、教職員の知識と意識の更新を図ります。【継続】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 推進員会議、各校長会等の各種会議において、講師派遣の広報に努めた。 2 平成26年度に開設した「コンプライアンス研修のページ(改訂版)」の啓発に努めた。 3 基本である「信頼される学校・教職員へのステップ」の啓発に努めた。 <p>県立学校(21)、市町村教育委員会主催の研修会(4)、小中学校(16)、市立高等学校(1)、事務局・教育機関(4)へ講師を派遣し、研修を実施した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>39</td> <td>45</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>達成率(H30) 112.5% 目標値(H30) 40</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	39	45					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	39	45				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
39	45																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																						
39	45																										

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針																																
71	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	■ 施策・□ 成果指標 ■ 教職員の健康保持 □ 教職員のメンタルヘルス不調の予防と再発防止 □ 研修の充実や相談体制の利用促進、きめ細かな復帰支援の実施	事業目的 教職員が安心して教育活動に専念し、その能力を十分に発揮できるように、メンタルヘルスについての知識やストレスへの対処行動を身に付ける実践的な研修の充実の努めます。また、メンタルヘルスの気付きを促すストレスチェックの円滑な実施や、各種相談制度の周知方法を改善に努め、利用促進を図ります。【改善】 1 一次予防 「メンタルヘルスマネジメント研修」は、新任教頭等を対象に3回実施し、127人が受講。 「メンタルヘルス出前講座」は、23校で実施、590人が受講。 「ストレスチェック」は、2,768名が受検し、受検率は93.4%。 「教職員相談事業」は、専門相談員12名で、65件の相談に対応。 「教職員職場復帰支援事業」 臨床心理士を所属校に派遣し、面接による助言指導を実施。8名の復帰者が利用。 (単位：－) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】一次予防から三次予防までの体系化したメンタルヘルス対策を実施。一次予防として実施しているストレスチェックは、受検率が年々伸びており、個々のメンタル不調の気付きを促すことができ。教職員職場復帰支援事業利用者8名については、円滑な職場復帰を果たした。 【課題】ストレスチェックを負担に感じる教職員がいることから、周知や受検勧奨方法に配慮が必要である。また、メンタル不調者の再発防止のためには、休職から復帰した職員やその管理職に対するきめ細やかな対応を継続して行うことが重要である。 ストレスチェックの結果等を参考に関係機関と連携をはかり、メンタルヘルス対策を推進する。また、「福厚生ポータルサイト」等、多様な媒体により、相談窓口等メンタルヘルス対策事業の周知を行い、教職員一人ひとりの意識啓発につなげる。 事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針 教職員の健康管理を支援するため、生活習慣病の予防・悪化防止のための出前講座の積極的な実施や、公立学校共済組合等との協働により、様々な機会をとらえ、特定保健指導の受診勧奨に努めます。【改善】 ○ 健康づくり及び生活習慣病予防を目的とした出前講座を、2校で実施し、40名が受講した。 ○ ライフプランセミナー（講座の一部として実施）では、4回、合計 346名が受講した。 (単位：回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】定期健康診断等の受診率は高率であり、各教職員が自分自身の健康状態を把握することにつながっている。また、出前講座やライフプランセミナーの実施により、生活習慣改善を促すきっかけづくりとなった。 【課題】各教職員自身が生活習慣病予防・悪化防止のために生活習慣改善を行うためには、個別支援が不可欠であり、共済組合との協働により個別の健康情報提供を行うとともに、積極的な受診勧奨により特定保健指導の実施率を向上させ、有所見率の低下につなげることが重要である。 生活習慣病予防や悪化防止は、短期間で結果が出るものではないため、今後も共済組合等関係機関と連携し、個人の健診結果に即した情報提供や特定保健指導等の個別指導や出前講座など、継続的な事業実施が必要である。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進						推進	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	6					100.0%	6
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
推進	推進						推進																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
5	6					100.0%	6																													
72	確かな学力、豊かな心、健やかな体の育成	未来を拓く教職員の育成	■ 施策・□ 成果指標 ■ 教職員の健康保持 ■ 教職員の生活習慣病予防・悪化防止のための取組の推進 □ 公立学校共済組合等との協働により実施する、特定保健指導の推進につながる出前講座等の開催数	事業目的 ○ 健康づくり及び生活習慣病予防を目的とした出前講座を、2校で実施し、40名が受講した。 ○ ライフプランセミナー（講座の一部として実施）では、4回、合計 346名が受講した。 (単位：回) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】定期健康診断等の受診率は高率であり、各教職員が自分自身の健康状態を把握することにつながっている。また、出前講座やライフプランセミナーの実施により、生活習慣改善を促すきっかけづくりとなった。 【課題】各教職員自身が生活習慣病予防・悪化防止のために生活習慣改善を行うためには、個別支援が不可欠であり、共済組合との協働により個別の健康情報提供を行うとともに、積極的な受診勧奨により特定保健指導の実施率を向上させ、有所見率の低下につなげることが重要である。 生活習慣病予防や悪化防止は、短期間で結果が出るものではないため、今後も共済組合等関係機関と連携し、個人の健診結果に即した情報提供や特定保健指導等の個別指導や出前講座など、継続的な事業実施が必要である。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	6					100.0%	6																
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
5	6					100.0%	6																													

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
73	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	地域総ぐるみの子育ての実現	■施策・□成果指標 学校・家庭・地域の連携 ■地域住民との交流体験を行う環境づくり □放課後や週末等における体験活動の実施率 	事業目的 「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、経験豊富な高齢者をはじめとする地域の人々の参画を得て、多様な学びや体験活動を推進するため、放課後子供教室を実施します。【継続】 「子供の豊かな学び推進研修会」では、県内の放課後子供教室の行政担当者からの事例報告やワークショップを実施した。「放課後子ども総合プラン研修会」では、鳴門教育大学の准教授による講演及びワークショップを実施し、ワークショップにおいてそれぞれの教室の取組や課題等について共有することができた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>80</td> <td>91</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>101.1%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p> 【平成30年度の成果】 地域での放課後等における多様な学びの場づくりが、放課後子供教室などで推進されている。 【課題】 地域人材の発掘やネットワーク化が必要である。 各事業間の連携を図るとともに、地域の人材や団体が交流し、新たな連携が期待できるような機会を創出する。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	80	91					101.1%	90
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
80	91					101.1%	90													
74	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	地域総ぐるみの子育ての実現	■施策・□成果指標 学校・家庭・地域の連携 ■学校サポーターズクラブによる、学校支援体制づくり □「学校サポーターズクラブ」の登録数 	事業目的 授業の補助や読み聞かせ等の教育支援活動などを行う団体を「学校サポーターズクラブ」として認証し、学校支援の体制づくりを推進します。【継続】 「小学校区又は中学校区」で学校支援に取り組む婦人会、青年団、自治会、老人クラブ、ボランティアグループ等の地域団体の連合組織を「学校サポーターズクラブ」として、平成30年度は新たに4クラブを認証し、認定証とフラッグを授与した。このことにより、累計で24市町村93クラブとなった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>89</td> <td>93</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>93</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：団体)</p> 【平成30年度の成果】 累計で全24市町村で93のクラブを認証し、地域による学校支援活動の継続につながった。 【課題】 制度を周知し、学校を支援する団体としてネットワークをつくることが重要である。 学校を支援している団体やグループ等のネットワークづくりを促進していく上で、認証制度が有効であることを周知するとともに、認証にあたっての取組を支援する。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	89	93					100.0%	93
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
89	93					100.0%	93													

75	推進項目 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	施策の方向性 地域総ぐるみの子育ての実現	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校・家庭・地域の連携 ■ 地域での読み聞かせを体験できる機会の充実 □ 講習会等への高校生の参加者数</p> <p>担当課 生涯学習課</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 学校・図書館・読書団体が連携・協働し、児童・生徒の主体的な読書活動を推進すると共に、子供から大人まで全ての人が読書に親しむ機会を提供し、読書振興のさらなる機運の醸成を図ります。【改善】</p> <p>取組状況 (H30年度分) <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>85</td> <td>94</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>102.2%</td> <td>92</td> </tr> </table> (単位：団体)</p> <p>評価 【平成30年度の成果】目標値を達成するとともに、アンケートの結果から受講者の満足度も高かった。また、図書館やイベント会場での実践では乳幼児や児童の保護者の参観も多く、保護者への啓発にも効果が期待される。 【課題】参加の子供たちの年齢等を鑑み、読み聞かせ実践の時間は1回30分程度であり、1回の実践に参加できる高校生の数に限りがあるため、実践会の開催数・開催場所の拡大が必要である。</p> <p>今後の取組方針 高校生のための読み聞かせ講習会の充実を図る。また、実践会場についても幼稚園やこども園、図書館等での取組に加え、イベント会場や大型商業施設、子ども食堂等での実践を取り入れ、子供と保護者、両者に対しての読書の意義の啓発に取り組む。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	85	94					102.2%	92
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
85	94					102.2%	92													
76	推進項目 学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	施策の方向性 地域総ぐるみの子育ての実現	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>学校・家庭・地域の連携 ■ 学校安全ボランティア活動の支援による、児童生徒の安全確保 □ 学校安全ボランティア(スクールガード)数</p> <p>担当課 体育学校安全課</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 子どもたちが安全・安心して教育が受けられるよう、学校や通学路の子どもの安全確保を図るため、家庭や地域の関係機関・団体と連携を図りながら、地域社会全体で子どもの安全を見守る体制を整備する。【継続】</p> <p>取組状況 (H30年度分) <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>12,000</td> <td>13,904</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>115.9%</td> <td>12,000人以上</td> </tr> </table> (単位：人)</p> <p>評価 【平成30年度の成果】児童数減少が続く状況にあつて、登録数を確保し、全ての小学校区において登下校時の見守り活動を実施することで、本県での重大事案、事故は発生していない。 【課題】小学校の統合及び体校により、校区(通学路)が広くなり、学校安全ボランティアの増加も難しくなる。現状数を維持していくために、市町村に対してスクールガード養成講習会等の開催を依頼していく必要がある。 スクールガードリーダー連絡協議会を実施し、登下校時の事故防止等について情報交換を行い、学校安全ボランティア(スクールガード)の共通理解を図りながら、学校・家庭・地域・関係機関等が連携・協働して見守り活動を行い、安全マップの活用や不審者情報等の連絡体制の整備を進め、幼児・児童生徒の安全確保を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	12,000	13,904					115.9%	12,000人以上
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
12,000	13,904					115.9%	12,000人以上													

番号	77	推進項目	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	施策の方向性	地域総ぐるみの子育ての実現	<p>■施策・□成果指標</p> <p>学校・家庭・地域の連携</p> <p>■学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)の導入</p> <p>□学校運営協議会制度を導入した学校数</p> <p>(単位：校)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>112.5%</td> <td>16</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	16	18					112.5%	16	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>保護者や地域住民が学校運営に参画する学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)について、県内外における効果的な取組事例を市町村教育委員会や学校等に広く周知し、県内における学校運営協議会制度の円滑な導入や効果的な取組の充実を図ります。【改善】</p> <p>海陽町立中央小学校・中央中学校にコミュニティ・スクールが導入され、県下の18校において、地域とともにある学校づくりの推進が展開されている。</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>【平成30年度の成果】さらなる普及・推進に向け、校長会や教育委員会訪問において、その意義や有用性について理解を図るとともに、具体的な導入の手順について説明を行った。</p> <p>【課題】学校運営協議会を継続的に推進するための支援メンバーの不足、協議の形骸化、地域連携コーディネーターとなるべき人材の育成、導入に向けての管理職や担当教職員の業務の負担増が課題である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>コミュニティ・スクール導入校における成果や課題をもとに、他県の先進地域の取組を参考にしながら、一層の普及・推進のために、その意義や有用性について広く周知していく。また、小中一貫教育推進地域においても、コミュニティ・スクール導入に向けた協議・研究を事業計画の1つとして位置づけ、地域とともにある学校づくりの推進に向けた取組を充実させていく。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																
16	18					112.5%	16																
番号	78	推進項目	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	施策の方向性	すべての子どもに均等な教育機会の提供	<p>■施策・□成果指標</p> <p>定時制・通信制課程での修学促進</p> <p>■生徒の教科書等購入に係る費用の補助</p> <p>□定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>定時制・通信制課程に在籍する有職生徒等に対して、教科書等の購入に係る費用を補助することにより、経済的負担を軽減し、不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会提供として、定時制過程及び通信制課程での修学を促進します。【新規】</p> <p>本年度は、定時制通信制を合わせて、189名の生徒が定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を活用した。</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>(単位：一)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】活用する生徒が増加しつつあり、定時制過程及び通信制課程での修学に役立っている。</p> <p>【課題】定時制通信制課程教科用図書給与費補助金事業を必要とする生徒の増加が見込まれる中で、支援体制を継続し、充実させることが必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>定時制・通信制の教頭会・副校長会等の機会を捉え、就学困難な生徒の実体を把握するとともに、この事業の必要性を検証し、支援体制の継続と充実を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進						推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																
推進	推進						推進																

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針																								
79	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	すべての子どもに均等な教育機会の提供	<p>■施策・□成果指標 多様な教育サービスの選択肢の提供 ■私立学校の健全運営と魅力ある学校づくりの支援 □私立学校教育の質の向上、教育の多様性の確保(再掲)</p> <p>私立学校では、コミュニケーションを重視した幼児期からの英語教育や難関大学への進学に重点を置いたトップレベルの学力養成のためのキャリア教育、優れた指導者の採用と有望な県外生徒の獲得によるスポーツ競技力の向上等、多様なニーズに対応するための特色ある教育に引き続き取り組まれます。多様な教育サービスの選択肢を提供するため、私立学校の魅力ある学校づくりを支援するとともに、本県私立学校の認知度を高めるための、特色ある教育内容の紹介など、各学校のホームページ等による情報発信の取組についても支援します。【継続】</p> <p>私立学校の教育条件の維持・向上、修学上の経済的負担の軽減等を目的として、学校の設置者である学校法人に対する私立学校運営費補助を行った。また、経済的理由により就学が困難な者の負担を軽減し、教育機会の均等を確保するため、高等学校等就学支援金や奨学のための給付金を支給するとともに私立高等学校等授業料軽減事業補助を行った。</p> <table border="1"> <caption>(単位：—)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支援</td> <td>97</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支援</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】高等学校等就学支援金等を支給したことにより生徒の就学機会の確保と保護者の経済的負担の軽減が図られた。また、補助事業の実施により、学校法人の運営及び学校設備の充実、教員の資質向上等教育条件の維持向上とともに、「耀く私学推進事業補助金」を通じて、私立高等学校等の個性的で特色ある活動や、私立幼稚園が実施している預かり保育等に対する補助を行うことにより、特色ある教育活動の充実が図られた。</p> <p>【課題】今後も公私間格差是正等を図る取組が必要である。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	支援	97						支援								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																				
支援	97						支援																				
80	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	豊かな心の育成	<p>■施策・□成果指標 道徳教育の推進 ■家庭や地域と連携した道徳教育の推進 □道徳の時間の授業参観を実施している学校の割合</p> <table border="1"> <caption>(単位：%)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>95</td> <td>97</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>97.0%</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>81</td> <td>89</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>98.9%</td> <td>90</td> </tr> </tbody> </table> <p>小・中学校における「特別の教科 道徳」の実施を踏まえ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を児童生徒の内面にしつかりと育むため、自分なるとどうするかという視点に立って課題と向き合い、自分と異なる意見をもつ他者と議論する「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図ります。【改善】</p> <p>校長会、道徳教育推進教師研修会、教育課程研究会等の各種研修会において、道徳ノートの工夫や授業参観の実施等、家庭との連携の推進・工夫について、具体例を交えながら説明を行った。</p> <p>【平成30年度の成果】研修会等において、道徳科の授業や地域との連携について研修を行った。それとともに、道徳の教科化に伴い、地域や保護者の関心もあり、道徳科の授業参観の実施校が増加した。</p> <p>【課題】「考える道徳」「議論する道徳」等に向けた授業改善が進んでいるものの、一方で教師の力量の差が見られる。教師の力量を高めるとともに、学校全体としての取組を充実させる必要がある。</p> <p>道徳授業の充実を図ることはもちろん、各教科等との関連を図るなど、学校教育全体で道徳教育の推進を図る。また、家庭・地域社会との連携をよりいっそう推進するための、研修体制や推進体制のさらなる充実を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	95	97					97.0%	100	81	89					98.9%	90
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																				
95	97					97.0%	100																				
81	89					98.9%	90																				

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																														
81	<p>学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>情報モラル教育の充実 ■ 学校での情報モラルに関する学習活動や、家庭、地域等と連携した情報モラル教育の充実 □ 情報モラルコンテンツ数(累計)</p>	<p>豊かな心の育成</p> <table border="1"> <caption>情報モラルコンテンツ数(累計)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>H31・R1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	数	基準値(H29)	27	H30	35	H31・R1		R2		R3		R4		<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>情報技術が急速に進化していく情報社会において、適正に活動するための基本となる考え方や態度を児童生徒が身に付けられるよう、学校での情報モラルに関する学習活動や、家庭、地域等と連携した情報モラル教育のより一層の充実に取り組みます。【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 情報モラル教育指導者研修会の実施 ○ 県内公立全学校の情報モラル年間指導計画の作成・提出 ○ 情報モラルコンテンツを8つ追加し、総合教育センター情報モラルサポートサイトより配信 ○ P T A対象に情報モラル啓発リーフレットを作成・配付 <table border="1"> <caption>(単位：コンテンツ)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>27</td> <td>35</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】情報モラル指導者研修会にて徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修を行った。1日研修としたためワークショップにおける情報共有の時間が十分に確保できたため、参加者の満足度が高かった。</p> <p>【課題】情報モラル研修会にて徳島県の情報モラル教育コンテンツの認知度が高くなり、一時的にアクセス数が増加したが、まだまだ認知度が高まったとは言えない。</p> <p>全校種を対象にして、平成30年度から3年計画で徳島県の情報モラル教育コンテンツを使用した研修会を行う。また、そのコンテンツを授業に活用してもらえらるよう、毎年8本づつコンテンツの追加し、内容の充実を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	27	35					100.0%	35
年度	数																																
基準値(H29)	27																																
H30	35																																
H31・R1																																	
R2																																	
R3																																	
R4																																	
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																										
27	35					100.0%	35																										
82	<p>学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>豊かな情操の育成 ■ 年次少年自然の家を拠点とした、地域との交流を深める自然体験・交流体験等の推進 □ 自然体験・交流体験等への参加者数(再掲)</p>	<p>豊かな心の育成</p> <table border="1"> <caption>自然体験・交流体験等への参加者数(再掲)</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>813</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>929</td> </tr> <tr> <td>H31・R1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	年度	参加者数	基準値(H29)	813	H30	929	H31・R1		R2		R3		R4		<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>県立牟岐少年自然の家を子どもたちの体験活動の拠点として、地域の自然や文化活動を生かした自然体験・交流体験・環境学習等を実施し、達成感や成功体験を得ることにより、自己肯定感を育む取組を推進します。【継続】</p> <p>「漁師さんから学ぶ海の『めぐみ』とその『食』」、「海辺の環境学習」、「もうすぐお正月」など、地域の住民や漁協組合、商工会、婦人会、婦人会の協力により、地域の特性を生かした体験活動が行われ、県内各地から多くの人が参加した。</p> <table border="1"> <caption>(単位：人)</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>900</td> <td>929</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.2%</td> <td>900</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】地域の方々との交流が広がり、協力が広がり、アイデア豊富な体験活動の回数を増やすことで参加者の増加につなげることができた。</p> <p>【課題】体験活動の日程や内容の見直しを常に行い、地域の住民や自治体と連携して改善を図っていくことが重要である。</p> <p>参加者のアンケート等を参考にしながら、事業全体の評価・改善を図り、より充実し、効果的な事業を実施する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	900	929					103.2%	900
年度	参加者数																																
基準値(H29)	813																																
H30	929																																
H31・R1																																	
R2																																	
R3																																	
R4																																	
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																										
900	929					103.2%	900																										

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																						
83	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	家庭教育支援の充実	<p>■家庭教育支援の充実 ■「とくしま親なびげーたー」の養成とワークショップ等への派遣 □「とくしま親なびげーたー」の派遣者数</p> <table border="1"> <caption>派遣者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>118</td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 生涯学習課</p>	年度	人数	H29	85	H30	118	<p>家庭教育に関する地域の研修会等で進行役（ファシリテーター）となる「とくしま親なびげーたー」を、県内の各園・学校等で開催するワークショップに派遣するとともに、「とくしま親なびげーたー」の成果を発表する機会を創出します。【改善】</p> <p>「とくしま親なびプログラム」ファシリテーター養成講座を、3日間6講座実施し、25名が受講した。また、県内の幼稚園・学校等27か所においてワークショップを実施し、「とくしま親なびげーたー」118名を派遣した。</p> <table border="1"> <caption>達成率</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>85</td> <td>118</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>118.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】「とくしま親なびげーたー」を派遣して県内27か所で実施されたワークショップでは、1,367名の保護者が参加し、保護者間の関係作りや家庭教育についての意見交換・相互研修を行うことができた。</p> <p>【課題】今後も継続して「とくしま親なびげーたー」の派遣に努め、家庭教育力の向上に貢献する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	85	118					118.0%	100	<p>今後の取組方針</p> <p>県内の各幼稚園・学校・公民館等へ「とくしま親なびげーたー」派遣の周知を継続的に行う。また、中高校生を対象とした家庭教育に関する教材を開発し、それを用いたワークショップを実施することで、次代の家庭教育を担う若者の育成を図る。</p>
年度	人数																										
H29	85																										
H30	118																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																				
85	118					118.0%	100																				
84	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・□成果指標</p> <p>■社会教育関係者・団体の連携・ネットワーク化 ■学びや交流の機会を通じた連携・ネットワーク化の推進 □研修会への参加者数</p> <table border="1"> <caption>参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>696</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>825</td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 生涯学習課</p>	年度	人数	H29	696	H30	825	<p>社会教育主事をはじめとする社会教育関係者・団体を対象に、社会教育研修大会を開催し、学びや交流の機会を通じて、連携・ネットワーク化を推進します。【改善】</p> <p>県内の活動実践事例の報告及び報告をもとにしたワークショップにより、社会教育推進の機運を高め、ネットワークショップにつなげた。また、社会教育ファシリテーターを養成するとともに、学びの循環として養成講座修了生が各研修大会にファシリテーターやボランティアスタッフとして参加した。</p> <table border="1"> <caption>達成率</caption> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>696</td> <td>825</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>117.9%</td> <td>700人以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】公民館をはじめとした社会教育関係者や社会教育関係団体、NPO法人等の参加があり、多様な活動について、意見・情報の交換を進めたことで、参加者の意識向上が図られた。また、社会教育担当職員の資質向上と情報の共有化が図られた。</p> <p>【課題】市町村の社会教育関係職員及び社会教育関係者のネットワークをさらに強化し、地域での取組推進や新たな連携につなげていくことが重要である。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	696	825					117.9%	700人以上	<p>今後の取組方針</p> <p>県内の社会教育委員、社会教育団体関係者等を対象とした研修会への参加者の拡大と、地域課題解決、持続可能な地域づくりといった新たなテーマを取り入れるなど研修内容の充実を図る。</p>
年度	人数																										
H29	696																										
H30	825																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																				
696	825					117.9%	700人以上																				

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																
85	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	■施策・□成果指標 多様な学習機会の提供 ■生涯学習情報システムの充実 □生涯学習情報システムへのアクセス件数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99,000</td> <td>121,143</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>121.1%</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	99,000	121,143					121.1%	100,000	事業目的 生涯学習に関する情報をインターネット上で提供しており、主な情報は「講座検索」、「まなび一あ人材バンク」、「マナビイセンター図書」、「視聴覚教材」、「団体・サークル」、「施設」である。これらの情報を充実させることにより、多様な学習機会の提供を図ります。【継続】 取組状況 (H30年度分) 年齢的・身体的条件にかかわらず情報を取得できる「ウェブアクセスナビリティ」に配慮しながら、より時代のニーズに即したWebサイト構築した。 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99,000</td> <td>121,143</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>121.1%</td> <td>100,000</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【平成30年度の成果】利便性の高いものとするためにシステムを再構築した結果、アクセス件数を大幅に伸ばすことができた。 今後の取組方針 【課題】生涯学習情報を随時更新・提供する必要がある。 Webサイトの充実を図るとともに、講座のチラシや一覧表の配布などを行い、広く県民の皆様を知っていたるよう広報に努めます。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	99,000	121,143					121.1%	100,000
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
99,000	121,143					121.1%	100,000																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
99,000	121,143					121.1%	100,000																													
86	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	■施策・□成果指標 多様な学習機会の提供 ■生涯学習情報システムの充実 □人材・指導者、団体サークルの登録件数(累計) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>990</td> <td>1,004</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.4%</td> <td>1,000</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	990	1,004					100.4%	1,000	事業目的 生涯学習に関する情報をインターネット上で提供しており、主な情報は「講座検索」、「まなび一あ人材バンク」、「マナビイセンター図書」、「視聴覚教材」、「団体・サークル」、「施設」である。これらの情報を充実させることにより、多様な学習機会の提供を図ります。【新規】 取組状況 (H30年度分) 専門的な知識や技術を有する方に登録の依頼を行った。また、講座の講師の方に登録の依頼を行った。Webサイト「まなび一あ徳島」の「まなび一あ人材バンク」や「団体・サークル」のページにおいて募集を行った。 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>990</td> <td>1,004</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.4%</td> <td>1,000</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【平成30年度の成果】登録の依頼を積極的に行うことにより、登録件数を増加させることができた。「まなび一あ人材バンク」や「団体・サークル」情報をインターネットで検索していただいた県民の方からお問い合わせをいただくこともあり、生涯学習情報システムの活用につながることができた。 今後の取組方針 【課題】「まなび一あ人材バンク」や「団体・サークル」に登録されている情報の照会を実施するにあたり、諸事情により登録辞退をされる方がいるため、登録件数を増加させるための取組が必要である。 総合教育センター生涯学習支援課で主催する講座のうち、複数回連続して実施する講座については、講座の終了者に登録を依頼する。各講座の修了者に登録を積極的に呼びかけて、地域貢献や生涯学習の促進・発展につながるよう努める。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	990	1,004					100.4%	1,000
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
990	1,004					100.4%	1,000																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
990	1,004					100.4%	1,000																													

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																												
87	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・□成果指標</p> <p>多様な学習機会の提供 ■マナビイセンターを拠点とした学習支援体制の強化 □マナビイセンターの利用者数及び受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52,000</td> <td>55,146</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 総合教育センター</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	52,000	55,146					<p>事業目的 まなびーあ徳島（県立総合大学校）やマナビイセンター主催講座をはじめとする徳島ならではの学習機会の提供を図るとともに、図書・視聴覚教材の充実にも努め、県民の生涯学習の拠点となるよう学習支援体制の強化を図ります。【改善】</p> <p>マナビイセンター主催講座をはじめとする各種講座の広報に努めるとともに、書架の増加等によって蔵書の拡充を図り、利用者の利便性向上にも努めた。</p> <p>取組状況（H30年度分）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>52,000</td> <td>55,146</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>105.4%</td> <td>52,300</td> </tr> </tbody> </table> <p>（単位：人）</p> <p>【平成30年度の成果】マナビイセンター主催講座の実施数を増やすことで学習機会の提供の充実を図るとともに、広報活動にも注力したことで受講者数が伸びた。</p> <p>【課題】まなびいルームの稼働率が高い状態となっており、主催講座を増やすことが難しい。また、総合教育センターへの来所が地理的に困難な方のために、出前講座をより一層増やすことで学習機会の提供に努める必要がある。</p> <p>【今後の取組方針】 新着図書や新規購入視聴覚教材の広報等の充実を図り、利用者の便宜を図る。また、実施講座については、より一層広報に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	52,000	55,146					105.4%	52,300
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
52,000	55,146																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
52,000	55,146					105.4%	52,300																									
88	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・□成果指標</p> <p>実践的な活動の場の提供 ■地域が抱える課題や地方創生につなげる人材の養成と活動の場の提供 □地域の活性化に取り組むリーダーを養成する講座の受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>680</td> <td>743</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 総合教育センター</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	680	743					<p>事業目的 地域の活性化に取り組むリーダーを養成し、とくしま学博士などが実践的に活動できる場の提供を行い、地域が抱える課題の解決や地方創生につなげます。【新規】</p> <p>取組状況（H30年度分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 女性のためのスキルアップ講座 5月26日、6月9日、23日 実施 ○ わくわく家庭教育づくりプログラム事業「『父親力』ルネサンス推進講座」 7月14日、21日、8月4日、5日 実施 ○ わくわく家庭教育づくりプログラム事業「孫育て楽しみ隊講座」 12月8日、23日、1月12日、26日 実施 ○ ええんじょとくしま〜ひとまちシンポ(進歩)ジウム 2月3日、9日、17日、3月9日 実施 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>680</td> <td>743</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>104.6%</td> <td>710</td> </tr> </tbody> </table> <p>（単位：人）</p> <p>【平成30年度の成果】ワークショップや実習を取り入れることで、より実践的な学びの場をつくることが出来た。受講者が地域活動に自発的に取り組めるように、地域で活動している団体・個人を講師に招き、講師と受講者とがつながる機会となるように工夫した。</p> <p>【課題】講座に「徳島ならではの」学びを取り入れることで、幅広い世代の受講者に地域の魅力を知ってもらう機会となるよう、今後も工夫が必要である。</p> <p>【今後の取組方針】 時代の潮流に乗った、地域活動に活かせる実践的な内容を取り入れるとともに、すでに地域で活動している団体・個人を講師に招くことにより、受講者の「学びと活動」を循環できるように計画していく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	680	743					104.6%	710
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
680	743																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
680	743					104.6%	710																									

番号	推進項目	推進の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
89	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・成果指標</p> <p>学びの場への県民の参画 □県内全域における同じレベルの学習機会の創出 □サテライトオフィスを活用した講座の受講者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>130.0%</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p> <p>【平成30年度の成果】初めての試みであったが、目標値であった20人を上回ることができた。講座終了後の受講生へのアンケート調査からも、サテライトでの講座の実施回数を増やしてほしいなど、サテライトを利用した各種講座への期待の声がかかれた。</p> <p>【課題】サテライト会場を設けることで学びの場を増やすことができるが、現スタッフの人数・勤務状況などの理由から、メイン・サテライトの両会場での運営が難しいのが現状である。ボランティアスタッフを積極的に募る等の工夫が必要である。</p> <p>本年度は、「新未来とくしま講座」においてサテライトオフィスを活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	—	26					130.0%	20
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
—	26					130.0%	20												
90	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■施策・成果指標</p> <p>優れた芸術作品に触れ合う機会の創出 ■普及行事の実施による「あわ文化」の担い手の育成 □文化の森総合公園文庫施設普及事業の開催回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>270</td> <td>333</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>123.3%</td> <td>270回以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：回)</p> <p>各館で様々な普及行事を実施した。 ・博物館 123回 ・21世紀館 37回 ・近代美術館 55回 ・鳥居龍藏記念博物館 43回 ・文書館 57回 ・図書館 18回</p> <p>【平成30年度の成果】学芸員の調査研究の成果を活かし、「白亜紀の地層見学会」や「美術館で宿題そうだん会」、「古文書講座」など、楽しみながら学び、考え、知的探究を満たすことのできる場を提供した。</p> <p>【課題】幅広い世代を対象に、多様な学習機会を提供する必要がある。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	270	333					123.3%	270回以上
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
270	333					123.3%	270回以上												

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針												
91	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■ 施策・口 成果指標 文化・芸術の感動や体験の場の提供 ■ 魅力ある企画展やイベントの開催 □ 文化の森総合公園各文化施設入館者数総計(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2,125</td> <td>2,250</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：万人)</p> <p>【達成率(H30)】 102.0% 目標値(H30) 2,205</p> <p>文化の森総合公園各館において、資料の継続的な収集に努めるとともに、調査研究の成果を生かした展示及び普及教育活動を積極的に進めます。また、県内外の施設や民間との連携により、幅広い層の県民に親しまれる魅力ある企画展を開催します。【継続】</p> <p>「ジャングルいきもの凶鑑」「100万回生きたねこ 佐野洋子の世界展」の開催のほか、「県指定有形文化財 青蓮院十一面観音菩薩立像」の特別陳列や勝浦町で発見された恐竜化石の公開展示を行うなど、多様な文化を発信した。</p> <p>【平成30年度の成果】「すだちくん森のシアター」の利用促進や民間や他部署との連携による魅力的な企画展やイベントを開催した結果、入館者数は所期の目標を達成することができた。</p> <p>【課題】来館する度に新たな発見ができるような、多様な文化を発信するため、収蔵資料のさらなる活用と、より魅力ある手法の開発が必要である。</p> <p>文化の森開園30周年に向けて「とくしまの恐竜時代」や「美人画の雪月花一四季とくらし 培広庵コレクション」を中心に「展など魅力ある企画展を開催するとともに、博物館における新未来型展示の実現を図る取組を進めることにより、県内外に向けて文化・芸術の感動や体験の場を提供し、あわ文化発信拠点として、芸術文化活動の促進に寄与する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	2,125	2,250				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4										
2,125	2,250														
92	学校・家庭・地域が協働で取り組む教育の推進	生涯にわたって学び続ける環境づくり	<p>■ 施策・口 成果指標 子どもたちの郷土に対する理解促進 ■ 学芸員等専門職員による学校での出前授業の実施 □ 博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念館の学校への講師派遣回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70</td> <td>104</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：回)</p> <p>学校からの依頼に応じて、講師を派遣した。 ・ 近代美術館 61回 ・ 博物館 38回 ・ 文書館 4回 ・ 鳥居龍蔵記念館 1回</p> <p>【平成30年度の成果】子どもたちが郷土の自然や歴史・文化に対して理解を深めることができた。</p> <p>【課題】博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念館の保有する資料を活用し、次世代を担う子どもたちに対する郷土の学習を推進することが求められている。</p> <p>文化の森各館が所蔵する資料をデジタルコンテンツとしても活用するとともに、学芸員等の講師派遣をより一層推進することにより、学校教育との連携を強化する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	70	104				
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4										
70	104														

番号	93	推進項目 時代の潮流を見据えた学びの推進	施策の方向性 将来を担う若者への主権者教育の充実	■施策・□成果指標 主権者教育の推進 ■体験的・実践的な学びを重視した主権者教育の推進 □公立小・中・高校及び特別支援学校における、主権者意識を高める教育のための出前講座の実施校数	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 選挙権年齢が18歳以上に引き下げられたことに伴い、小・中・高校のそれぞれの段階において、政治や選挙制度に対する理解と参加意識を高めるとともに、模擬投票などの体験型活動を実施することにより、社会に参加し、自ら考え、自ら判断する主権者を育成する教育の充実に取り組みます。【改善】 1 公立高等学校、特別支援学校、私立高等学校の主権者教育担当教員研修会の実施 2 主権者意識を高める教育の実施のための出前講座の実施 3 統一地方選挙に向けて、県教育委員会LINE『G o ! T o m o r r o w 』事業による投票呼びかけ 4 県教育委員会発行広報紙「ふれあひひろば」による啓発など (単位：校)															
事業目的	取組状況 (H30年度分)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>42</td> <td>44</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>44</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	42	44					100.0%	44	【平成30年度の成果】市町村選挙管理委員会や大学と連携した出前講座(社会参画の意義や選挙制度について講義、模擬選挙や模擬帳票)を小学校、中学校において14校、高等学校特別支援学校において30校実施した。	【課題】出前講座を実施した各学校においては、児童生徒の主権者としての意識の高まりを感じられる感想が多々見られる。高等学校や特別支援学校における出前授業は、様々な形で実施されている。小学校、中学校における主権者教育についても具体的、計画的に実施する必要がある。
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
42	44					100.0%	44													
今後の取組方針	主権者教育の出前講座を進めるにあたり、講義型の講座だけではなく、ワークショップや模擬投票等、児童生徒が主体的に参加し、相互に意見を出し合い、主権者意識を高めることができる取組を各学校要望を聞きながら、選挙管理委員会や大学教員と連携し、出前講座の実施を進め、主権者としての意識を高めていきたい。	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 幼児期からの発達段階に応じた金銭・金融教育や環境教育等、系統的・体系的な消費者教育に引き続き、取り組むとともに、地域の特色を生かし、地域の資源を活用した、学校と地域が一体となった実践的な消費者教育を推進します。【改善】	1 「TOKUSHIMA消費者教育」ステップアップ事業研究校の指定(幼1、小1、中1、高2) 2 指導者養成講座(中学校教員対象)の実施(受講者数72名) 3 「講演・出前授業」の実施(小・中・高55校) 4 消費生活啓発ポスターの募集(入賞作品14点、啓発カレンダーとして活用)	(単位：校) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34</td> <td>39</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	34	39					100.0%	39
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
34	39					100.0%	39													
事業目的	取組状況 (H30年度分)		【平成30年度の成果】研究校においては、地域とのつながりを意識した教科横断的な消費者教育を展開できた。指導者養成講座や講演・出前授業については、多様な主体と連携し、深化させることができた。ポスター募集では、優秀作品を掲載したカレンダーを作成し、啓発資料としての活用を図ることができた。	【課題】幼・小・中・高の接続を意識し、より系統的・体系的な消費者教育を推進していく必要がある。																
今後の取組方針	引き続き、幼児期からの発達段階に応じた消費者教育の充実・強化に消費者庁や県内大学等と連携し取り組んでいく。	施策・□成果指標 全国モデルの消費者教育の推進 ■地域の資源を活用した、学校と地域が一体となった実践的な消費者教育の推進 □消費者教育研究指定校数(累計)	全国モデルの消費者教育の推進	(単位：校) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>34</td> <td>39</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>39</td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	34	39					100.0%	39
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
34	39					100.0%	39													

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
95	時代の潮流を見据えた学びの推進	全国モデルの消費者教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>全国モデルの消費者教育の推進</p> <p>■ 県内すべての公立高校における、エシカルクラブの設置</p> <p>□ 公立高校におけるエシカルクラブの設置率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>33</td> <td>66</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：%)</p> <p>県内すべての公立高校にエシカルクラブの取組を実施するとともに、各校を牽引するリーダーディングスクールを指定します。さらに、その取組成果を実践報告集としてまとめ、県内外へ発信します。【継続】</p> <p>○ 公立高等学校3校を「エシカル消費」リーダーディングスクールとして指定した。主な取組として、地産地消の商品開発、エコプロ2018への出展、取組発表等とおした普及・啓発等が行われた。</p> <p>○ 公立高等学校28校に、各学校の特色を生かして「エシカル消費」に関する取組を行う「エシカルクラブ」を設置した。主な取組として、「エシカル消費」に関する講演会、地産地消に関する料理講習会、環境保全活動、文化祭での普及・啓発などが行われた。</p> <p>【平成30年度の成果】公立高等学校28校にエシカルクラブが設置されたことにより、高校生に消費者市民としての意識が醸成されるとともに、「エシカル消費」の周知を進めることができた。</p> <p>【課題】全ての公立高等学校に「エシカルクラブ」を設置し、高校生による持続可能な社会の形成に向けた「エシカル消費」の普及推進を図る必要がある。</p> <p>学校が多様な主体と連携し、「エシカル消費」に関する研究・実践を推進することにより、生徒の消費者力の育成を図るとともに、令和元年度末までに「エシカルクラブ」を全ての公立高校に設置する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	33	66					100.0%	66
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
33	66					100.0%	66												
96	時代の潮流を見据えた学びの推進	全国モデルの消費者教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>全国モデルの消費者教育の推進</p> <p>■ エシカル商品や製品の家庭や地域への提供</p> <p>□ エシカル活動・作品を地域に提供した特別支援学校</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：校)</p> <p>特別支援学校をエコステーションとして拠点化し、児童生徒がエコボランティアとして、開発したエシカル商品や製品を家庭や地域に提供することにより、エシカル消費に対する意識の向上を図ります。【新規】</p> <p>各特別支援学校にリサイクル資材の回収ボックスを設置し「特別支援学校エコステーション化」を図ることができた。また、リサイクル資材から作った品を四国霊場札所でお遍路さんへ配布した。さらには、地元事業所等と連携し、子どもたちのアイデアや地元の特産を生かした新たな商品や製品の開発を行った。</p> <p>【平成30年度の成果】板野支援学校、国府支援学校、阿南支援学校ひわざ分校、池田支援学校、池田支援学校美馬分校がお接待活動等に取り組み、児童生徒の作品等を提供することができた。また、阿南支援学校及びひまわり高等学園は、地域の企業等と連携し、児童生徒のアイデアを生かした商品や製品の開発を行い、販売等を行うことができた。</p> <p>【課題】全ての学校において回収したリサイクル資材等を活用した作品づくりは進めているが、一部の学校では、地域での作品展示や作品配布までには至っていない。</p> <p>学校単独での作品展示や作品配布が難しい場合は、既に実施している学校との共同実施を促すなど、学校間の連携を支援することで、全ての学校がエシカル商品や製品を地域に提供できるようにしていく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	7					100.0%	7
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
5	7					100.0%	7												

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
97	時代の潮流を見据えた学びの推進	未来へつなぐ環境教育の推進	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>生命や自然を大切にし、地域の環境を守るために行動できる、郷土を愛するモラルの高い児童生徒の育成を目指す。【継続】</p> <p>1 エコリーダー養成講座の開催 (平成30.10.15) 対象：各市町村教育委員会・各公立学校の環境教育担当者講演 「体験型ふるさとの川環境観察学習会」の取組について 講師：正法寺川を考える会 米田 博 氏</p> <p>2 「新学校版環境ISO」新規申請7校と継続申請119校の取組状況をホームページで発信</p> <p>3 県環境・エネルギー教育発表会の開催 実践発表2校・新規申請7校と継続申請119校の認証・上板町教育委員会を表彰 (所管全学校の認証を達成)</p> <p>講演 今あらためて環境教育・学習を考える～持続可能な開発目標 (SDGs) の目指す社会に向けて～ 講師：徳島環境カウンセラー 新納 裕 氏</p> <p>(単位：%)</p> <table border="1"> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td>84.0</td> <td>86.0</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>86.0</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】新規申請7校、継続申請119校の認証をし、平成30年度末での「新学校版環境ISO」認証割合が、小・中学校、高等学校、特別支援学校の86.0%となった。新規申請7校、中学校、特別支援学校の86.0%を達成し、平成30年度末での「新学校版環境ISO」認証割合が、小・中学校、高等学校、特別支援学校の86.0%となった。</p> <p>【課題】新規認定校の増加を図る必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度末で認証期間が終了した79校の継続申請の推進を図る。 市町村教育委員会と連携して、小学校・中学校の新規申請を推進する。 エコリーダー養成講座を通じて、認証が100%である公立高校・特別支援学校の取組の充実を図る。 	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	84.0	86.0					100.0%	86.0
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
84.0	86.0					100.0%	86.0												
98	時代の潮流を見据えた学びの推進	新たな成長産業を生み出す教育の推進	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>「6次産業化をプロデュースすることにより、6次産業化に対応した実践的な取組を行います。こうした取組の実証成果をもとに、全県下に普及を図ることで、専門学校・特別支援学校の取組の充実を図ります。【継続】</p> <p>徳島ならではの生産物をテーマに、県下各3地域で展開。県央では「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校、県南では「ゆこり」をテーマに、小松島西高校勝浦校、新野高校、阿南工業・阿南光高校、富岡東高校、県西では「アロマオイル」をテーマに、池田高校三好校・辻校、つるぎ高校での学校間連携により、生産・商品開発・加工・販売について協働活動・情報交換を行い、各自の専門性を学んだ立場から、6次産業化商品のプロデュースに取り組んだ。</p> <p>(単位：件)</p> <table border="1"> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> <tr> <td>7</td> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>10</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】県下3地域における農業科、工業科、商業科設置校等の連携により、昨年までにプロデュースされた商品を踏まえ、6次産業化商品(県央：洋菓子、県南：ゆこりドラ焼き、県西：アロマ石けん)をプロデュースし、新たな商品の試作に取り組むとともに、一部の開発で販売への展開を進めることができたとした。</p> <p>【課題】商品化を行っても販売量を確保するための原材料の確保が難しいこと、生産する学校施設における製造の営業許可が限定されているため、商品化に制限があることなど、生産面、販売面での工夫が必要である。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>プロデュース商品の新たな魅力化、生産方法・工程での改善、販路開拓等による事業の拡大・発展を図るため、学校間連携はもちろんのこと、地域や企業と積極的に連携を展開する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	7	10					100.0%	10
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
7	10					100.0%	10												

番号	推進項目	実施の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針	事業目的																
100	時代の潮流を見据えた学びの推進	<p>新たな成長産業を生み出す教育の推進</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>新たな成長産業を生み出す教育の推進 ■ 地域資源に恵まれた地域において、林業に関する新たな教育の展開 <input type="checkbox"/> 県立高校卒業者のうち、林業関連従事者数(累計)(再掲)</p> <p>担当課 学校教育課</p>	<p>時代の変化や社会の要請、生徒の状況等を踏まえ、中長期的な教育課題に対応した魅力ある教育環境の創造に取り組みます。【新規】</p> <ul style="list-style-type: none"> 全国木育サミットへの参加や林業アカデミーでの体験学習を通して林業関連産業への理解を深めた。 林業に関する高校(学科)においては、関連機関や地域との連携により、インターンシップや体験実習に取り組み、林業関連産業への就職推進に努めた。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>173.3%</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p> <p>【平成30年度の成果】継続的に林業関連産業への従事者が確保できるよう様々な機関との連携を深め、効果的な取組を模索していく必要がある。</p> <p>【課題】継続的に林業関連産業への従事者が確保できるよう様々な機関と連携し、林業について理解を深める機会の確保に努めるとともに、林業に関する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める必要がある。</p> <p>林業について理解を深める機会を提供するとともに、林業に関する学科を設置する県立学校においては、関連機関や地域との連携により林業関連産業への就職推進に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	10	26					173.3%	15	<p>事業目的</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
10	26					173.3%	15													
101	時代の潮流を見据えた学びの推進	<p>新たな成長産業を生み出す教育の推進</p> <p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>新たな成長産業を生み出す教育の推進 ■ 職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生による学校独自の特色ある教育活動のアピール <input type="checkbox"/> 高校生産業教育展における来場者数(再掲)</p> <p>担当課 学校教育課</p>	<p>職業に関する専門学科や総合学科で学ぶ高校生が、各大学科や学校独自の特色ある教育活動について、日頃の学習の成果と、今後の徳島県の産業界を支える人材育成を目指した、学校独自の特色ある教育活動と産業界の魅力を広く県民にアピールします。【新規】</p> <p>大型ショッピングモール「イオンモール徳島」を会場とした。また、県庁HPをはじめ、テレビ、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し、広報に努めた結果、入場者数は1,910名となった。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,850</td> <td>1,910</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.5%</td> <td>1,900</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位:人)</p> <p>【平成30年度の成果】会場を大型ショッピングモールとし、TV、新聞、CATVのマスコミ関係への情報提供、会場近隣の小学校へリーフレット及びポスターを持ち込み配布の依頼、徳島県産業教育振興会の企業各社にも依頼し広報に努めた結果入場者数は1,910名と増加した。</p> <p>【課題】高校生の学習活動のアピールするという観点から、特に小中学生に進路指導の視点で多く参加してもらえるようPR活動の工夫を図る。</p> <p>会場の選定も大町であるが、高校生の活動を広く県民にアピールするという観点から広報活動に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	1,850	1,910					100.5%	1,900	<p>事業目的</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
1,850	1,910					100.5%	1,900													

重点項目Ⅱ

グローバル社会で活躍！徳島から世界への扉をひらく教育の推進

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																
102	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>「あわ文化」の「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を果内外に発信する取り組みの推進</p> <p>■ 「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を果内外に発信できる人材の育成</p> <p>□ 「あわ文化検定」の受検者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>931</td> <td>987</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.9%</td> <td>950</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】平成30年度の受検申込数は1,044名、受検者数は987名（インフルエンザ等による欠席）と、増加傾向にある。また、「総合的な学習の時間」等での学校全体での取組が充実してきており、研修での実践事例の共有を行うこともできた。</p> <p>【課題】各校のあわ文化教育リーダーの先生方が校内で共通理解を図り、取り組んでいく事への課題を感じている面があり、学校間での取組の温度差が見られる。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	931	987					103.9%	950	<p>「あわ文化」に関する教育を充実するとともに、「あわ文化」を次世代に伝承し、ふるさと徳島の魅力を果内外に発信するため、「あわっ子文化大使」など、次代のあわ文化の担い手を育成します。【改善】</p> <p>徳島の伝統文化と文化財を学校で学ぶための教材として作成した「あわ文化テキストブック」を活用するための、教師用指導教材解説集並びにワークシート集を配布し、全ての公立中学校の1年生、2年生に、本県の歴史・自然・芸術に関する学習教材を使った文化授業や、果独自文化の体験授業を行うとともに、あわ文化検定の「あわ文化に関する教育」を実施した。</p> <p>受検実施校36校、受検申込み人数1,044名、あわっ子文化大使希望者数90名、あわっ子文化大使認定者数37名</p> <p>（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>931</td> <td>987</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>103.9%</td> <td>950</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課外】各校のあわ文化教育リーダーの先生方が校内で共通理解を図り、取り組んでいく事への課題を感じている面があり、学校間での取組の温度差が見られる。</p> <p>年度当初に実施する「あわ文化教育リーダー研修」において、実践報告や演習等を取り入れ情報共有を行うことで、取り組みやすいモデルを見だし、各校で、地域や学校の実態に即した「あわ文化教育」を展開できるようにする。【改善】</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	931	987					103.9%	950
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
931	987					103.9%	950																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
931	987					103.9%	950																													
103	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>伝統文化や文化財の継承・保存</p> <p>■ 伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む、次代の担い手の育成</p> <p>□ 人形浄瑠璃伝承教室の参加者数(累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,658</td> <td>1,689</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>99.5%</td> <td>1,698</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】会場として登録有形文化財「徳島県立城北高等学校入形会館」を活用し、子供たちに本格的な芝居小屋での発表会を企画することができた。参加者の中から、平成30年11月18日に徳島県主催で実施された第3回ジュニア浄瑠璃フェスティバルに出演し、次世代後継者として県内外に存在感を示すことができたと感じた。</p> <p>【課題】参加者のアンケートで、「伝統文化を身近に感じることができたか」について「特に感じた・感じた」の回答が90%となり、また、新規参加者が12名と例年より多くの参加となった。</p> <p>公募期間の延長を図るとともに、学校における文化教育とリンクできるように教育機関との連携を強化する。また、参加者の習熟度を確認しながら、講師に各自のレベルに合わせた指導内容を取り入れてもらい、伝統文化の興味・関心を高められるよう、サポートする。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	1,658	1,689					99.5%	1,698	<p>「ふるさと徳島」への誇りを持ち、郷土を愛する心を醸成するため、学校や保存団体による、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする伝統文化・文化財の継承と活用に関する取組を支援します。【改善】</p> <p>登録有形文化財「徳島県立城北高等学校入形会館」等を会場として阿波人形じょうり伝承教室を開催した。2018年7/24、25、27、8/6、7、9、10の7日間開催し、31名の小中学生の参加があった。</p> <p>（単位：人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,658</td> <td>1,689</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>99.5%</td> <td>1,698</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課外】各校のあわ文化教育リーダーの先生方が校内で共通理解を図り、取り組んでいく事への課題を感じている面があり、学校間での取組の温度差が見られる。</p> <p>年度当初に実施する「あわ文化教育リーダー研修」において、実践報告や演習等を取り入れ情報共有を行うことで、取り組みやすいモデルを見だし、各校で、地域や学校の実態に即した「あわ文化教育」を展開できるようにする。【改善】</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	1,658	1,689					99.5%	1,698
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
1,658	1,689					99.5%	1,698																													
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																													
1,658	1,689					99.5%	1,698																													

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
104	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■施策・成果指標</p> <p>伝統文化や文化財への理解促進 ■郷土の伝統文化や文化財への理解を深めるための「ふるさと文化人材バンク」の活用 □「ふるさと文化人材バンク」を活用し、あわ文化学習に関する講師を派遣した学校数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>60</td> <td>78</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>120.0%</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：校)</p> <p>【平成30年度の成果】「ふるさと文化人材バンク」を活用し、外部人材を講師として迎えた学校が増加したことにより、各校での「あわ文化学習」への取組の更なる充実とともに、児童生徒の豊かな感性や情操の育成が図られている。</p> <p>【課題】「ふるさと文化人材バンク」への登録者数の拡充と事業の周知、積極的な活用の推進を図る必要がある。</p> <p>地域や異年齢者とのつながりを強くし、地域への理解と愛情を深め、ふるさと徳島の魅力を積極的に発信できる人材の育成を図る。「ふるさと文化人材バンク」が学校現場でより一層活用されるよう、県内人材等と学校のニーズを把握しながら、新規人材の人材開拓に努める。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	60	78					120.0%	65
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
60	78					120.0%	65												
105	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■施策・成果指標</p> <p>文化財の魅力、すばらしさの発信 ■地域活性化の核となり得る埋蔵文化財をはじめとした文化財の魅力、すばらしさの発信 □埋蔵文化財総合センター利用者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9,200</td> <td>14,325</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>154.0%</td> <td>9,300</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p> <p>○レキシールとくしまにおいて、埋蔵文化財速報展「発掘とくしま」を開催した。 ○講演会や成果報告会により、埋蔵文化財情報を発信した。 ○古代体験祭りなど、体験学習を実施した。</p> <p>【平成30年度の成果】埋蔵文化財速報展「発掘とくしま」や講演会・講座の開催により、埋蔵文化財保護意識の向上を図るとともに、古代体験祭りや勾玉づくりなど各種体験活動により、子供たちに興味関心をもってもらえた。</p> <p>【課題】四国通路や鳴門渦潮など、埋蔵文化財以外の文化財を含めた総合的な活用を図っていく。</p> <p>情報発信拠点としての「レキシールとくしま」(埋蔵文化財総合センター)において発掘調査の速報展を実施し、調査成果を公表するとともに、講演会を実施して文化財情報を発信していく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	9,200	14,325					154.0%	9,300
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
9,200	14,325					154.0%	9,300												

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																		
106	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	文化財の保護意識の醸成 ■史跡・埋蔵文化財についての講演会やウォーキングの開催 □史跡・埋蔵文化財保護関連行事参加者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>350</td> <td>494</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	350	494					県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。【改善】 ○「四国遍路と渦潮展」や「遍路道ウォーキング」、地震津波碑ウォーキングを実施した。 ○板野中学校で学校文化財展を開催した。 ○海陽町での大里古墳の講演会、阿南市での若杉山遺跡の講演会を実施した。 (単位：人)	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 【平成30年度の成果】地域文化財展や学校文化財展により、遍路道を含め地域の埋蔵文化財を地域で活用する事ができた。 【課題】指定、未指定を含む文化財の総合的な活用が必要である。						
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																		
350	494																						
107	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	文化財の保存と活用 ■県内に所在する文化財の保存と活用 □国・県指定文化財数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>99</td> <td>101</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>335</td> <td>336</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	99	101					335	336					国史跡「板東俘虜収容所跡」が新たに指定された。 重要文化財(建造物)「武知家住宅」が新たに指定された。	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。【継続】 1 国史跡「板東俘虜収容所跡」が新たに指定された。 2 重要文化財(建造物)「武知家住宅」が新たに指定された。 (単位：件)
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																		
99	101																						
335	336																						
				事業目的 県内に所在する様々な文化財の保護を図るために、指定・選定・登録を進めるとともに、学校や地域と連携し、地域の文化財を総合的に活用した展示や講演会を開催することにより、ふるさと徳島の魅力を子どもたちに伝えます。【改善】	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 【平成30年度の成果】平成30年度中は国史跡「板東俘虜収容所跡」、重要文化財(建造物)「武知家住宅」の2件が新たに国指定文化財となった。また、登録有形文化財については、建造物が8件増え、計185件となった。 【課題】県指定文化財については、平成29年度末に2件増加したが、美馬市の天奈記念物「川井のヒイラギ」の枯死による指定解除が1件、さらに国史跡「板東俘虜収容所跡」指定に伴う、県指定史跡「ドイツ兵の慰霊碑」の解除があったため、総数が増えていない。今後、市町村指定、未指定の文化財の調査を進め、県指定文化財の増加に努める必要がある。 国指定・県指定とともに、今後とも文化財指定に向けた調査を継続・加速化して、指定文化財件数の増加に努める。																		

番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
108	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	郷土愛を育む教育の推進	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>子どもたちの郷土に対する理解促進 ■ 学芸員等専門職員による学校での出前授業の実施 □ 博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念館の学校への講師派遣回数(再掲)</p> <p>学校からの依頼に応じて、講師を派遣した。 ・ 近代美術館 61回 ・ 博物館 38回 ・ 文書館 4回 ・ 鳥居龍蔵記念博物館 1回 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70</td> <td>104</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>148.6%</td> <td>70以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】子どもたちが郷土の自然や歴史・文化に対して理解を深めることができた。</p> <p>【課題】博物館、近代美術館、文書館、鳥居龍蔵記念博物館の保有する資料を活用し、次世代を担う子どもたちに対する郷土の学習を推進することが求められている。</p> <p>文化の森各館が所蔵する資料をデジタルコンテンツとしても活用するとともに、学芸員等の講師派遣をより一層推進することにより、学校教育との連携を強化する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	70	104					148.6%	70以上
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
70	104					148.6%	70以上												
109	徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>地方創生の原動力となる人材の育成 ■ 農工商一体教育や高大接続教育、産業界と連携した教育を展開する阿南光高校の開設 □ 阿南光高校の開設(再掲)</p> <p>阿南光高校に高大連携や地域・民間連携の拠点となる高校・大学・地元企業が一体化したキャンパスを創設し、徳島大学との高大接続教育や産業界と連携した研究開発に取り組みることにより、地方創生の原動力となる人材を育成します。【改善】</p> <p>「植物バイオ技術によるイシマササユリ保護活動」、「LED照明による水耕栽培システム」、「ドローン操作及び活用講座」における徳島大学との連携活動、6次産業化に取り組む先駆者による「6次産業化実践講座」を実施した。また、宝田キャンパスへの「ビジネスコミュニケーション実習機器・協働ロボット実習機器」の整備及び新野キャンパスにおける徳島大学との教育・研究開発拠点「とくしまイノベーションセンター」の改修や地域開放拠点「生徒会館」のリノベーションを行った。</p> <p>平成31年3月、阿南工業高校と新野高校が閉校し、両校2年生が3年生に進級と同時に阿南光高校へ転学することとなり、阿南光高校として、3学年が揃うこととなった。</p> <p>(単位：一)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>開校</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>開校</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】徳島大学との高大連携教育及び6次産業化教育に向けての連携活動の取組が行われ、宝田・新野両キャンパスの施設設備も整備されたことから、次年度からの高大接続教育や産業界と連携した教育に向けて、環境が整った。</p> <p>【課題】2キャンパスを効率的に活用し、新たな高大接続教育、6次産業化教育を展開するため、徳島大学、産業界、地域との連携内容・方法等のソフト面を充実させる必要がある。</p> <p>徳島大学サテライトキャンパスと位置付けられている新野キャンパスにおいて、高大接続教育の拠点施設「とくしまイノベーションセンター」や「LED植物工場」の運用に関する徳島大学との協議、産業界や地域との調整を進め、連携活動を展開する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	開校						開校
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)												
準備	開校						開校												

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
110	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 高校と大学の教育内容の接続</p> <p>■ 高大連携の更なる強化</p> <p>□ 高校と大学の情報交換会やフォーラムの開催</p>	<p>事業目的</p> <p>高大連携のもと、地域の課題解決や活性化を図るため、SNSを活用して大学生から高校生への情報提供、高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター）」出張講義「一覧」の作成、高大接続改革フォーラムの開催等、内容の充実を図り、高校と大学の更なる連携強化を推進します。【改善】</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <p>徳島県教育委員会LINE「Go! Tomorrow」を活用し、大学生から高校生への情報提供等、大学入学者選抜改革セミナーや高校と大学の教育内容接続のための情報交換会の開催、「県内5大学（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、放送大学徳島学習センター）」出張講義「一覧」出張講義「一覧」を出張講義センターのHPで掲載するなどを行った</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>2</td> </tr> </table> <p>(単位：回)</p> <p>評価</p> <p>【平成30年度の成果】高校と大学の教育内容を円滑に接続するため、情報提供・周知等を行い、高大連携の強化につながった。また、情報交換会では、分科会でのより具体的な協議が実施でき、各校の取組への参考となった。</p> <p>【課題】SNSの活用について、発信の仕方などを工夫するなどして、活性化を図る必要がある。一定の成果は出ているが、内容が同じ事の繰り返しにならないようにする必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>より円滑な接続ができるように、協議会の内容の見直しやSNSの発信の仕方など情報提供等について工夫する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	2	2					100.0%	2
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
2	2					100.0%	2													
111	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 本県教育の充実</p> <p>■ 鳴門教育大学との連携協定に基づく取組による、本県教育の充実・発展</p> <p>□ 鳴門教育大学との連携(再掲)</p>	<p>事業目的</p> <p>鳴門教育大学と締結した連携協定に基づき、子どもたちの確かな学力の育成や問題行動等防止、教員の人材育成等について協議を深め、より一層の連携協力体制を構築し、本県教育の充実・発展に取り組めます。【新規】</p> <p>○ 教員の人材育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員育成指標を踏まえた主幹教諭・指導教諭研修プログラムの開発に取り組んだ。 ・ 研修の単位化による科目履修制度を活用した専修免許状取得プログラムの検討を行った。 ・ 鳴門教育大学大学院・教職大学院への教員の派遣についての検討を行った。 <p>○ 確かな学力の育成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「授業改善」推進校への学校訪問において、アクティブ・ラーニングの視点の授業について、具体的な指導助言をいただいた。 ○ 児童生徒の問題行動等の防止について ・ 公立学校生徒指導主任会や公立中学校生徒指導主任会など、様々な会議での意見や事業実施に係る指導・助言をいただいた。 <p>取組状況 (H30年度分)</p> <table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table> <p>(単位：一)</p> <p>評価</p> <p>【平成30年度の成果】各部会における連携の推進により、各学校における学力向上や生徒指導力の向上、教員研修の在り方等について、教員の意識や学校力の向上において、改善が図られた。</p> <p>【課題】教員の人材育成については、大学院の改組を踏まえた研修の在り方等、有機的な連携を強化していく必要がある。また、学力向上については、各指定校の取組を県下全体へ広げていくことが求められる。さらに、問題行動防止については、各学校が抱える課題の解決に向けた効果的な事業展開を行う必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>各部会において、各学校が抱える課題の解決等、取組内容を明確にした上で、連携強化を図っていく。その中で、効果的な事業展開を推進し、本県教育の更なる充実につなげていく。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進						推進
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
推進	推進						推進													

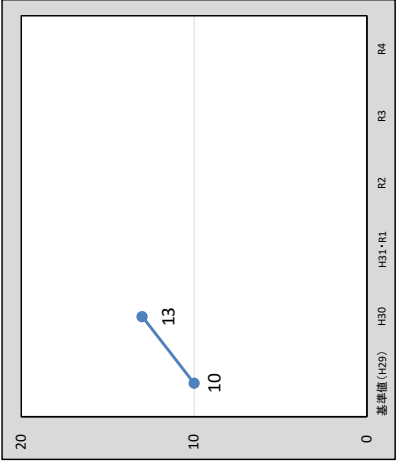
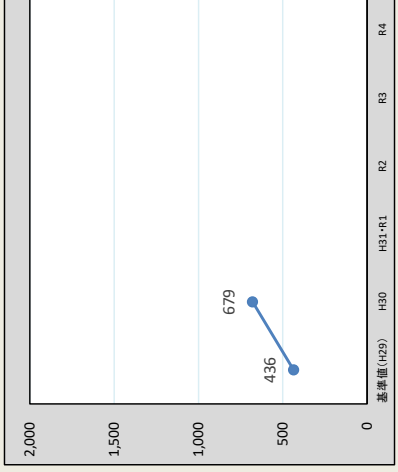
番号	推進項目	施策の方向性	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																												
112	徳島を愛する心の育成と「ごくしま回帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>高大連携による教育及び研究の充実、発展 ■ 京都大学と県内の連携指定校との間で行われている取組の充実 <input type="checkbox"/> 出前授業やオープン授業の実施校数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：ー)</p> <p>【平成30年度の成果】 京都大学のELCASや大阪大学のSEEDS、兵庫県4大学（神戸大学、兵庫立大学、関西学院大学、甲南大学）によるGSC-Hyogo等の取組に県内の高校生がより多くチャレンジするように促します。【新規】</p> <p>連携指定校のうち、1校が出前授業を活用することができた。</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>33.3%</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】 各連携指定校において、学校行事等が計画されており、連携事業を組み込む日程等の調整が難しい。連携の仕方について、新しい方向性を探る必要性がある。</p> <p>評価</p> <p>【平成30年度の成果】 京都大学のELCASや大阪大学のSEEDSへの参加など、連携に前向きな学校が増加している。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>連携指定校に向けて、「京都大学の連携事業」の周知等をきめ細やかにを行い、積極的な参加を促す。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	1	1					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	1	1					33.3%	3
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																										
1	1																														
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																								
1	1					33.3%	3																								
113	徳島を愛する心の育成と「ごくしま回帰」の促進	大学と地域の連携による「知のフィールド」の拡大	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>学びの場への県民の参画 ■ 県内全域における同じレベルの学習機会の創出 <input type="checkbox"/> サテライトオフィスを活用した講座の受講者数(再掲)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：人)</p> <p>【平成30年度の成果】 初めての試みであったが、目標値であった20人を上回ることができた。講座終了後の受講生へのアンケート調査からも、サテライトでの講座の実施回数を増やしてほしいなど、サテライトを利用した各種講座への期待の声が聞かれた。</p> <p>【課題】 サテライト会場を設けることで学びの場を増やすことができているが、現スタッフの人数・勤務状況などの理由から、メイン・サテライトの両会場での運営が難しいのが現状である。ボランティアスタッフを積極的に募る等の工夫が必要である。</p> <p>評価</p> <p>本年度は、「新未来とくしま講座」においてサテライトオフィスを活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。</p> <p>取組状況 (H30年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>26</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>130.0%</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】 初めての試みであったが、目標値であった20人を上回ることができた。講座終了後の受講生へのアンケート調査からも、サテライトでの講座の実施回数を増やしてほしいなど、サテライトを利用した各種講座への期待の声が聞かれた。</p> <p>【課題】 サテライト会場を設けることで学びの場を増やすことができているが、現スタッフの人数・勤務状況などの理由から、メイン・サテライトの両会場での運営が難しいのが現状である。ボランティアスタッフを積極的に募る等の工夫が必要である。</p> <p>評価</p> <p>本年度は、「新未来とくしま講座」においてサテライトオフィスを活用した講座を全4回実施し、昨年度以上の受講者に学びの場を提供する計画である。また、積極的な広報活動を心がけ、メイン会場以外の場でも受講できることを発信していく必要がある。</p> <p>今後の取組方針</p> <p>連携指定校に向けて、「京都大学の連携事業」の周知等をきめ細やかにを行い、積極的な参加を促す。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	26	26					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	26	26					130.0%	20
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																										
26	26																														
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																								
26	26					130.0%	20																								

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針
114	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	若者による未来志向のアイデアの創出	<p>■地方創生に貢献する人材の育成</p> <p>■地域が抱える課題に対する高校生ならではの解決を図る活動の充実</p> <p>□スーパーオンリーワンハイスクール事業実施校のうち、各分野の全国大会・コンクールでの入賞数(再掲)</p> <p>10 5 0</p> <p>基準値(H29) H30 H31・R1 R2 R3 R4</p>	<p>新商品の開発や地域の活性化など、高校生による課題解決を図る活動を重視し、地域社会に向けた成果の普及・発信の充実に取り組みます。【改善】</p> <p>4月に事業説明会を実施し、目的や内容をていねいに説明するとともに、学科や校種を問わず広く応募してもらえようとする環境の設けに努めた。また、実施校には、事業成果を全国に発信するため、全国規模の大会やコンクールへの出場申請をはじめ、HPへの掲載や新聞等への情報発信を図るよう実施要項にも記載した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国高校生クリエイティブコンテスト(佳作) ・循環型社会形成推進功労者環境大臣表彰 ・1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」奨励賞 ・高校生ビジネスプラン・グランプリ審査員特別賞 	<p>【平成30年度の成果】合計10校の応募があり、実施校はその取組内容や継続性、プレゼンテーション技術の向上がみられ、入賞実績も増加した。</p> <p>【課題】毎年10校程度の応募校で推移している。また、応募校が固定化傾向にあるので、県下の多くの学校が学科や校種を問わず広く応募できるように留意する必要がある。</p>
			<p>■地方創生に貢献する人材の育成</p> <p>■学校間連携・生徒間協働による6次産業化教育の推進</p> <p>□6次産業化商品のプロデュース数(累計)(再掲)</p> <p>30 20 10 0</p> <p>基準値(H29) H30 H31・R1 R2 R3 R4</p>	<p>【平成30年度の成果】県下3地域における農業科、工業科、商業科設置校等の連携により、昨年までにプロデュースされた商品を踏まえ、6次産業化商品(県央：洋菓子、県南：ゆこうドラ焼き、県西：アロマ石けんと)をプロデュースし、新たな商品の試作に取り組みとともに、一部の開発で販売への展開を進めることができた。</p> <p>【課題】商品化を行っても販売量を確保するための原材料の確保が難しいこと、生産する学校施設における製造の営業許可が限定されているため、商品化に制限があることなど、生産面、販売面での工夫が必要である。</p>	<p>【課題】毎年10校程度の応募校で推移している。また、応募校が固定化傾向にあるので、県下の多くの学校が学科や校種を問わず広く応募できるように留意する必要がある。</p>
115	徳島を愛する心の育成と「こくしま回帰」の促進	若者による未来志向のアイデアの創出	<p>■地方創生に貢献する人材の育成</p> <p>■学校間連携・生徒間協働による6次産業化教育の推進</p> <p>□6次産業化商品のプロデュース数(累計)(再掲)</p> <p>30 20 10 0</p> <p>基準値(H29) H30 H31・R1 R2 R3 R4</p>	<p>新商品の開発や地域の活性化など、高校生による課題解決に向けた取組を支援します。【継続】</p> <p>徳島ならではの生産物をテーマに、県下各3地域で展開。県央では「阿波藍」をテーマに、城西高校、徳島科学技術高校、徳島商業高校、県南では「ゆこう」をテーマに、小松島西高校勝浦校、新野高校、阿南工業・阿南光高校、富岡東高校、県西では「アロマオイル」をテーマに、池田高校三好校・辻校、つるぎ高校での学校間連携により、生産・商品開発・加工・販売について協働活動・情報交換を行い、各目の専門性を学んだ立場から、6次産業化商品のプロデュースに取り組んだ。</p>	<p>【平成30年度の成果】県下3地域における農業科、工業科、商業科設置校等の連携により、昨年までにプロデュースされた商品を踏まえ、6次産業化商品(県央：洋菓子、県南：ゆこうドラ焼き、県西：アロマ石けんと)をプロデュースし、新たな商品の試作に取り組みとともに、一部の開発で販売への展開を進めることができた。</p> <p>【課題】商品化を行っても販売量を確保するための原材料の確保が難しいこと、生産する学校施設における製造の営業許可が限定されているため、商品化に制限があることなど、生産面、販売面での工夫が必要である。</p>

33	推進項目 徳島を愛する心の育成と「とくしま回帰」の促進	<p>施策の方向性 とくしま回帰の促進</p> <p>■施策・□成果指標 本県産業を担う人材の育成 ■県内企業の魅力や技術の理解促進 □高校におけるインターンシップの実施率(全日制・定時制)(再掲)</p> <p>担当課 学校教育課</p>	<p>事業目的 とくしまをベースに働くことを学びの方向性となげ力を育成するとともに、生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るため、インターンシップの実施をはじめ、組織的・体系的なキャリア教育を推進し、学校での教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成に取り組みます。【継続】</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97.6</td> <td>100</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>100</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】生徒の社会的・職業的自立に向けた基礎的な能力の向上や勤労観・職業観の育成を図るキャリア教育の重要性に対する理解が深まった。</p> <p>【課題】新学習指導要領(平成30.3)を踏まえ、組織的・体系的なキャリア教育をより一層推進する必要がある。</p> <p>今後の取組方針 各種事業の研究校における成果について、校内外に対して広く普及を図る。高校生インターンシップ促進の一環として、「県立施設におけるインターンシップ促進事業」の活用を推進するとともに、いわゆる「アカデミック・インターンシップ」の充実を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	97.6	100					100.0%	100	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
97.6	100					100.0%	100													
番号	116	<p>施策の方向性 とくしま回帰の促進</p> <p>■施策・□成果指標 本県で働きたい教員の「とくしま回帰」の促進 ■優秀な教員を確保するための、県内外の大学における教員採用に係る説明会の開催 □県内外大学における教員採用に係る説明会の開催数(再掲)</p> <p>担当課 教職員課</p>	<p>事業目的 教員採用審査において、他県の現職教職員を対象とした特別選考を実施するとともに、県外の大学と連携した採用審査に係る説明会の開催等、積極的な広報を展開することにより、本県で働きたい教員の「とくしま回帰」の促進を図ります。【継続】</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>19</td> <td>20</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>20</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】平成24年度からこれまで優秀な教員の確保のため、大学での説明会の回数を拡充してきた。その結果、志願者は平成29年度実施の採用審査では受審者が5年ぶりに増加し、平成30年度実施の採用審査では、受審者は減少したものの、微減にとどまっております。</p> <p>【課題】説明会への参加者の多くが当該年度受審予定の4回生であり、今後の志願者数の継続的な確保のためにも、1～3回生の参加者が増えるよう、更に改善を図る。また、特定の教科・科目における志願者確保が喫緊の課題となっていることから、さらなる取組を実施しなければならない。</p> <p>今後の取組方針 引き続き、教員養成系の大学を中心に訪問しての説明会を開催するなど、積極的な広報活動を行い、優秀な人材の確保に努める。また、新たに作成した「教員募集PR動画」の積極的な活用も図っていく。さらに、教員を目指す学生により早い段階からアプローチできるよう大学とへの働きかけを強めるとともに、教員養成系以外の大学・学部等での説明会の回数を今後更に増やし実施する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	19	20					100.0%	20	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
19	20					100.0%	20													

番号	118	推進項目	徳島を愛する心の育成と「ごくしま回帰」の促進	施策の方向性	世界遺産登録への挑戦	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>四国八十八箇所霊場と遍路道</p> <p>■ 国史跡の追加指定等の計画的な推進</p> <p>□ 札所寺院の国史跡追加指定に向けた意見具申</p>	<p>事業目的</p> <p>世界遺産登録に向けた課題である資産保護のため、国史跡の追加指定等を計画的に進めるとともに、「顕著な普遍的価値」の証明に向けた取組を加速します。【新規】</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>																
						<p>○ 極楽寺と平等寺の総合調査と測量を実施した。</p> <p>○ 牟岐町から海陽町にかけての遍路道「東寺道」18kmの調査を実施した。</p>	<table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>意見具申</td> <td>意見具申</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>意見具申</td> </tr> </table> <p>(単位：－)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	意見具申	意見具申						意見具申	<p>【平成30年度の成果】板野町の大日寺境内・地藏寺境内について、史跡指定に向けて意見具申した。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																	
意見具申	意見具申						意見具申																	
						<p>評価</p>	<p>【課題】史跡指定を進めるとともに、顕著な普遍的価値の証明の議論を進める。</p>																	
						<p>今後の取組方針</p>	<p>札所寺院、遍路道の調査を進め、条件が整ったところから意見具申していくとともに、普遍的価値の証明についての議論を深めていく。</p>																	
番号	119	推進項目	徳島を愛する心の育成と「ごくしま回帰」の促進	施策の方向性	世界遺産登録への挑戦	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>鳴門の渦潮</p> <p>■ 「鳴門の渦潮」の世界遺産登録の推進</p> <p>□ 世界遺産登録に向けた取組の推進</p>	<p>事業目的</p> <p>徳島県のみならず、日本を代表する景勝地である「鳴門の渦潮」について、その魅力と価値を世界に向けて発信し、人類全体の守るべき宝として後世に引き継いでいくため、世界遺産登録に向けた取組を推進します。【新規】</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p>																
						<p>平成30年5月、兵庫・徳島両県の合同開催による「学術調査委員会」を初めて開催し、世界遺産登録に向けた今後の方向性について意見交換を行った。また、平成30年10月には、「顕著な普遍的価値」を証明するため「追加・本格調査」の中間報告を行い、平成31年3月に調査報告をとりまとめた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>学術調査の実施</td> <td>調査</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>調査</td> </tr> </table> <p>(単位：－)</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	学術調査の実施	調査						調査	<p>【平成30年度の成果】平成29年度から開始した「追加・本格調査」報告をとりまとめた。</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																	
学術調査の実施	調査						調査																	
						<p>評価</p>	<p>【課題】「基礎的調査」「追加・本格調査」報告を受け、世界遺産登録に向けた「顕著な普遍的価値」を証明するための理論を構成し、「世界遺産暫定一覧表」の記載に向けた「提案書」を作成していく必要がある。</p>																	
						<p>今後の取組方針</p>	<p>平成31・令和元年度に「世界遺産暫定一覧表」記載に向けた「提案書」を作成する予定である。</p>																	

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針																					
120	徳島を愛する心の育成と「こくしま帰郷」の促進	施策の方向性 世界遺産登録への挑戦	<p>■「鳴門の渦潮」講座の開催</p> <p>□小・中学生向け講座の実施回数(累計)</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>「鳴門の渦潮」について、自然的・文化的側面からの学術調査を進め、「鳴門の渦潮」が世界に誇る「顕著な普遍的価値」を証明するとともに、学術調査によって得られる様々な知見を、「鳴門の渦潮学」として児童生徒が学ぶ機会を設けることにより、地域の歴史や文化を理解し、徳島を愛する心の育成を図ります。 【新規】</p> <p>鳴門市、地元団体等と連携し、「鳴門の渦潮」の歴史的・文化的価値を学ぶ学習イベントを実施した。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="5">(単位:回)</td> </tr> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>準備</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>5</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】計5回の講座で約120人の児童生徒の参加があり、これまで知られていなかった「鳴門の渦潮」に関する知見を伝えることができた。</p> <p>【課題】学校における講座だけでなく、児童生徒が多数参加できる機会を捉えて講座を実施していく必要がある。</p> <p>「鳴門の渦潮」の歴史的・文化的価値を次世代に継承していくため、地元・鳴門市の児童生徒はもとより、県内の児童生徒に対する普及啓発活動を実施していく。</p> <p>今後の取組方針</p>	(単位:回)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	5					100.0%	5
(単位:回)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																		
準備	5					100.0%	5																		
121	徳島を愛する心の育成と「こくしま帰郷」の促進	施策の方向性 世界遺産登録への挑戦	<p>■施策・□成果指標</p> <p>板東俘虜収容所関係資料</p> <p>■「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ □「世界の記憶」登録に向けた、機運醸成、魅力発信</p> <p>□「世界の記憶」登録に向けた取組の推進</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>「板東俘虜収容所関係資料」のユネスコ「世界の記憶」登録を推進するため、シンポジウムを開催するなど、機運醸成の取組を継続します。また、高等学校等での出前授業の開催や4Kデジタルコンテンツ等を活用して、我が国が世界に誇るべき板東俘虜収容所の歴史が持つ魅力を、国内はもとより世界に向けて発信します。 【継続】</p> <p>東京都内(渋谷区Bunkamura BOXギャラリー)・京都市内(京都文化博物館別館ホール)において、周知広報のため、板東資料の実物の特別展示会を開催した。また、これまでに作成した広報資料(ポスター、パンフレット、動画コンテンツ)などを多言語化し、ドイツ国内の巡回展でも利用してもらうなど広範囲での活用を図った。さらに、出張授業など県内への周知も継続して実施した。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="5">(単位:ー)</td> </tr> <tr> <td>基準値(H29)</td> <td>H30</td> <td>H31・R1</td> <td>R2</td> <td>R3</td> <td>R4</td> <td>達成率(H30)</td> <td>目標値(H30)</td> </tr> <tr> <td>準備</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </table> <p>【平成30年度の成果】県外での特別展示では、京都での記念演奏会も含めて、計15日間で5,200名を超える来場者を記録し、県外のマスコミにも取り上げられるなど、大いに周知広報の成果があった。多言語化した広報資料については、ドイツ国内6都市を巡回する巡回展で活用いただいた。出張授業は3校650名以上の生徒を対象に実施した。</p> <p>【課題】周知・広報については、板東資料について特に県外・国外についてはまだ十分とは言えないことから、ユネスコ申請・登録のタイミングまで今後も継続していく必要がある。また、申請登録については、ユネスコの制度改革が進められていることから、当初のスケジュールより遅れており、引き続きユネスコの動向に対応していくかなければならない。</p> <p>令和元年度には、日独協力の一環として、ドイツで実施した展示会を県内・県外でも実施し、周知・広報を継続していく。申請については、ユネスコの制度改革が2019年中には完了することから、申請受付が2020年となることが見込まれている(時期の詳細は不明)。ユネスコの動向に対応できるように、申請書の準備を進める。</p> <p>今後の取組方針</p>	(単位:ー)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	推進						推進
(単位:ー)																									
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																		
準備	推進						推進																		

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																												
122	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体感できる環境づくり	英語力の向上 ■新しい教育課程に対応した英語教育の充実を図るための、小学校英語専科教員の配置促進 □小学校英語専科教員の配置人数  <table border="1" data-bbox="438 1400 726 1870"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	10	13					事業目的 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、英語教育の充実を図り、児童の英語によるコミュニケーション能力の育成を推進するため、小学校における英語専科教員の配置を促進します。【新規】 取組状況 (H30年度分) ○ 英語専科教員を13名配置し、32校で指導を行った。 ○ 英語教育に関する校内研修の中核としての役割を担うとともに、複数校で兼務することによって、多くの児童への質の高い学びの機会を提供することができた。 (単位：人) <table border="1" data-bbox="438 369 502 1220"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10</td> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>108.3%</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【平成30年度の成果】英語免許取得者を配置することで、質の高い学びの機会を提供することができた。また、学力面での、中一ギャップの解消の一助となった。 今後の取組方針 【課題】小学校教諭の中に、英語免許等、英語専科教員に求められる所定の資格保有者が少ないことや、小規模校の多い本県では単独校への配置が少なく、英語専科教員の多くが複数校を兼務しており、負担が大きい。小学校教員を目指す者が、英語専科教員に求められる所定の資格を取得するよう、大学等の関係機関に働きかける。また、小学校英語教育の充実を図るため、小学校教員採用審査受審者の資格保有者の増加を目指すとともに、中学校英語教員の小中学校間の人事交流を継続して進め、計画的な英語専科教員の配置を推進する。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	10	13					108.3%	12
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
10	13																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
10	13					108.3%	12																									
123	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体感できる環境づくり	英語力の向上 ■小学校英語教科化に伴う専門性向上のための研修の充実 □英語教育充実のための研修における小学校教員の受講者数(累計)(再掲)  <table border="1" data-bbox="949 1400 1348 1870"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>436</td> <td>679</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	436	679					事業目的 小学校英語教育が教科化・早期化することを踏まえ、英語教育の専門性向上のための研修を充実します。【新規】 取組状況 (H30年度分) 「出前！小英ヘルプデスク」を立ち上げ、小学校外国語教育を発展・充実させる上での課題や小学校外国語教育に携わる教員の不安要素についてサポートを行った。小学校教員の英語力及び指導力向上に特化した「英語中核教員研修A(小学校)」を実施し、各基本研修においては模擬授業や演習等を実施するなど、小学校教員の英語力や指導力の向上を図った。 (単位：人) <table border="1" data-bbox="1093 369 1157 1220"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>436</td> <td>679</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>117.1%</td> <td>580</td> </tr> </tbody> </table> 評価 【平成30年度の成果】ほとんどの地域で「出前！小英ヘルプデスク」を実施し、多くの参加があった。悩みに対して指導主事と直接、協議することで改善が図られ、近隣の中学校英語担当教員も参加したことで、小・中連携を図ることができた。 【課題】学習指導要領改訂に伴う英語教育大改革を受け、小学校教員は新設された英語科の指導に強い不安感をもっている。小学校教員の多岐にわたる悩みや課題を解決するための研修を負担軽減も考えながら実施することが必要である。 今後の取組方針 新学習指導要領のねらいを踏まえた授業が実施できるように、授業改善及び英語指導力向上を図るため、発音トレーニングを取り入れた研修を実施します。また、英語教育に携わる教員の力量をアップし、県内のすべての児童の発信力強化のため、小中高連携に取り組み。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	436	679					117.1%	580
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
436	679																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
436	679					117.1%	580																									

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																																								
124	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体感できる環境づくり	英語力の向上 ■英語4技能の総合的でバランスのとれた育成 □求められる英語力を有する生徒の割合 中学校3年生 英検3級程度以上 高等学校3年生 英検準2級程度以上 	事業目的 取組状況 (H30年度分)	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 小・中・高等学校において英語教育の指導改善を図るため、各学校における学習到達目標を「CAN-DO リスト」形式で具体化し、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能の総合的でバランスのとれた育成に取り組む、児童生徒の英語力向上を図ります。【新規】 「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標については、中・高等学校では全校で設定済みであり、現在はいずれの公表や達成状況の把握を進めている。小学校に関しては、過去の研究開発で作成した小学校向けの「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標及び同じ校区の中学校で作成した「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を参考に、作成の準備を進めた。また、「先進とくしま『世界とつながる英語力』育成事業において、教員及び生徒の英語力の向上を図った。 (単位: %) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47</td> <td>52</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>104.0%</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>41</td> <td>45</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>90.0%</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の設定・活用の促進や、教員及び生徒の英語力の向上を図る事業の成果で、中3・高3ともに基準値より伸びを見せ、特に中3では目標を達成することができた。 【課題】高等学校での取組の強化と、平成30年度で終了した「先進とくしま『世界とつながる英語力』育成事業」の成果の活用が課題である。 中・高等学校では、各学校による「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の活用を進め、小学校では、全校で「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標を設定する。高等学校の取組を強化し、生徒の英語力の更なる向上を図るために、「CAN-DO リスト」形式の学習到達目標の達成状況の把握による評価と指導の更なる一体化を進める。また、中・高等学校ともに、生徒の英語力の評価の際には、「先進とくしま『世界とつながる英語力』育成事業」のこれまでの結果を参照する視点を取り入れるよう意識付けを図る。 英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成など、日本人としてのアイデンティティの確立を図り、広く社会へ目を向け国際協調の精神を育むため、小・中・高等学校の発達段階に応じた英語体験プログラムをメニューとする Tokushima 英語村プロジェクトにより、児童生徒が世界を体感する場を提供します。【改善】 小学校5・6年生 「ALTとくしまに徳島を学ぶダイカンプ」 84名参加 中学校 「イングリッシュ・キャンプ」 42名参加 (悪天候により1回中止) 高等学校 「徳島サマースクール」 30名参加 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>154</td> <td>310</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>92.8%</td> <td>334</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】小学校5年生から高校生の児童生徒に、外国人と交流し生きた英語を使う機会を提供した。また、児童生徒が徳島県の魅力を再発見し、その感動を外国人と共有することを促すような、特色のある内容のプログラムを実施することができた。 【課題】英語体験プログラムの内容を、小・中・高等学校の発達段階を適切に反映したものになるよう、常にコンテンツの見直しと改良を図り、より参加者のニーズに応えられるようにする必要がある。 令和2年度より本格実施される小学校3・4年生の外国語活動を見据え、小学校3・4年生向けに新たに英語で外国人と交流し、世界を体感する場を提供するとともに、中学生・高校生向けの内容も改良に向けて検討を進めることを予定している。また、悪天候や異常気象の影響を受けにくい運営を考えていく。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	47	52					104.0%	50	41	45					90.0%	50	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	154	310					92.8%	334
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																						
47	52					104.0%	50																																						
41	45					90.0%	50																																						
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																						
154	310					92.8%	334																																						
125	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	徳島発、世界を体感できる環境づくり	■施策・□成果指標 生きた英語に触れる機会の創出 ■発達段階に応じた生きた英語に触れる機会の創出 □児童生徒が世界を体感する英語体験プログラムへの参加者数(累計) 	事業目的 取組状況 (H30年度分)	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針 英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や能力の育成など、日本人としてのアイデンティティの確立を図り、広く社会へ目を向け国際協調の精神を育むため、小・中・高等学校の発達段階に応じた英語体験プログラムをメニューとする Tokushima 英語村プロジェクトにより、児童生徒が世界を体感する場を提供します。【改善】 小学校5・6年生 「ALTとくしまに徳島を学ぶダイカンプ」 84名参加 中学校 「イングリッシュ・キャンプ」 42名参加 (悪天候により1回中止) 高等学校 「徳島サマースクール」 30名参加 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>154</td> <td>310</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>92.8%</td> <td>334</td> </tr> </tbody> </table> 【平成30年度の成果】小学校5年生から高校生の児童生徒に、外国人と交流し生きた英語を使う機会を提供した。また、児童生徒が徳島県の魅力を再発見し、その感動を外国人と共有することを促すような、特色のある内容のプログラムを実施することができた。 【課題】英語体験プログラムの内容を、小・中・高等学校の発達段階を適切に反映したものになるよう、常にコンテンツの見直しと改良を図り、より参加者のニーズに応えられるようにする必要がある。 令和2年度より本格実施される小学校3・4年生の外国語活動を見据え、小学校3・4年生向けに新たに英語で外国人と交流し、世界を体感する場を提供するとともに、中学生・高校生向けの内容も改良に向けて検討を進めることを予定している。また、悪天候や異常気象の影響を受けにくい運営を考えていく。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	154	310					92.8%	334																								
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																																						
154	310					92.8%	334																																						

番号	126	推進項目 世界に羽ばたくグローバル人材の育成	施策の方向性 徳島発、世界を体感できる環境づくり	<p style="text-align: center;">■ 施策・成果指標</p> <p>グローバル・リーダーの育成</p> <p>■ 持続可能な社会の発展に貢献し得るグローバル・リーダーの育成</p> <p>□ 海外の学校等との交流校延べ数(中学・高校)</p> <p style="text-align: center;">担当課 グローバル・文化教育課</p>	<p style="text-align: center;">事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>「教育交流に関する協定」を締結しているドイツ・ニーダーザクセン州や台湾・新竹市など、海外の学校からの教育旅行の受入や学校間のパートナーシップ協定締結等を促進することにより、教育、文化、スポーツ等の幅広い分野において児童生徒の交流の機会を拡充し、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際感覚の育成を推進します。【改善】</p> <p>海外の学校とのパートナーシップ協定に基づく学校間交流やアジア諸地域等からの教育旅行を受入れた。 海外からの訪問を受けた学校数 9校 海外の学校等へ訪問した学校数 15校</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(単位: 校)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>22</td> <td>24</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】これまで行ってきた姉妹校やパートナーシップ協定締結校との交流は安定して継続されているところに加え、新しくドイツ・ニーダーザクセン州や台湾の学校との交流を始められるよう経費支援を行ったことで、それをきっかけに交流する学校が増えた。</p> <p>【課題】更なる交流の活性化や拡大を目指すためには、訪問や受入れにかかる予算を今まで以上に効率的に活用していく必要がある。また、特に受入れについてはホストファミリーが見つかりにくいなど地域や学校ごとの課題もある。</p> <p>交流に関わる費用については、事業の内容についての周知を徹底し積極的に活用してもらおう。また、受入れを行う際に役立つ資料の提供など、学校が安心して交流に臨めるよう支援する。</p>	(単位: 校)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	22	24					100.0%	24
(単位: 校)																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																			
22	24					100.0%	24																			
番号	127	推進項目 世界に羽ばたくグローバル人材の育成	施策の方向性 徳島発、世界を体感できる環境づくり	<p style="text-align: center;">■ 施策・成果指標</p> <p>帰国・外国人児童生徒に対する日本語指導</p> <p>■ 日本語講師の派遣や指導者研修会の開催による、帰国・外国人児童生徒に対する教育支援</p> <p>□ 学校への日本語講師の派遣</p> <p style="text-align: center;">担当課 グローバル・文化教育課</p>	<p style="text-align: center;">事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>大学や各種団体等とのネットワークを構築することで、日本語指導者や通訳等、県内の有能な人材を有効に活用し、学校へ日本語講師を派遣するなど、日本語指導が必要な児童生徒に対する支援を行います。また、市町村と連携を図り、正しい日本語指導を行うことで、帰国・外国人児童生徒が早く学校生活に適應し、学力を向上させることができよう支援するとともに、帰国・外国人児童生徒と共に学ぶことにより、学級の他の児童生徒も異文化に対する相互理解を深め、豊かな国際感覚を養うことができよう、学習活動の工夫・改善に取り組みます。【改善】</p> <p>要望があった学校へ日本語講師を派遣し、日本語指導が必要な児童生徒への効果的な日本語教育を行った。また、日本語講師や教職員に指導のノウハウを教える研修を行った。</p> <p>日本語講師派遣 支援要請に対する充足率100% 指導者研修会 年2回開催</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="5" style="text-align: center;">(単位: 一)</th> </tr> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】市町村と連携した日本語講師派遣事業の実施については、支援要請があった全ての学校に対して講師及び通訳を派遣することができた。また、大学や各種団体と連携することで、教員や日本語講師対象の研修会の質を高めることができた。</p> <p>【課題】県西部や県南部の学校からの支援要請に対して派遣できる日本語講師が少なく、講師の安定的な確保に課題がある。昨年の入法改正を受け、今後外国人児童生徒の増加も見込まれるため、一層の支援体制の充実が必要である。</p> <p>大学や各種団体等とのネットワークを生かして、日本語講師の確保に努める。また、年2回実施している日本語指導に関する教員や日本語講師等への研修内容を毎年見直しして改善したり、保護者や教員向けのホームページの内容を随時更新したりすることにより、支援の充実を図る。</p>	(単位: 一)					基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進						推進
(単位: 一)																										
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																			
推進	推進						推進																			

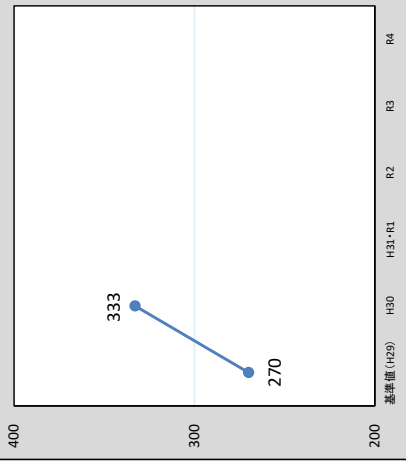
番号	130	推進項目	世界に羽ばたくグローバル人材の育成	施策の方向性 科学の魅力を体験し、世界に挑戦	■施策・□成果指標 科学技術の未来を切り拓く人材の育成 ■鳴門教育大学との連携協定に基づく取組による、本県教育の充実・発展 □鳴門教育大学との連携（再掲）	事業目的	小・中学生の科学的思考力や論理的思考力、情報活用能力を育み、科学技術分野で社会を牽引する人材を育成するため、県内高等教育機関（徳島大学、鳴門教育大学、徳島文理大学、四国大学、阿南工業高等専門学校）と連携を図り、専門研究における探究活動を取り入れた教育機会を提供します。【新規】	取組状況（H30年度分）	鳴門教育大学を中核機関として開催された徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」において、県内高等教育機関と連携しながら、理数・技術（情報）領域に興味を持ち、将来の科学技術者としての人材の発掘・養成を行った。	基準値(H29) 推進 H30 48.6 H31・R1 R2 R3 R4 達成率(H30) 99.2% 目標値(H30) 49.0 推進	評価	【平成30年度の成果】徳島県高等教育機関連携型「ジュニアドクター発掘・養成講座」に参加した児童・生徒たちが、科学作品展やその他の取組に積極的に参加し、それぞれの場面で優秀な成績を修めた。 【課題】県内の児童・生徒の資質・能力の育成を図るため、これまでの取組の成果等を普及する必要がある。	今後の取組方針	初等中等教育段階から継続的に理数・技術（情報）領域に優れた児童・生徒たちを育成するため、教員の資質・能力を高めるため、「ジュニアドクター発掘・養成講座」を研修の場として活用する。	番号	131	推進項目	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界で活躍するスポーツ王国とくしまづくり	■施策・□成果指標 競技力の向上 ■各競技の底辺拡大と国際大会や全国大会で活躍するトップアスリートの育成 □県高等学校総合体育大会生徒参加率	事業目的	2022年に四国で開催予定の全国高校総体を見据え、全国大会等で活躍する運動部の育成・強化に努めるとともに、各競技の底辺拡大により選手確保を図ります。【新規】	取組状況（H30年度分）	「徳島トッパススポーツ校育成事業」において、公立高校20校の36部を指定し、指導者の配置や、指定枠による有力選手の確保、遠征費等の強化費支援を行ったほか、「中学校トッパススポーツ競技育成」において競技専門部を対象として、中学から高校へ継続して選手を発掘、育成、強化する取り組みにより、生徒数が300名弱減少する中、運動部活動の登録数は100名程度の減少であったため、県総体生徒参加率は増加した。	基準値(H29) 47.2 H30 48.6 H31・R1 R2 R3 R4 達成率(H30) 99.2% 目標値(H30) 49.0	評価	【平成30年度の成果】今後、県総体での活躍が期待される1、2年生の部員が主体となる全国選手権大会、選抜大会等では、前年度を大幅に上回る個人・団体合計24の入賞（前年度6）があり、選手層の底上げが図られた。 【課題】令和4年度の四国ブロック全国高校総体に参加、活躍する選手のターゲットエイジは現在の中学生であり、高校の部活動で継続して育成強化するための更なる取組が必要である。	今後の取組方針	N E O 徳島トッパススポーツ校強化事業において、中学校には無い部活動や、新たな競技を知る機会として、競技団体を主体として、トッパススポーツ校での中学生との合同練習会を実施する。	担当課	体育学校安全課
----	-----	------	-------------------	---------------------------	---	------	--	--------------	--	--	----	--	---------	---	----	-----	------	--------------------------	--------------------------------	--	------	--	--------------	---	--	----	--	---------	--	-----	---------

番号	推進項目	施策の方向性	■施策・□成果指標	事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針																
132	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界で活躍するスポーツ王国とくしまづくり	競技力の向上 ■各競技の底辺拡大と国際大会や全国大会で活躍するトップアスリートの育成 □全国高等学校体育大会等の入賞(団体・個人)数 	事業目的 2022年に四国で開催する全国高校総体に向け、各競技団体と連携しながら、有力競技の集中強化やお家芸競技の創出に取り組み、国際大会や全国大会等で活躍するトップアスリートの育成・強化を図ります。【継続】 取組状況(H30年度分) 「徳島トッパススポーツ育成事業」において、公立高校20校の36部を指定し、指導者の配置や、指定枠による有力選手の確保、遠征費等の強化費支援を行ってきたほか、「渦潮スポーツアカデミー推進事業」によりスポーツ分野のリーダーシップアッププログラムを拠点とし、大学や関係団体と連携して、高校生アスリートへの医学的サポートや、指導者の科学的なサポートや、指導者の強豪校を招いてスポーツキャンプ等を実施した。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>47</td> <td>37</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>74.0%</td> <td>50</td> </tr> </tbody> </table> (単位：個人・団体) 評価 【平成30年度の成果】「全国高等学校総合体育大会」で個人・団体合計13、「国民体育大会」で個人・団体合計19、「全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」で個人・団体合計3、「全国高校定時制・通信制大会」で個人2で37の入賞結果となった。昨年度に比べ、以上の4大会での合計入賞数は減少したが、その他の全国選手権大会、選抜大会等では、個人・団体で合計24の入賞があり(前年度6)、ウェイトリフティングやライフル競技等、継続して成果を出せる競技が着実に育成されている。 今後の取組方針 【課題】平成30年度までの「徳島トッパススポーツ育成事業」では、強化指定校への有力選手の分散や、入賞できる競技が固定されつつあるという課題があり、指定校への集中強化や、新たな「お家芸競技」の創出等を目指す必要がある。 引き続き「渦潮スポーツアカデミー推進事業」により、鳴門渦潮高校の施設・設備を活用して県内選手の下上げを図るとともに、平成31年度からは新たに「NEO徳島トッパス高校強化事業」により、新たに24校45部を指定し、1競技1校指定による有力選手の集中強化、新たな「お家芸競技」の創出(カヌー、新体操、アーチェリー等6競技追加)や、有力な中学生を県内で中長期的に指導育成する仕組みづくりに取り組む。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	47	37					74.0%	50
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
47	37					74.0%	50													
133	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	世界で活躍するスポーツ王国とくしまづくり	競技力の向上 ■各競技の底辺拡大と国際大会や全国大会で活躍するトップアスリートの育成 □全国中学校体育大会の入賞(団体・個人)数 	事業目的 2022年に四国で開催予定の全国高校総体を見据え、早い段階での有力選手の見極め・育成を進めるため、活躍が期待できる競技を選考した上で中学校段階での指導体制強化を図ります。【新規】 取組状況(H30年度分) 「中学校トッパススポーツ育成事業」により、県中体連と連携し、7つの競技専門部(陸上競技、新体操、弓道、柔道、バスケケットボール、バレーボール、ソフトボール)を指定して、強化練習、指導者講習、強化合宿等に係る助成や支援を行った。また「あわさスポーツ・ブルーミング戦略事業」により、中体連加盟20競技において、補助金を配分し、強化練習会、指導者講習会等に係る助成を行った。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>38.5%</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> (単位：個人・団体) 評価 【平成30年度の成果】前年度と同数、団体2、個人3の入賞の成果があった。ベスト16には、7つの団体・個人が勝ち上っており、入賞まであと一步の状況に迫っている。 今後の取組方針 【課題】中学校スポーツにおいては、活動主体が各学校の部活動が中心であるため、学校単位の強化だけではなく、高校進学後を視野に入れた競技毎の強化も必要である。全国ベスト16に入っている競技についても更なる競技力の向上が求められる。 引き続き、県中体連競技専門部と連携し、トッパススポーツ競技の育成を推進する。(今年度の指定競技：陸上競技、新体操、弓道、柔道、剣道、バスケケットボール、ソフトボールの7競技)また、あわさスポーツ・ブルーミング戦略事業においても、中体連加盟競技に補助金を配分し支援を行う。	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	5					38.5%	13
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
5	5					38.5%	13													

番号	134	推進項目	国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性	世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	<p style="text-align: center;">■ 施策・□ 成果指標</p> <p>競技力の向上</p> <p>■ 鳴門渦潮高校を拠点校とした、高度で質の高いスポーツ教育による、本県スポーツ科学の普及・振興</p> <p>□ 全国大会等での鳴門渦潮高校の入賞(団体・個人)数(再掲)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">担当課 体育学校安全課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	5	5	5	5	5	5	<p style="text-align: center;">事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>スポーツ分野のリーディングハイスクールである鳴門渦潮高校において、充実した施設・設備の活用を一層推進するとともに、県外強豪校との対戦・交流や関係機関、大学との連携を密にし、スポーツ拠点校としての機能強化と、更なる競技力向上を図ります。【改善】</p> <p>「渦潮スポーツアカデミー推進事業」において</p> <ol style="list-style-type: none"> ユースアスリート科学サポート事業として、最新の呼気ガス分析装置や測定機器を活用し、大学や県トレナー協会、スポーツ栄養士協会との連携のもと、選手の体力を総合的に診断し、トレーナーや栄養士が、競技力向上に繋がる栄養指導や効果的な練習メニューのアドバイス等、医科学的なサポートを行い、受講者は241人に達した。 指導力スキルアップ事業として、中学校・高校の指導者に対して、運動生理学や運動心理学等の科学的理論に基づいた指導法に関する研修会を3回開催した。 スポーツ拠点校推進事業として、専攻実技8種目(女子サッカー、男子バスケット、硬式野球、陸上競技、柔道、女子ラグビー、男女ウエイトリフティング、男子剣道)に対して集中強化を図った。 Tokushimaスポーツキャンプ事業として、5競技専門部が県外の強豪チーム等を招へいし、合同練習等を実施した。 <p style="text-align: right;">(単位：団体・個人)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>100.0%</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】県大会レベルでは専攻実技8種目のうち5種目が優勝しており、全国では、女子ラグビーが団体や女子セvens等において活躍したほか、陸上競技は前年度から継続して入賞する競技として育成、強化が図られた。</p> <p>【課題】県大会では着実に優勝できる競技が育成されているが、全国大会で、安定して成果を出すために、技術面やメンタル面での更なる指導力、競技力が求められている。</p> <p>引き続き「渦潮スポーツアカデミー推進事業」の実施と内容の充実を図る。</p> <p>事業目的</p> <p>取組状況(H30年度分)</p> <p>評価</p> <p>今後の取組方針</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	5	5					100.0%	5
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																														
5	5	5	5	5	5																														
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																												
5	5					100.0%	5																												

137	推進項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界で活躍する「スポーツ王国とくしま」づくり	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>競技力の向上 ■ 女性アスリートの競技力向上と競技生活の延伸と活躍機会の創出 □ 女性アスリート支援セミナーの開催</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 スポーツ振興課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	—	8					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 女性アスリート特有の課題に対して、医科学サポートを中心とした支援プログラムのサポーター体制を構築することにより、競技力の向上はもとより、女性アスリートの競技生活の延伸や活躍機会の創出を図ります。 【新規】</p> <p>取組状況(H30年度分) 外部有識者による「あわ女アスリート医科学サポート委員会」を計3回、「あわ女アスリート医科学サポーターカンファレンス」を計8回開催した。また、トップアスリートや指導者を招聘した実技指導とセットで貧血や骨密度のボデイチェックを実施した。また、派遣サポートを行った。また、徳島大学と連携し、高校生女子選手に對する実態調査を実施した。 これらの取組と調査結果の一部をまとめた冊子を作成し、各校へ配付した。 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>—</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>200.0%</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】実態調査の実施により、多くの高校生女子選手が持つ課題の内容や抱え始めた時期を把握することができた。「あわ女アスリート医科学サポートカンファレンス」の開催により、延べ539名の受講者に対しサポートの重要性に関する理解を広げることができた。</p> <p>【課題】セミナーに参加した指導者並びに選手においては、女性アスリート特有の課題に対し、一定の理解が得られているが、今後も引き続きセミナーを開催し、より多くの指導者や選手に正しい知識・情報の提供を行っていく必要がある。また、高校生女子選手への実態調査から、3人に1人が何らかの課題を抱えており、60%が中学生までに課題を抱えていることが判明したため、より低年齢からの中学生へのサポートについて検討する必要がある。</p> <p>今後の取組方針 引き続き、女性アスリート特有の課題に関するセミナーの開催による正しい知識、情報の提供を行う。中学生女子選手を対象とした実態調査を実施するとともに、調査結果をもとに具体的なサポート方法を検討し、その結果を競技団体、学校等に周知する。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	—	8					200.0%	4
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
—	8																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
—	8					200.0%	4																									
138	推進項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 施策・成果指標</p> <p>本県文化芸術の普及・振興 ■ 文化芸術分野のリーディングハイクールである名西高校の成果発信による、本県文化芸術の普及・振興 □ 全国コンクール等での名西高校の入賞(団体・個人)数(再掲)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61</td> <td>115</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 グローバル・文化教育課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	61	115					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 本県における「あわ文化教育」の目標を達成するよう文化教育を推進し、児童生徒に豊かな情操や創造性を培い、学校における芸術文化活動の取組成果を発信します。【新規】</p> <p>取組状況(H30年度分) プロの芸術家や芸術系大学教員等による定期的な講習会を延べ31講座実施し、生徒のスキルアップと、教員の指導力を強化するとともに、地域の施設等での作品の展示会を開催し、地域全体の文化芸術に対する気運を高めた。 平成30年度の全国コンクール等での名西高校の入賞(団体・個人)実績数：音楽6 美術6 書道103 (単位：団体・個人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>61</td> <td>115</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>176.9%</td> <td>65</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】芸術家による講習会や実技指導の実施回数の増加等、指導の充実により各種大会等への入賞実績数も大きく伸びている。</p> <p>【課題】名西高校芸術科の更なる魅力発信と県下の中学校へ活動内容の周知を図る必要がある。</p> <p>今後の取組方針 平成30年度にスタートした、名西高校の音楽サポーター制度を令和元年度からは美術・書道にも拡充し、芸術サポーター制度として実施すること、文化の継承・発展に取り組みむ次世代アーティストの更なる育成に努めるとともに、全市町村教育委員会を通じて各中学校への周知を図る。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	61	115					176.9%	65
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
61	115																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
61	115					176.9%	65																									

139	推進項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>伝統文化や文化財の継承・保存 ■ 伝統文化や文化財の継承・保存に取り組む、次代の担い手の育成 □ 人形浄瑠璃伝承教室の参加者数(累計)(再掲)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,658</td> <td>1,689</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>担当課 文化資源活用課</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	1,658	1,689					<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 「ふるさと徳島」への誇りを持ち、郷土を愛する心を醸成するため、学校や保存団体による、「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」をはじめとする伝統文化・文化財の継承と活用に関する取組を支援します。【改善】</p> <p>取組状況(H30年度分) 登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」等を会場として阿波人形じょうりゅうり伝承教室を開催した。(2018年7/24、25、27、8/6、7、9、10の7日間開催、31名の小中学校生の参加) (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,658</td> <td>1,689</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>99.5%</td> <td>1,698</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】会場として登録有形文化財「徳島県立城北高等学校人形会館」を活用し、子供たちに本格的な芝居小屋での発表会を企画することができた。参加者の中から、平成30年11月18日に徳島県主催で実施された第3回ジュニア浄瑠璃フェスティバルに出演し、次世代後継者として県内外に存在感を示すことができた。</p> <p>【課題】参加者のアンケートで、「伝統文化を身近に感じることができたか」について「特に感じた・感じた」の回答が90%となり、また、新規参加者が12名と例年より多くの参加となった。</p> <p>今後の取組方針 公募期間の延長を図るとともに、学校における文化教育とリンクできるように教育機関との連携を強化する。また、参加者の習熟度を確認しながら、講師に各自のレベルに合わせた指導内容を取り入れてもらい、伝統文化の興味・関心を高められるよう、サポートする。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	1,658	1,689					99.5%	1,698
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4																											
1,658	1,689																															
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
1,658	1,689					99.5%	1,698																									
140	推進項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>芸術文化を体験する機会の創出 ■ 中学・高校生による芸術文化活動の取組成果の発信の支援 □ 徳島県中学校総合文化祭の充実</p> <p>担当課 グローバル・文化教育課</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況、評価、今後の取組方針</p> <p>事業目的 児童生徒が、美術や音楽など優れた芸術活動に触れたり、体験したりする機会を充実させるため、中学校文化連盟が主催する徳島県中学校総合文化祭を支援するとともに、全国高等学校総合文化祭や近畿高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭への生徒派遣などの取組を支援します。【新規】</p> <p>取組状況(H30年度分) 平成30年度より、私立中学校2校、道徳部会、総合的学習部会、特別活動部会が中学校文化連盟に加入し組織の拡充を図っている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推進</td> <td>推進</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>推進</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：一)</p> <p>【平成30年度の成果】徳島県中学校総合文化祭中央大会への来場者数は2,500名を超え、広く周知されてきている。また、全国高総文祭、近畿高総文祭への参加率も70%を越え、充実期を迎えている。</p> <p>【課題】徳島県中学校文化連盟が設立されて5年が経過し、今後、関連行事や中央大会への参加部門の拡大等、更なる拡充を進めていく必要がある。</p> <p>評価 徳島県中学校文化連盟、徳島県高等学校文化連盟と連携し、中高生の文化芸術に親しむ機会の拡充を図るとともに、文化芸術力を高め、全国に向けての発信を行う。</p> <p>今後の取組方針</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	推進	推進						推進												
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)																									
推進	推進						推進																									

番号 141	推進項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>芸術文化を体験する機会の創出</p> <p>■ 中学・高校生による芸術文化活動の取組成果の発信の支援</p> <p>□ 近畿高等学校総合文化祭の充実</p> <p>担当課 グローバル・文化教育課</p>	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>児童生徒が、美術や音楽など優れた芸術活動に触れたり、体験したりする機会を充実させるため、中学校文化連盟が主催する徳島県中学校総合文化祭を支援するとともに、全国高等学校総合文化祭や近畿高等学校総合文化祭、全国中学校総合文化祭への生徒派遣などの取組を支援します。【新規】</p> <p>第38回近畿高等学校総合文化祭の徳島県開催により他府県との文化交流や、仲間との切磋琢磨を通して貴重な経験や確かな技術を得られた。</p> <p>総合開会式入場者2,700名・総合開会式参加校20校、期間中参加部門19部門 関連イベント「高校生野外文化フェスティバル」入場者数300人・出演生徒140人</p> <p>(単位：—)</p> <table border="1" data-bbox="491 376 560 1227"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>準備</td> <td>開催</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>開催</td> </tr> </tbody> </table> <p>【平成30年度の成果】近畿高等学校総合文化祭を徳島県にて開催。県内外から6,500人の高校生が一堂に会して、総合開会式及び全19部門で日頃の成果を披露するとともに、他府県の高校生との交流が図られた。</p> <p>【課題】総合開会式で見せた高校生のすばらしいパフォーマンスや、各部門での活躍を小中学校へ周知する必要性がある。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	準備	開催						開催
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
準備	開催						開催													
取組状況 (H30年度分)	取組状況 (H30年度分)	評価 今後の取組方針	評価 今後の取組方針	<p>記録映像や記録集による周知を図ることにより、文化活動に取り組み小中学生の裾野拡大を目指し、次代へ繋がる「文化レガシー」として継承していく。</p>																
番号 142	推進項目 国際舞台で活躍するアスリート、アーティストの育成	施策の方向性 世界に輝く「あわ文化」の創造・発信	<p>■ 施策・□ 成果指標</p> <p>優れた芸術作品に触れ合う機会の創出</p> <p>■ 普及行事の実施による「あわ文化」の担い手の育成</p> <p>□ 文化の森総合公園文化施設普及事業の開催回数(再掲)</p>  <table border="1" data-bbox="1077 376 1145 1227"> <thead> <tr> <th>基準値(H29)</th> <th>H30</th> <th>H31・R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>達成率(H30)</th> <th>目標値(H30)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>270</td> <td>333</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>123.3%</td> <td>270回以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：回)</p> <p>各館で様々な普及行事を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近代美術館 55回 ・ 博物館 123回 ・ 21世紀館 37回 ・ 鳥居龍藏記念博物館 43回 ・ 文書館 57回 ・ 図書館 18回 <p>【平成30年度の成果】学芸員の調査研究の成果を活かし、「白亜紀の地層見学会」や「美術館で宿題そうだん会」、「古文書講座」など、楽しみながら学び、考え、知的探究を満たすことのできる場を提供した。</p> <p>【課題】幅広い世代を対象に、多様な学習機会を提供する必要がある。</p>	基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)	270	333					123.3%	270回以上	<p>事業目的と平成30年度の取組状況・評価、今後の取組方針</p> <p>文化の森総合公園各館において、資料の継続的な収集に努めるとともに、調査研究の成果を生かした展示及び普及教育活動を積極的に進めます。また、県内外の施設や民間との連携により、幅広い層の県民に親しまれる魅力ある企画展を開催します。【継続】</p>
基準値(H29)	H30	H31・R1	R2	R3	R4	達成率(H30)	目標値(H30)													
270	333					123.3%	270回以上													
取組状況 (H30年度分)	取組状況 (H30年度分)	評価 今後の取組方針	評価 今後の取組方針	<p>引き続き、幼児から成人・高齢者に至るまですべての世代を対象にした普及事業を実施するとともに、資料の収集に努め、各館が所蔵する作品や資料について、デジタルコンテンツとして効果的に活用することにより、利用促進を図る。</p>																

